

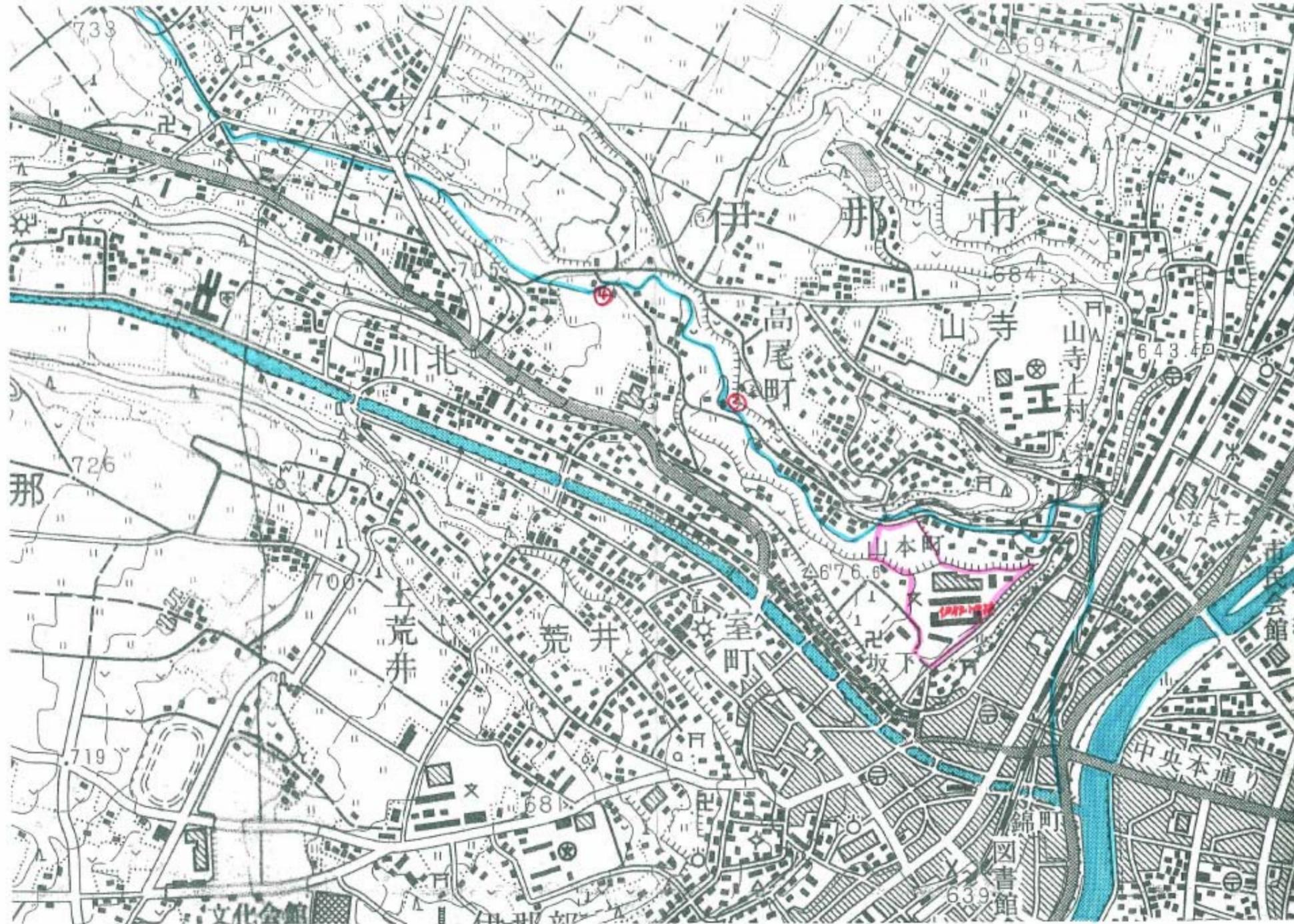
資料一8 伝承手法実施資料

天竜川上流域で実施した災害教訓伝承手法実施で使用した資料を以下にまとめる。

8-1. 災害教訓伝承授業

【3年生】

①11月18日 授業資料（鳥谷川周辺地図）





聞き取りちょうさ 平成20年11月25日(火)

伊那小学校3年忠組

1 聞き取った家 さん

2 あいさつ

おはようございます。私たちは、伊那小学校3年忠組です。今、鳥谷川のまわりをたんけんしています。そこで、平成16年10月20日の台風23号でふった雨と、平成18年7月16日からふった雨とで、どんなひがいを受けたのか調べています。ご協力をおねがいます。

3 聞き取り(平成16年10月20日の台風23号の時)

この時、鳥谷川がはらんして、このあたりが大変だったと聞きました。その時のひがいについてお聞きします。

- ①家の中のゆかの上までどろや水が入りましたか。 はい いいえ
- ②家の中のゆかの下までどろや水が入りましたか。 はい いいえ 深さ cm
- ③家の近くまでどろや水が来ましたか。 はい いいえ
- ④その他、こわれたりひがいを受けたことはありますか。
- ⑤ひなんはしましたか。 はい(どこへひなんしましたか))
いいえ
- ⑥この時、気をつけていたことはどんなことですか。

4 聞き取り(平成18年7月16日～21日までの集中ごう雨)

7月16日から21日まで雨がふりつづき、18日の夕方からは伊那小学校がひなん場所になりました。その時のひがいについてお聞きします。

- ①家の中のゆかの上までどろや水が入りましたか。 はい いいえ
- ②家の中のゆかの下までどろや水が入りましたか。 はい いいえ 深さ cm
- ③家の近くまでどろや水が来ましたか。 はい いいえ
- ④その他、こわれたりひがいを受けたことはありますか。
- ⑤ひなんはしましたか。 はい(どこへひなんしましたか))
いいえ
- ⑥この時、気をつけていたことはどんなことですか。

⑦大雨がふった時、気をつけていることはどんなことですか。

- ・鳥谷川や水路などの水の量をときどき確認する。
- ・テレビやラジオのニュースにちゅういしている。
- ・伊那市の有線や、こうほう(さいがい放送)を聞いている。
- ・その他()
- ・とくに何もしない。

ありがとうございました。

当時（平成16年）の鳥谷川の様子を見てみよう！

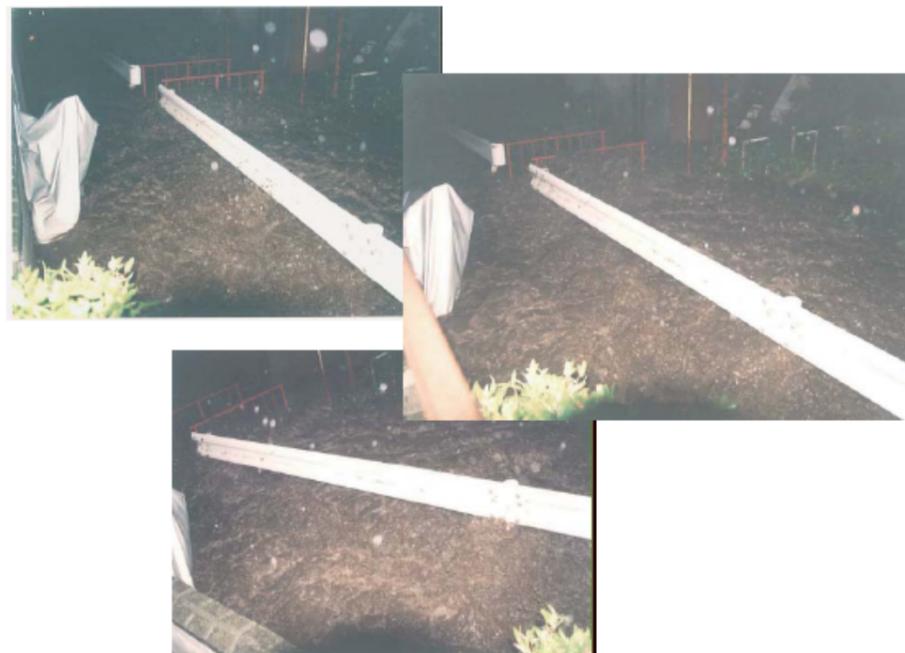
いつもの鳥谷川



中村カメラさんのおうちの様子



平成16年の大雨の時の鳥谷川



当時のことは新聞でもほうどうされたよ！

■信濃毎日新聞（平成16年10月22日）



商店がいのようす

■伊那毎日新聞（平成16年10月22日）



鳥谷川の様子



商店がいのお店の様子

③12月18日 現地見学会スケジュール

伊那小学校北澤学級 現地見学スケジュール

○ 日時：平成20年12月18日（木）

○ 時間：8：30～11：30

○ スケジュール

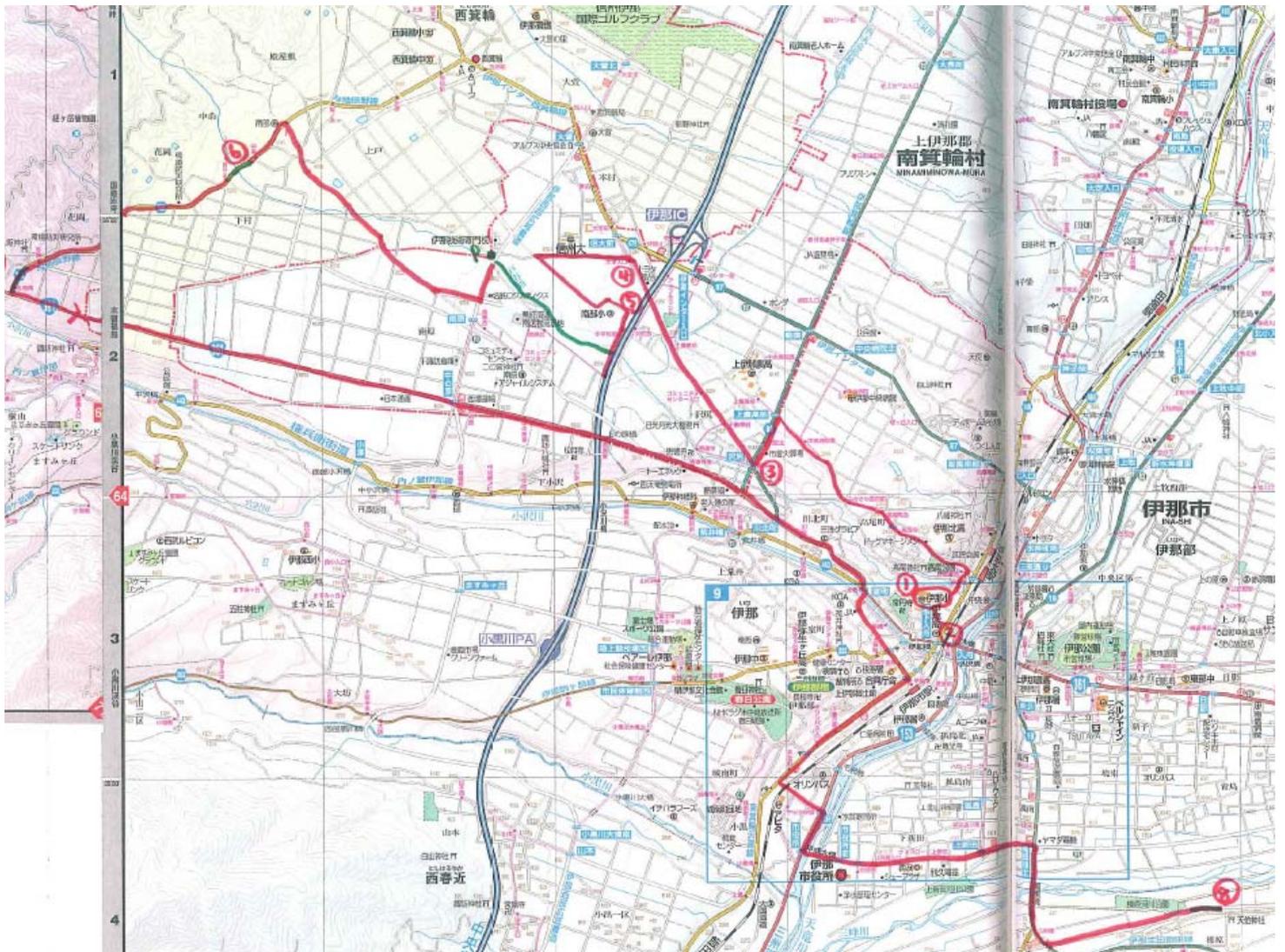
①	伊那小学校 出発式	8：30
②	伊那郵便局（上伊那農高前） 発	8：45
③	沢尻交差点	8：55
④	信州大学農学部牧場前	
⑤	南部小学校下車	9：05
徒歩 鳥谷川沢登り 野外観察		
⑤'	伊那技術専門学校	9：50
⑥	中条バス停	10：00
徒歩？（時間を見て判断）		
⑥'	南中条バス停	10：15
⑦	権兵衛トンネル手前パーキング	10：20
見学時間		
		10：35
⑧	三峰川榛原河川公園	10：50
	霞堤、聖牛見学（事務所説明）	11：15
⑨	伊那郵便局	11：30

○ ルート：別紙道路地図参照

※赤線 バス運行ルート 緑線 徒歩

- 駐車場：⑤～⑤' 伊那技術専門学校の駐車場
 ⑦ 権兵衛トンネル手前パーキング
 ⑧ 三峰川榛原河川公園内駐車場

授業資料 ・ 現地見学会用地図



堤防を探検しよう!

月 日

クラス

なまえ

あばれ天竜

昔の人はよく洪水を起こした天竜川を見て、まるで川の主である竜が暴れまわっているように思い、「あばれ天竜」と呼んで恐れていたんだよ。



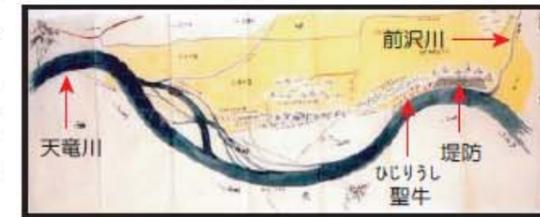
さくたていぼう 柵立堤防



柵立堤防が造られた地域は、天竜川に棚沢川が合流するところです。そして、対岸のここよりも少し上流には大泉川が合流しています。

大雨が降ると天竜川に合流する川からは、たくさんの水や崩れた山の土砂が押し出してくるので、この場所の川の流れはいつも変わっていました。高遠藩の郡代になった阪本天山は、数万人の労力と莫大な費用をかけ、自ら指揮をとって柵立堤防を築きはじめました。嘉永五年(1852年)には、大規模な柵立木工沈床工事を行いました。

りへていぼう 理兵衛堤防



理兵衛堤防が造られた地域は、天竜川に前沢川が合流するところです。いれまで起こったことのないような大災害が正徳五年(1715年)に起こり、村は荒廃し、土地を離れていく人もいました。大地主の理兵衛忠欣は、財産を投げうって堤防を造ることを決意し、子の常邑、孫の忠良へと工事が引き継がれ、58年間をかけて堤防を完成させました。

●理兵衛堤防の絵図

堤防を造ったときの気持ちを書いてみよう!

下の石碑を探してね、何て読むのかな?



こたえ _____

堤防を造ったときの気持ちを書いてみよう!

堤防の中段にそって造られているこのみぞは何だろう?



こたえ _____



●堤防をつくった阪元天山

「木工沈床」とは

材木を組んだ枠の中に玉石をつめて護岸の前面に沈め、堤防の根固めをする方法です。



●堤防をつくった理兵衛忠欣

「聖牛」とは

組み上げた丸太に蛇籠などをのせて川底にすえつけ、川の急な流れをおさえる方法です。



伊那市内で計画している激特工事

平成18年7月の豪雨出水により、諏訪湖周辺では浸水家屋2,541棟に及ぶ被害が生じ、JR中央本線や国道20号も37時間に渡り全面通行止めとなり、天竜川本川では、箕輪町松島地区の堤防が決壊する等、広い範囲に被害が生じました。

天竜川上流河川事務所では、このような状況をふまえ、今回の豪雨に対応する再度災害防止を図ることを目的として、今回の出水で堤防の決壊等の河川管理施設が被災した箇所を含む国管理区間約20kmを対象に築堤、護岸、根固め、河道掘削等の緊急工事（激特工事）を平成18年度から5ヶ年間かけて天竜川直轄河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）として、実施しています。

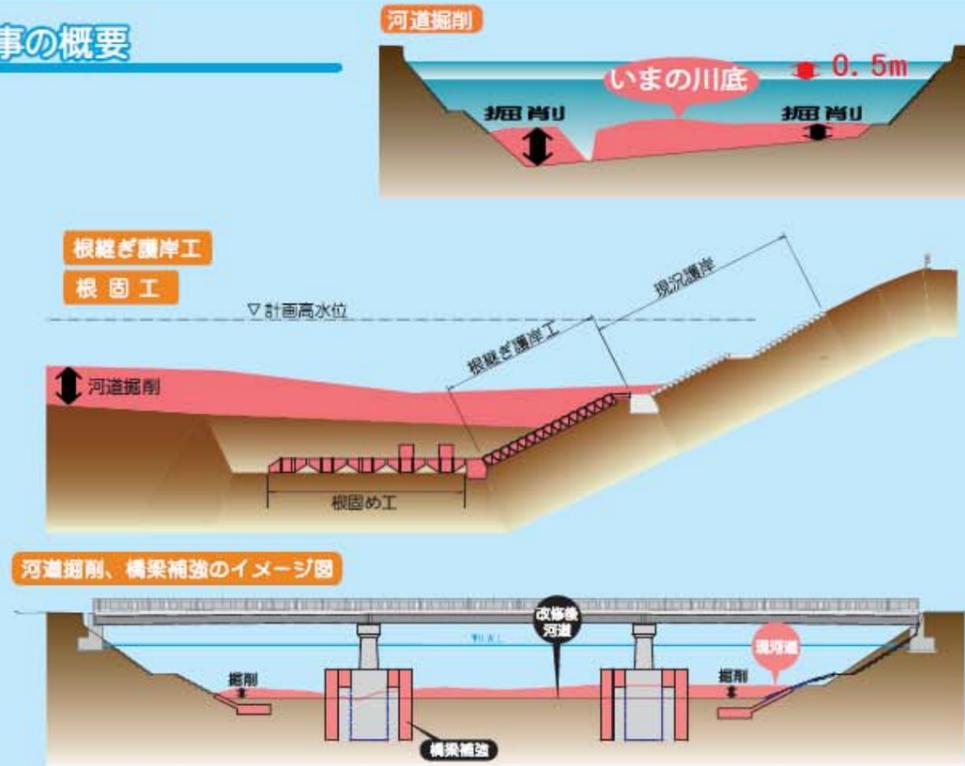
工事期間中におきましては、工事用車両の通行や道路の通行規制等で近隣の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、緊急工事へのご理解・ご協力をお願いいたします。

工事についてお気付きの点がございましたら、下記にご連絡頂けますようお願い致します。

連絡先

国土交通省 中部地方整備局
 天竜川上流河川事務所 工務課 電話 0265-81-6418
 伊那出張所 電話 0265-72-2734

工事の概要



【5年生】

①12月19日 実施計画書

伊那小学校での災害教訓伝承実施内容

- 日程 12月19日（金） 10：50 ～12：20
- 対象 伊那小学校5年秋組
- テーマ 天竜川で起こった過去の災害について学ぼう

- 実施内容
 - ① 災害教訓伝承授業の内容説明（5分）
 - ② 災害教訓に関するアンケート調査（5分）
 - ③ 36 災、58 災、平成 18 年災の概要について資料を用いながら説明（20分）
 - ④ 質問時間（10分）

 - ⑤ 過去の災害についてお話を聞こう（30分）
過去の災害を経験された伊藤さんと地域の災害について詳しい織井さんをお招きして災害の状況をお話いただく。時間は各 15 分を予定。
 - ・ 災害体験者 伊東 義人さん（元高遠支所長）
 - ・ 災害伝承者 織井 秀夫さん（三峰川みらい会議）
 - ⑥ もっと知りたいことを質問してみよう（10分）
 - ⑦ とりまとめ（10分）

- 子どもたちに伝えたいこと
 - ・ 天竜川流域は災害の多い地域なんだな
 - ・ 水害はおそろしいんだな
 - ・ これからも同じような災害が起こる可能性があるんだな

平成 20 年 12 月 19 日 (木)
5 年 組 名 前 () 第 回

あばれ天竜

伊那市で降った大雨を覚えていますか？

4 年前の平成 16 年 10 月には台風 23 号によって、伊那市でたくさんの被害が起きました。伊那小学校の近くの小沢川では、水の量が増え、護岸がこわされてしまいました。また伊那小学校には約 80 人が避難しました。

2 年前の平成 18 年 7 月 15 日から降り始めた雨は 21 日まで約 7 日間降り続き、各地に多くの被害を出しました。伊那市では浸水被害が起きたほか、強い水の流れによって殿島橋が落ちたりしました。



小沢川の増水によりこわされたコンクリート護岸 (平成 16 年 10 月)

伊那市 伊那峡上流の洪水 (平成 18 年 7 月)

伊那市 殿島橋 (平成 18 年 7 月)

平成 18 年 7 月の大雨の時の様子はどうでしたか？思い出してみよう。

伊那谷で起こった主な災害

洪水



飯田市 洪水の様子 (昭和 36 年)

崖崩れ



辰野町 赤羽中山 崖崩れの様子 (平成 18 年)

土石流



上郷町 土石流の様子 (平成 18 年)

伊那谷に雨がたくさん降ると、水は川を伝って天竜川に集まります。天竜川は時に洪水となって、地域に人々に大きな被害をもたらします。

また、山では大雨によってがけ崩れや土石流が発生することがあります。みなさんが暮らす身近な地域でも、ときにこのような災害が起こることがあるのです。

伊那谷には昔から災害が多いって本当？



昭和 36 年

大鹿村 大西山の崩壊の様子 (昭和 36 年)

飯田市 川路 洪水の様子 (昭和 36 年)



昭和 58 年

上郷町 土石流の様子 (昭和 58 年)

平成 18 年

伊那市 中央橋 (平成 18 年)

なぜ伊那谷には災害が多いのだろうか？

伊那谷の特徴

◎自然の様子

- 人が多く、平らな土地まで急な山の斜面がせまっている
- 川しやめんの近くに家が建ち町が作られている。
- たくさんの断層だんそうやわれめがあり、地質的にもろい。
- 天竜川しりゅうかせん支流河川はこう配ばいが急で流れが速い。
- 森林を管理する人が少なく、山が荒れている。
- すべての水が天竜川に集中する。
- 天竜川では川はばがせまくなっているところがある。

国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 『上伊那川たんけんブック 天竜川とわたしたちの暮らし』より

◎人の生活

気づいたことを書いてみよう 

Blank writing area for the left column.

気づいたことを書いてみよう 

Blank writing area for the right column.

平成20年12月19日(木)

5年 組 名前 () 第 回

過去の災害のお話を実際に聞いてみよう！

^{いとう}伊東 ^{よしと}義人さん（元高遠支所長）

伊藤さんは平成18年7月の豪雨災害の時に伊那市松倉上地区で避難対応をされました。



★聞いたお話をメモしよう！



Lined area for taking notes on the story of Mr. Yoshito Ito.

★疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことはあったかな？

Lined area for writing questions or points of interest regarding Mr. Yoshito Ito's story.

平成20年12月19日（木）

5年 組 名前（

^{おりい}織井 ^{ひでお}秀夫さん（三峰川みらい会議代表）

織井さんは三峰川みらい会議代表として川でのさまざまな活動をされており、地域で起こった災害についてもくわしい方です。



★聞いたお話をメモしよう！



Lined area for taking notes on the story of Mr. Hideo Orii.

★疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことはあったかな？

Lined area for writing questions or points of interest regarding Mr. Hideo Orii's story.

三峰川の災害のあとを尋ねて

三峰川下流でのいままでの災害の
あとと現在の様子を見る



天竜川合流点付近の三峰川の風景（扇状地と河岸段丘）



災害の跡と現在

- 昭和34年三峰川の上流現在の伊那市・長谷地区に、上流域の人たちの大きな犠牲のもとに、美和ダムが出来るまでは三峰川は大変な荒れ川でした。
- 大雨のたびに洪水おき、堤防が流され大切な田畑や、大洪水では家までも流されたという記録があります。
- 今日はその跡と、現在の様子をたずねます。



先人たちの治水遺産“霞堤”







天竜川合流点付近の三峰川の風景（扇状地と河岸段丘）

これからの私たちが考えること

- 現在はダムや災害を無くす、防災工事や堤防により、守られ安心安全な暮らしが来ていますが、いつ大雨による洪水や土砂崩れが起きるかわかりません、その様なときのためにも、今までの災害やそれを防いだ防災の歴史を学んでおくことが大切です。

伊那小学校での災害教訓伝承実施内容

- 日程 1月16日(金) 9:00 ~12:20
- 対象 伊那小学校5年秋組
- テーマ 流れる水のはたらきを考えながら天竜川について考えよう
災害を防ぐために行われている取り組みを学ぼう

- 実施内容
 - ① 流れる水のはたらきについて教室で学習(9:00~9:30 30分)
 - ・ 雨水の流れと地面の様子
 - ・ 大水が出たときの川の様子と土地の様子について

~ 天竜川の工事現場に移動(9:30~9:50 20分) ~

 - ② 災害を防ぐための取り組み(激特事業)について説明(9:50~10:20 30分)

~ 三峰川榛原河川公園に移動(10:20~10:50 20分) ~

 - ③ 三峰川の霞堤、聖牛を見学し、三峰川みらい会議の織井さんから三峰川みらい会議の取り組みも含め説明していただく(10:50~11:40 50分)
 - ④ 質問時間(11:40~11:50 10分)
 - ⑤ とりまとめ(11:50~12:00 10分)

~ 小学校に移動(12:00~12:10 10分) ~

- 子どもたちに伝えたいこと
 - ・ 水にはものすごい力があるんだな
 - ・ 天竜川は昔から変化していて、大水が出ると地域に被害をもたらしている
 - ・ 災害を防ぐために色々な取り組みが行われているんだな
 - ・ 洪水から守るために、様々な方法があるんだな

授業の流れ

12/19 「過去の災害について学ぶ」

【前回学んだこと】

- ・この地域には災害が多い
- ・災害時の大変な経験
- ・災害が起こらないようにすることの大切さ



- ・どうして天竜川では災害が多いのか
- ・災害が起きないようにどんな取り組みが行われているのか

1/16 「洪水時の川の様子、水のはたらき」

「災害を防ぐ工夫」

【授業の内容】

① 流れる水のはたらきについて

- ・水にはどんな力があると思うか、川を流れている水を思い浮かべて考える
- ・水には「大地をけずる」「土砂を運ぶ」「土砂を堆積する」働きがある

流れる水の力

①大地を削る（浸食作用）

大雨が降って増水すると、川の上流では、流れが大変急で速くなるため、岩などを削る浸食作用が盛んになり、地形が険しくなっていく。

②土砂を運ぶ（運搬作用）

水によって削られた土砂は、水に押し流されたり、水の中にたどったり、また一部は水にとけこんだりしながら運ばれていく。

流れの速い上流では運搬する力が大きく、中流や下流になって流れが緩やかになると、土砂を運ぶ水の力は弱くなる。

③土砂を堆積する（堆積作用）

川の流れがゆるやかになると、土砂を運ぶ力が弱くなる。川が山地から平野に流れ出すところや海に流れ出るところなどでは、流れが緩やかになるため土砂がたまる。



- ・川の流れが速くなるとどうなるのか
- ・川の水が増えるとどうなるのか
- ・川が曲がっている箇所ではどうなるのか

大水が出ると災害が起こるのはなぜか考える

平常時と洪水時の川の様子を写真で比べて、どのような災害が起きているのか考える

② 災害を防ぐための取り組み（激特事業）について

- ・前回話を聞いた平成18年災害時の被害状況を説明（被害が起きたのはどんな場所だったのか）
- ・同じような災害を防ぐために、どのような工事が行われているのか説明

災害を防ぐために現在行われている取り組みについて学ぶ

③ 災害を防ぐために昔から行われている工法について

- ・ 三峰川の霞堤について
霞堤の仕組みを説明後、どれが霞堤なのか探してみる
- ・ 聖牛について
聖牛の役割を説明後、実際に聖牛を近くで見してみる
- ・ 昔の水防工法についても紹介

昔から災害を防ぐために
様々な取り組みが行われて
いたことを学ぶ

災害を防ぐために今も昔も人々は様々な取り組みを行っている



災害が起こったときに自分たちはどうすればいいのか、
自分たちに何が出来るのか考える

授業内容詳細

・平常時と洪水時の川の様子の違いを考えてもらう

- ① パワーポイント p.3 伊那水位観測所（中央橋）で説明
中央橋付近の映像を流す

前回の授業で、この地域には災害が多いことが分かりました。また実際に災害を体験されたかたのお話を聞いて、災害が起きたときの大変さが分かりました。

では災害時に川の様子はどのようなのでしょうか？



平常時 (2008/07/17)



洪水時 (2008/07/19)

川の様子はいつもとどのように違いますか？

水の量 ()
流れの速さ ()
水の色 ()
その他 ()

なぜ洪水時にはこのような川の様子になるのでしょうか？考えてみよう！

- ② 映像を流した後に、川の様子がいつもとどのように違っていたのか時間をとって「水の量、流れの速さ、水の色など」の違いについて考えてもらう。
- ③ 子どもたちに質問しながら、回答していく。

・なぜ洪水時にはこのような川の様子になるのか流れる水のはたらきを考える

- ① 流れる水のはたらき（侵食、運搬、堆積作用）について説明
- ② これらの水のはたらきにより大水が出ると川岸がけずられたり、石や土を流したり、川の流れが変わったりすることを簡単に説明
- ③ 水のはたらきが引き起こす災害の例として平成18年7月豪雨災害時の様子を説明する
パワーポイント p.4～p.6 伊那ケーブルテレビ映像
- ④ なぜ堤防が決壊したのかパワーポイント p.8～p.16 を用いて説明

・災害を防ぐために行われている工夫について

- ① 現在行われている河川改修について簡単に説明
- ② 昔から災害を防ぐための取り組みは行われていたことを説明

今から現場で災害を防ぐ取り組みを見に行くことを説明する

平成 21 年 1 月 16 日 (金)

5 年 秋組 名前 () 第 2 回

流れる水のはたらきについて 洪水時の川の様子と水のはたらき

前回の授業で、この地域には災害が多いことが分かりました。また実際に災害を体験されたかたのお話を聞いて、災害が起きたときの大変さが分かりました。では災害時に川の様子はどうなるのでしょうか？



平常時 (2008/07/17)



洪水時 (2008/07/19)

川の様子はいつもとどのように違っていますか？

- 水の量 ()
- 流れの速さ ()
- 水の色 ()
- その他 ()

なぜ洪水時にはこのような川の様子になるのでしょうか？考えてみよう！

流れる水には色々なはたらきがあります。

侵食作用 大地をけずる力

大雨が降って増水すると、川の上流では、流れが早くなるため、岩などをけずる侵食作用が盛んになり、地形がけわしくなっていく。

運搬作用 土砂を運ぶ力

水によってけずられた土砂は、水に押し流されたり、水の中にたどったり、また一部は水にとけこんだりしながら運ばれていく。

堆積作用 土砂を堆積する力

川の流れがゆるやかになると、土砂を運ぶ力が弱くなる。川が山地から平野に流れ出すところや海に出るとことなどでは、流れがおだやかになるため土砂がたまる。

平成 18 年 7 月の時のように大雨がふって、流れる水の量が増えると川岸がけずられたり、石や土を流したり、川の流れがかわったりします。

平成 18 年 7 月豪雨災害の様子



伊豆川上流



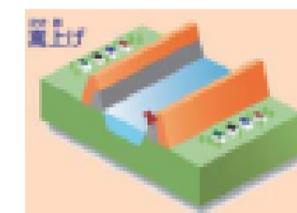
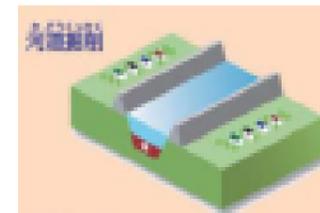
真輪町松島地区

どんな様子ですか？

真輪町松島地区では大水によって、堤防がけずりとられてしまいました。どうしてこうなったか考えてみましょう。

災害を防ぐために行われている工夫

○最近の河川改修



○昔の水防工法



じゃかご工
竹であんだかごの中に石をつめます。これを川岸の水が強く当たる部分にしきならべます。

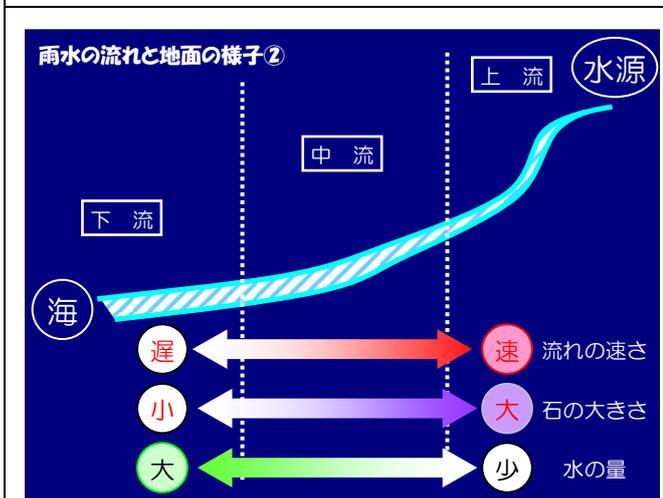
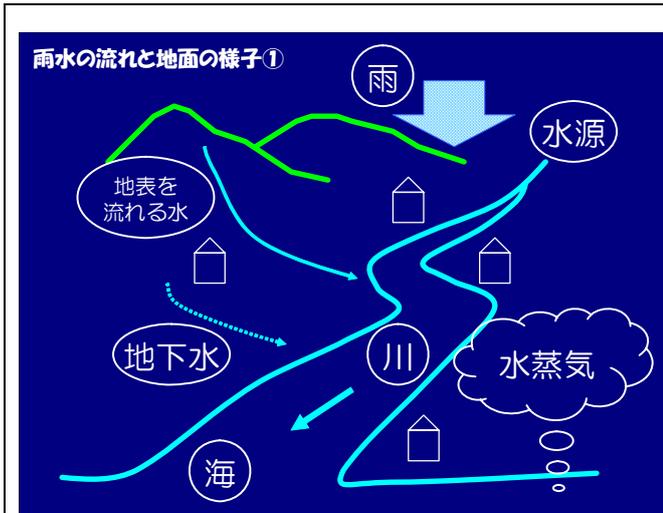


石積み
川岸の石を積み、川の流れを減えたり止めたりします。



壘牛 (ひじりうし、うし)

・ 流れる水のはたらき / 平成 18 年 7 月豪雨災害について

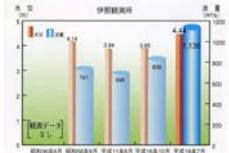


伊那水位観測所(中央橋)

各地の観測所で警戒水位を超過し、伊那観測所では流量観測開始以降の最大値を記録しました。



2008/7/17



2006/7/19

上伊那郡箕輪町松島北島地先の天竜川右岸204.8km地点において堤防が決壊。



19日



19日



19日



19日



19日



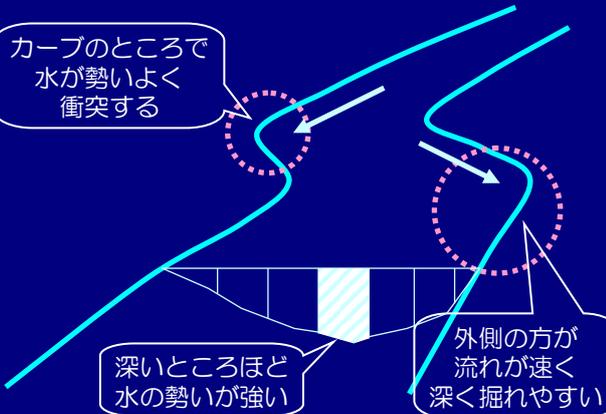
26日

雨水の流れと地面の様子③

カーブのところで
水が勢いよく
衝突する

深いところほど
水の勢いが強い

外側の方が
流れが速く
深く掘れやすい



③ 2月13日 実施計画書

伊那小学校での災害教訓伝承実施内容

- 日程 2月13日(金) 9:00 ~12:20
- 対象 伊那小学校5年秋組
- テーマ 災害に備えるために自分たちに出来ることを考えよう

- 実施内容
 - ⑥ 伊那市で災害発生直後に行われている活動について、平成18年災害の時にどのような対応を取ったのか、避難や避難所の様子を交えながら、伊那市の方にお話をしていただく(9:00~9:30 30分)
 - ・ 災害伝承者 山口さん(伊那市役所総務部総務課)
 - ⑦ 避難の仕方や防災マップを見て疑問に思ったこと、もっと聞きたいことを質問してみよう(9:30~9:50 20分)
 - ⑧ 前回配布した伊那市の防災マップを見ながら家族で話をしてもらった結果を発表してもらおう(9:55~10:15 20分)
 - ⑨ これまで学習したことを振り返りながら、災害時に自分達ができることについて班毎に話し合い、模造紙にまとめる(10:15~11:15 60分)
 - ⑩ 班毎に発表(11:15~12:00 45分)
 - ⑪ アンケート(12:00~12:10 10分)
 - ⑫ とりまとめ(12:10~12:20 10分)

- 子どもたちに伝えたいこと
 - ・ 災害時には様々な人が対策にあたっているんだな
 - ・ 災害時にきちんと対応するためには、的確な情報が必要なんだな
 - ・ 避難した人たちはこんなことで困っているんだな
 - ・ 避難場所を知っておくことや日頃から災害に備えておくことが大切なんだな
 - ・ 自分で自分の身を守ることが大切なんだな

伊那市 防災マップ

保存版

いざという時、
あなたと
あなたと
守るために。
あなたの大切な人を

地震



わが家の防災メモ

●避難所

●避難地(空地)

●家族が離れ離れになったときの集合場所・連絡先

●緊急連絡先

緊急連絡先	電話番号	緊急連絡先	電話番号

覚えてください

災害時の声の伝言板
災害用伝言ダイヤル
「171」

伝言の録音方法
1171にダイヤルする
ガイダンスが流れます
録音の場合
ガイダンスが流れます
(区) (区) (区) (区) (区) (区)

伝言の再生方法
1171にダイヤルする
ガイダンスが流れます
再生の場合
ガイダンスが流れます
(区) (区) (区) (区) (区) (区)

●被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外番号からダイヤルしてください。録音された伝言は被災地の方の電話番号を打てる方が聞けることができます。
●一般加入電話、公衆電話、携帯電話、PHS(一部事業者を除く)からご利用いただけます。

伊那市 災害時連絡先・基幹避難所一覧

名称	電話番号
伊那市災害対策本部(伊那市役所)	78-4111
高遠町総合支所	94-2551
長谷総合支所	98-2211
富泉支所	72-2318
美郷支所	72-2360
手良支所	72-2755
東春近支所	72-3202
西箕輪支所	72-2319
西春近支所	72-4178
伊那消防署	72-0119
高遠消防署	94-2148
ボランティアセンター(社会福祉協議会)	73-2541
伊那中央病院	72-3121
上伊那地方事務所	78-2111
伊那警察署	72-0110

名称	電話番号
伊那北高等学校	72-2221
伊那小学校	72-5205
伊那西小学校	72-2632
伊那中学校	72-6168
伊那弥生ヶ丘高等学校	72-6118
伊那北小学校	72-2264

名称	電話番号
伊那東小学校	72-2007
東部中学校	72-6128
伊那市民会館及び 伊那公民館	72-3738 78-3447
富泉小学校	72-3094
新山小学校	72-2884
美郷小学校	72-2588
手良小学校	72-2756
東春近小学校	72-3223
春富中学校	72-5245
西箕輪小学校	72-2639
西箕輪中学校	72-6421
西春近北小学校	72-3221
西春近南小学校	72-3234
伊那西高等学校	72-4091
伊那市民体育館	78-2356
勤労者福祉センター体育館	78-2356
高遠小学校	94-2070
高遠北小学校	96-2220
高遠中学校	94-2142
長谷小学校	98-2220
長谷中学校	98-2050

風水害 みんなで風水害に備えましょう!

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策。

大雨情報をキャッチしたら、
我が家で安全対策を
始めましょう。



大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。

●1時間に雨量が30mm以上になると予想される場合

●3時間に雨量が60mm

●24時間に雨量が100mm

●1時間雨量が50mm以上で総雨量が100mm以上になると予想される場合

●3時間雨量が80mm

●24時間雨量が160mm

1時間雨量(ミリ)	予想雨種	人の受けるイメージ	災害発生状況
10~20	やや強い雨	ザーザーと降る。	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20~30	強い雨	どしゃ降り。	氾濫や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地域では避難の準備が必要。
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーパーと降り続く。)	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80~	猛烈な雨	激しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意をする。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常持出品を準備しておく。

- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるような準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう!

洪水になったときの歩き方【避難方法と注意点】

歩ける深さは男性で約70cm、女性は約50cm位です。水深が膝まであるようなら無理は禁物! 高い所で救助を待ちましょう。

水面下ではどんな危険があるかわかりません! 長い棒などを杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

裸足、長靴は危険です! ケガをしないためにも脱げにくく、動きやすい運動靴を履きましょう。

お互いの身体をロープで結んで、はくれないよう避難しましょう。特に子どもから目を離さないよう注意しましょう。

幼児は浮き袋、乳児はベビーバス等を利用して安全を確保! お年寄りや身体の不自由な人は背負って、避難しましょう。

土砂災害 土砂災害の種類を知ろう!

土砂災害は、最も注意しなければなりません。
普段と変わった現象→すぐに避難を!

がけ崩れ	土石流	地すべり
<p>がけ崩れは、急な斜面で突発的に起こり短時間に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。</p>	<p>土石流は、谷筋で起きますので、土砂などが水といっしょに流れ下り、スピードが速く大きな破壊力を持っています。</p>	<p>地すべりは、一度に広い範囲の地盤が動き出しますので、速度はゆるやかですが、発生すると大きな被害をもたらします。</p>
<p>前ぶれ</p> <p>湧水量の増加</p> <p>↓</p> <p>小石がばらばら落下 湧水の濁り</p> <p>↓</p> <p>小石がぼろぼろ落下 亀裂の発生</p> <p>がけ崩れ発生</p>	<p>前ぶれ</p> <p>流水の異常な濁り</p> <p>↓</p> <p>流木発生・渓流内の転石の音</p> <p>↓</p> <p>山鳴り・地鳴り 水位の急激な低下</p> <p>土石流発生</p>	<p>前ぶれ</p> <p>湧水量の増加 井戸水の濁り</p> <p>↓</p> <p>亀裂の発生</p> <p>↓</p> <p>山鳴り・地鳴り</p> <p>地すべり発生</p>

あなたにもできる土砂災害の予防策

- 日頃から避難する場所や道路などを確認しておきましょう。
- がけをお持ちの方は、がけの周辺を見回り、次のようなことを心がけましょう。

斜面の状態の変化に十分注意しましょう。

落ちそうな岩や土のたまりは撤去しましょう。

風で揺れる大きな木は根を伸ばさぬよう剪定しましょう。

雨水はゴミを掃除しておきましょう。

雨水をがけに流さないよう水溜を溜めましょう。

こわれた石垣などは修理や補修をしましょう。

がけの危険な部分はビニールなどで覆い、雨水の溜りこみを防ぎましょう。

土砂災害防止法による規制等

土砂災害警戒区域

- ・市町村地域防災計画へ記載されます。
- ・警戒避難体制の整備を行います。

土砂災害特別警戒区域

- ・特定の開発行為に許可が必要です。
- ・建築物の移転等の勧告及び支援措置があります。
- ・居室を有する建物の建築には建築確認が必要です。

地震

今 地震が起きたら あなたは どうしますか？



地震に備えて 住宅の耐震補強を!

耐震診断を受け、耐震補強しましょう

あなたやあなたの大切な家族の命を
自宅に奪われないように、
地震に耐える家に住みましょう。



●耐震診断を受けましょう。

伊那市では、「伊那市木造住宅等耐震診断事業」を実施しており、希望する方に耐震診断士を無料で派遣し、簡易耐震診断・精密耐震診断を行っています。

●耐震補強をしましょう。

上記の耐震診断を実施した住宅のうち、「やや危険」または「危険」と診断された住宅で耐震補強工事を実施する場合には、その工事費の一部を助成します。条件等、詳細については、監理課までお問合せください。

東海地震に関する情報体系 平成16年1月5日から

状況	情報名称	危険度
<ul style="list-style-type: none"> 東海地震の発生のおそれなくなったと認められた場合 発生した地震が直ちに東海地震に関連性がないと判断できる場合 東海地震の前兆現象の可能性について直ちに評価できない場合 	東海地震観測情報	小
<ul style="list-style-type: none"> 東海地震の前兆現象の可能性が高まったと認められた場合 	東海地震注意情報	中
<ul style="list-style-type: none"> 東海地震が発生する恐れがあると認められた場合 	東海地震予知情報 警戒宣言	大

日頃から災害に備えて準備しておくもの

非常持出品 避難するときに持ち出す最小限の必需品。男性で15kg、女性で10kg程度を目安にリュックなどの持ちやすい状態で準備しておきましょう。

- 非常持出品**
 - リュックザック
 - 携帯ラジオ
 - 懐中電灯
 - 乾電池
 - 現金
 - 預貯金通帳、印かん
 - 免許証
 - 権利証書、健康保険証
- 非常食品**
 - カンパン・缶詰
 - 栄養補助食品
 - ドライフーズ
 - 飲料水
 - 粉乳食
 - 粉ミルク
 - レトルト食品
- 応急薬品**
 - ばんそうこう、包帯
 - 傷薬、青膏薬
 - 目薬、消毒薬
 - 鎮痛剤、解熱剤
 - 常備薬
- その他の生活用品**
 - 下着・上着・靴下等
 - 軍手、タオル
 - ティッシュペーパー
 - ウエットティッシュ
 - 歯具
 - ライター
 - ビニール袋
 - 生理用品
 - おむつ
 - ヘルメット・帽子
 - プラスチック製の皿、コップ
 - わりばし
 - 缶切り、缶抜き

※冬期は防寒剤の準備

ワンポイント

- 1人に一個の非常袋を用意する。
非常持ち出し品の準備に家族全員が参加すれば、防災意識が高まり必要なものを入れ忘れることもありません。また、みんなで分担して持てば重量も軽くなります。
- 車のトランクに非常袋を入れておく。
車を運転しているときに地震が起こることもあります。また、家が倒壊したような場合にも、取り出して使える利点があります。
- 非常袋は何箇所かに分散して保管する。
家具が倒れたような場合、非常袋が取り出せなかったり、中のものが使えなくなるケースも考えられます。庭やベランダなどにも、分散して保管しておきましょう。
- 「わが家の防災の日」を決めて中身を点検する。
半年に1回程度、定期的の中身をチェックし、期限切れのものは入れ替えましょう。あらかじめ「わが家の防災の日」を決めておくことを忘れずにすみます。

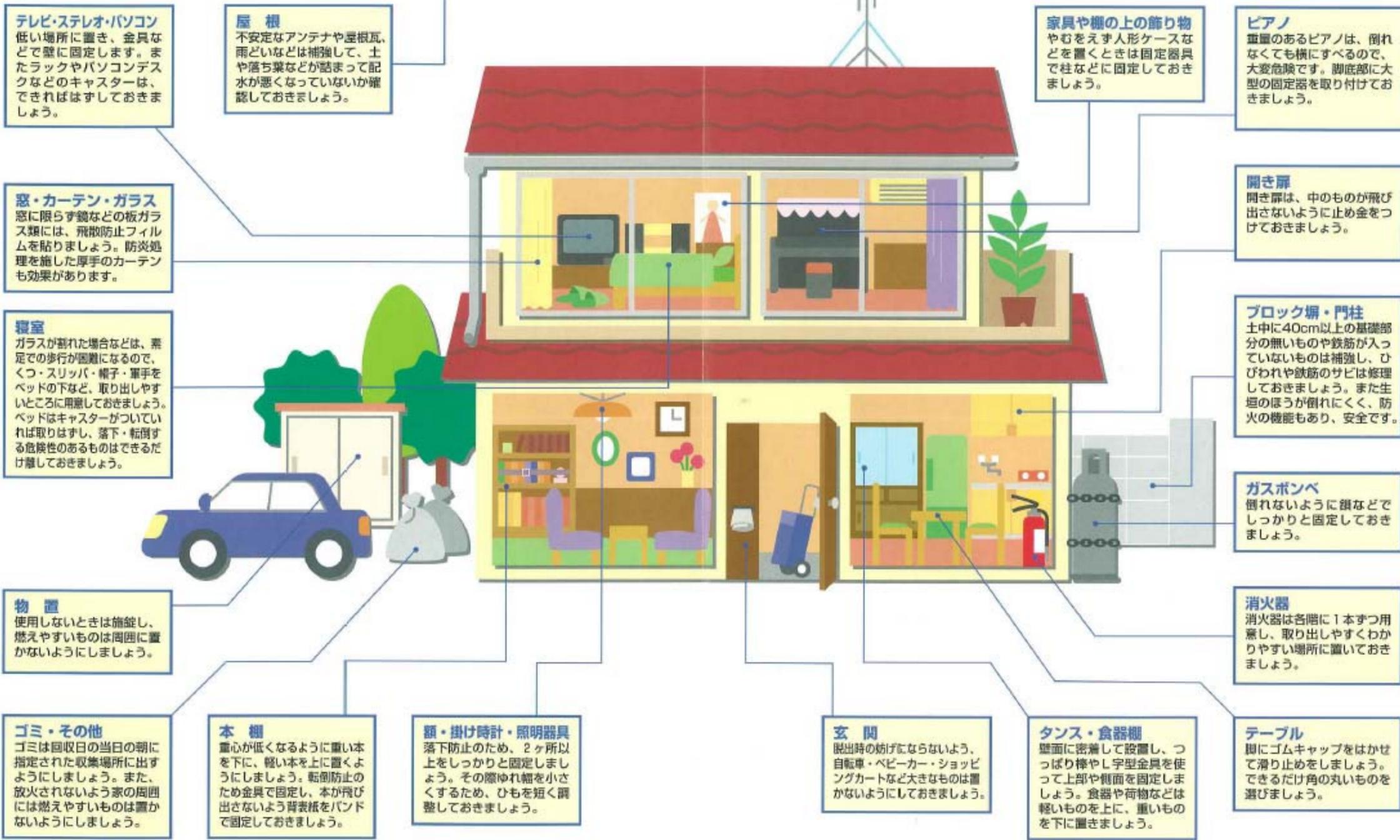
自分たちの地域は自分たちで守る

自主防災組織の活動 (平常時)	自主防災組織の活動 (災害発生時)
<ul style="list-style-type: none"> 防災知識の普及 地域の災害危険箇所の把握 防災訓練の実施 火気使用設備器具等の点検 防災資機材の備蓄と整理・点検 	<ul style="list-style-type: none"> 災害情報の収集、住民への迅速な伝達 出火防止と初期消火 避難誘導 被災住民の救出・救護 給食・給水

家庭の防災チェック

災害時は自分の身を自分自身で守ることが大切です。いざというときのために、十分な備えをしましょう。

普段の備えがあなたの家族を守ります。



テレビ・ステレオ・パソコン
低い場所に置き、金具などで壁に固定します。またラックやパソコンデスクなどのキャスターは、できればはずしておきましょう。

屋根
不安定なアンテナや屋根瓦、雨どいなどは補強して、土や落ち葉などが詰まって配水が悪くなっていないか確認しておきましょう。

家具や棚の上の飾り物
やむをえず人形ケースなどを置くときは固定器具で柱などに固定しておきましょう。

ピアノ
重量のあるピアノは、倒れなくても横にすべるので、大変危険です。脚底部に大型の固定器を取り付けておきましょう。

窓・カーテン・ガラス
窓に限らず鏡などの板ガラス類には、飛散防止フィルムを貼りましょう。防災処理を施した厚手のカーテンも効果があります。

開き扉
開き扉は、中のものが飛び出さないように止め金をつけておきましょう。

寝室
ガラスが割れた場合などは、素足での歩行が困難になるので、くつ・スリッパ・帽子・軍手をベッドの下など、取り出しやすいところに用意しておきましょう。ベッドはキャスターがついていれば取りはずし、落下・転倒する危険性のあるものはできるだけ離しておきましょう。

ブロック塀・門柱
土中に40cm以上の基礎部分の無いものや鉄筋が入っていないものは補強し、ひびわれや鉄筋のサビは修理しておきましょう。また生垣のほうが倒れにくく、防火の機能もあり、安全です。

物置
使用しないときは施錠し、燃えやすいものは周囲に置かないようにしましょう。

ガスボンベ
倒れないように鎖などでしっかりと固定しておきましょう。

ゴミ・その他
ゴミは回収日の当日の朝に指定された収集場所に出すようにしましょう。また、放火されないよう家の周囲には燃えやすいものは置かないようにしましょう。

本棚
重心が低くなるように重い本を下に、軽い本を上置くようにしましょう。転倒防止のため金具で固定し、本が飛び出さないよう背表紙をバンドで固定しておきましょう。

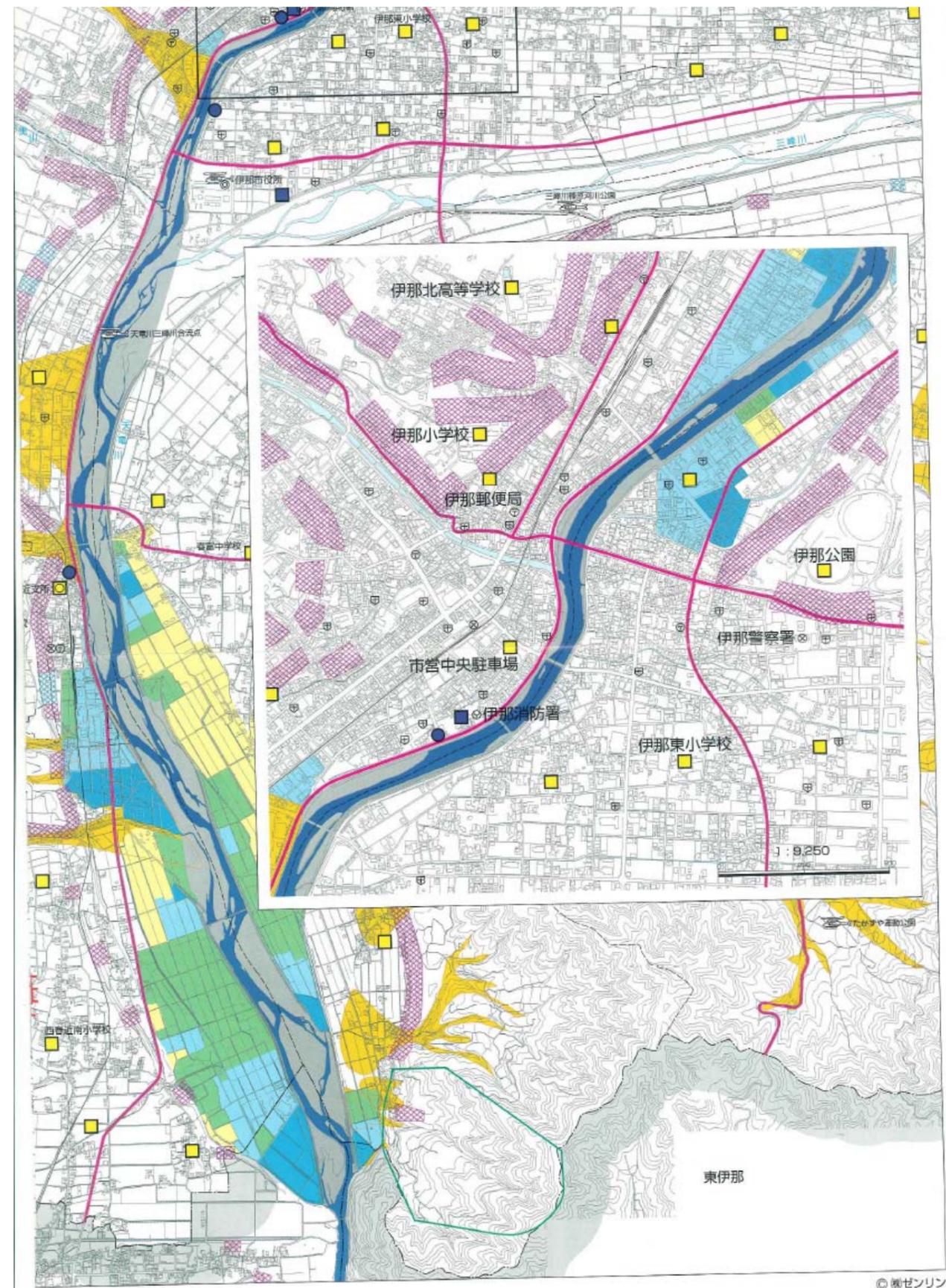
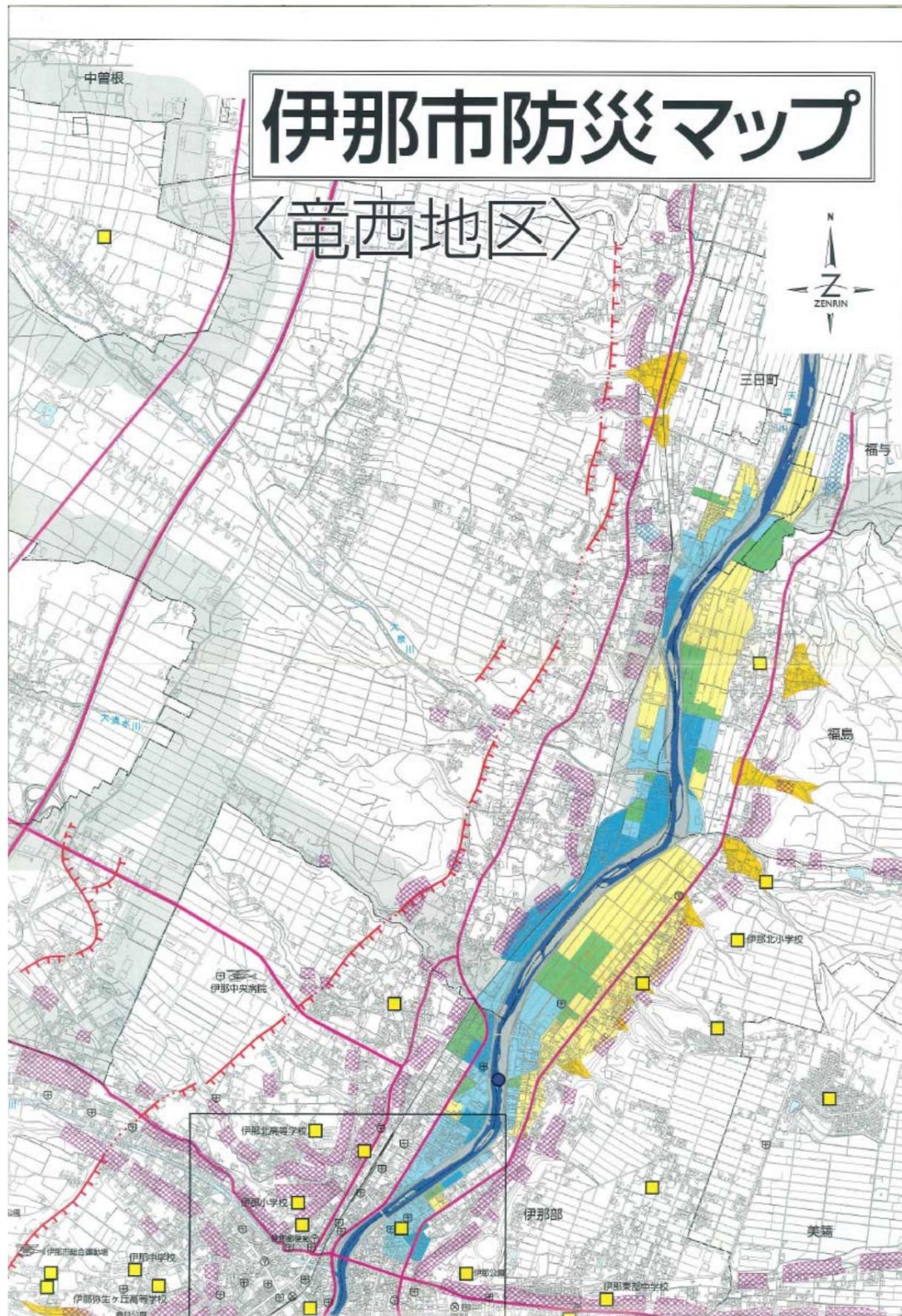
額・掛け時計・照明器具
落下防止のため、2ヶ所以上をしっかりと固定しましょう。その際ゆれ幅を小さくするため、ひもを短く調整しておきましょう。

玄関
脱出時の妨げにならないよう、自転車・ベビーカー・ショッピングカートなど大きなものは置かないようにしましょう。

タンス・食器棚
壁面に密着して設置し、つっぱり棒やL字型金具を使って上部や側面を固定しましょう。食器や荷物などは軽いものを上に、重いものを下に置きましょう。

消火器
消火器は各階に1本ずつ用意し、取り出しやすくわかりやすい場所に置いておきましょう。

テーブル
脚にゴムキャップをはかせて滑り止めをしましょう。できるだけ角の丸いものを選びましょう。



【6年生】

①12月4日 実施結果とりまとめ

伊那小学校 6年順組 河川工事現場見学会

平成20年12月4日（木）

1. 伊那出張所の浅沼さんによる工事の概要説明を実施

なぜ今のような工事をしているのかというと、平成18年7月豪雨災害の時、伊那市中央橋はスレスレのところまで水位があがり、箕輪町では北島堤防が決壊しました。今の堤防の高さのまま、水が溢れないようにするために護岸工事をして土砂を運び出しています。

（平成18年災害のパネル、激特事業説明資料、出水の記録を使用）

2. 質疑応答

児童質問	説明者回答
工事はどのくらいしますか？	平成18年度から21年度まで、5ヵ年かけて工事が完了する予定です。うち、台風や梅雨時期の河川が増水する危険性がある6月～9月の期間には、河川の中で工事する人の安全性を考えて工事をしません。
川から運び出した土砂はどこへ持っていますか？	伊那インターより上にある昔田んぼだったところに持っていく、造成するのに使っています。
何メートルくらい掘りますか？	現況護岸からだいたい2mくらい掘ります。
工事が終わった後、魚に影響はありますか？	アユに少し影響があります。土砂を盛って仮切りしているため、天竜川の水が濁ります。川底の石に土砂がたまると石にコケが付きにくくなるので、それを食べているアユに少し影響があります。しかし、洪水の時に土砂が流れていくのでまた戻っていきます。
工事には何ワットの電気を使っていますか？	今はわからないので調べておきます。仮切りしたところから川の水が漏れてきて、たまってしまう水を抜くために電気を使って水中ポンプを動かします。

児童質問	説明者回答
工事費用はどのくらいかかるのですか？	今年度は 20 億円ぐらいです。 5 年間では、 84 億円ぐらいになります。辰野町の昭和橋から三峰川合流点までが国土交通省の激特事業範囲です。
工事をしてどんなところが良くなるのですか？	土を出すので、その分洪水の時に溢れる危険性が低くなります。平成 18 年 7 月豪雨災害と同じ流量があった場合には、 1m ぐらい低い水位が流れるようにしています。
どのくらいの土砂を運びだしていますか？	今年度で 10 万 m^3 ～ 15 万 m^3 です。 5 年間で 30 万 m^3 ぐらいです。 伊那市では、井戸を利用しているところが多く、低いところから水を吸い出して工事をするので井戸が枯れてしまいます。そのために工事中は仮設の水道を設けて使ってもらっています。
ザザムシなどの自然の生態系に戻っていくのには、どのくらいかかるのですか？ (教師)	川の中の土を動かすため、石の裏にくっついているザザムシには影響がでますが、 2 ～ 3 年たつとカゲロウが卵を産んで育てくるため、元のように戻ります。
(バックフォアを使った作業をみて)今は何の作業をしているのですか？	護岸工ができたので、埋め戻しの作業をしています。 作業は、朝の 8 時から始まり夕方 5 時まで行います。日曜日や年始年末は行いません。土曜日の作業に関しては、工事を行っている会社によって違います。
月収はいくらぐらいですか？	僕は 40 万ぐらいです。 でも、愛知・岐阜・三重と長野の南信あたりを 3 年ぐらいで転勤があります。

3. 今後の予定

- ・今日のふりかえりの授業を**12月9日(火)**の**1・2**時限を使って実施する。
- ・**2**月の公開授業で、パネルディスカッションを実施したい。児童だけだと発言に行き詰ってしまうので、他の人の意見を交えながら実施したい。
- ・**12月9日(火)**に事前送付した災害教訓伝承資料やクリカブルマップの使い方を説明する。

■ H18 年 7 月豪雨災害を経験された人のお話から当時の様子を想像してみよう

○長野県職員 Sさん

Q「災害が起きる」と思ったきっかけはなんですか？

雨量が200ミリを超えたということで、「これはやばいかな」と、天気予報を聞いても長引くということで「これは災害がおきるかもしれん」ということで職員を招集して非常配備についたわけです。

Q 天竜川の水位が上がってきた時の状況はどんな様子でしたか？

流しんが堤防よりも高く見えるんですよ、「これはやばいぞ、逃げようか」って思いました。

Q被災状況からどんなことに気づきましたか？

水は河川水位が上昇してくるからわかる、やれ安心して帰ってきた、そこへ土石流、不意打ちですよね。

Q 避難行動に関して、どんなことを思いましたか？

自助ですかね、もう自分で危ないと判断して逃げた。土砂災害からいかに助かるか、これはもう

自分で逃げるしかないということですね、切に説いていく必要があることを感じましたね。

○伊那市高遠在住 Iさん

Q 河川の水位が上がってきた時、まわりの様子はどうでしたか？

現地は現地でしっかり守らなきゃいけない、伊那では天竜川が大増水でどっか崩壊するつちゅう時だもんでね。

Q 何がきっかけで避難をしましたか？

松倉川がせきとめられて、全部その住宅とかが埋まっちゃう、「そういう被害が起きる可能性があるから、その時には皆さん避難してくださいよ」ということを私どもは区長さんとか消防団とかそういう皆さんにあらかじめ連絡しておいたんですよ。

Q 避難をした方からどんな話を聞きましたか？

「来ちゃったけれども薬をもってこなんだ」とか「犬をどうするか」とかね、「家は大丈夫か」とかね、いろいろな意見がでましたね。

Q よりよい避難行動をするために何が必要ですか？

お年寄りの安否をね、そういうものをたえず隣近所は声をかけあって「こうなった時にはこうだぜ」つちゅうことを言えるようにしておかなきゃいけない、それが大事だなんて思ってますよね。

豆 知 識

土石流ってなに？

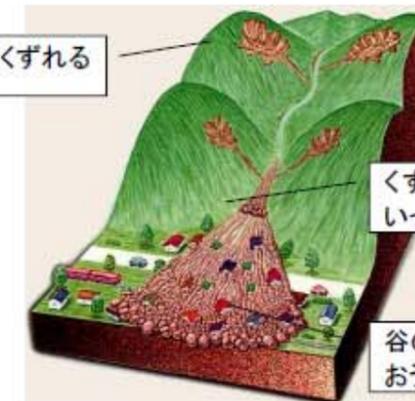
土石流とは、山や谷の土砂(土や砂、石)が大雨などでくずれ、水とまじってどろどろになり、ものすごい勢いでふもとに向かって流れてくるものです。



▲H18 年 7 月豪雨災害で土石流が発生した前沢川

地方によって、「山津波」とか「てっぽう水」などと呼ぶところもあります。土石流はたいてい大雨が原因で起こりますが、地震や地すべりでくずれた土が川にたくさん入ったり、雪どけ水が土砂とまじったりして起こることもあります。また、火山の噴火のあと、つもった火山灰に雨がふって起こる土石流もあります。日本では梅雨や台風の時期に、毎年のようにどこかで土石流が発生し、その流れの速さは規模によって異なりますが、時速 20～40km という速度で家や田畑、道路がおし流し、人がなくなったりする大きな被害が出ています。

大雨などで山がくずれる



くずれた土砂が水と
いっしょに谷を下る

谷の出口で
おうぎ形に広がる

国土交通省 HP 参照 <<http://www.mlit.go.jp/river/sabo/link03021.htm>>

かわすじへんせん
天竜川の川筋変遷マップをつくろう！

平成21年1月20日（火）

6年 順組 名前（ ）



— 伊那小学校の近くを流れる天竜川の変遷 —

「伊那市史」や「中央区誌」という本には、江戸時代に天竜川の川筋が変わっていたという記録が残されています。その川の流れの変遷を、伊那市の地図上に描いてみましょう。どんなことがわかるかな？

① **元禄（1688年～1704年）より前の川筋（オレンジ色の線）**

上牧村より古川に沿って「荒なぎ」、「どぶ」を通り「御舞瀬」にでて、「上竜中」、「下竜中」、「かご淵」を流れていました。

② **元禄（1688年～1704年）頃からの川筋（きみどり色の線）**

「御園水神」のあたりから切れ込んで「ふつかわ」を通り、山寺公会堂あたりから「御舞瀬」にでて、古三峰川と天竜川の合流点あたりを流れて狐島村へと流れていました。

③ **文化（1804年～1818年）頃の川筋（黄色の線）**

天竜川の川筋は「山寺水神」の辺りから切れ込んで、中溝川に沿って流れ、古三峰川と天竜川の合流点付近を通り狐島村へと流れていました。

④ **幕末（～1867年）頃の川筋（赤色の線）**

「古町水神」のあたりから「北清水」に入り、「荒なぎ」「どぶ」を通り、今の錦町通りに深い淵をつくって恵比寿神社付近を通り、西町村の「川原」にむかって流れていました。

● **聖牛とは？**

組み上げた丸太に蛇籠などをのせて川底にすえつけ、川の急な流れをおさえる方法です。



● **下の狂歌は、江戸時代の終り頃につくられました。どんな意味があると思いますか？**

ふるぎつね 山寺下を海にして

あらおそろしや いま出て見れば

● **昔の人は、天竜川とどのように関わっていたと思いますか？**

③ 1月27日 実施計画書

伊那小学校での災害教訓伝承実施内容

- 日程 1月27日(火) 10:45 ~12:15
- 対象 伊那小学校6年順組
- テーマ 災害体験談を聞いて災害時に自分たちに出来ることを考えよう

- 実施内容
 - ⑬ 過去の災害についてお話を聞こう(10:45~11:15 30分)
過去の災害体験談と平成18年災害のときにどのような対応を取ったのか、また避難や避難所の様子についてお話をしていただく。
 - ・ 災害体験者 伊東 義人さん(元高遠支所長)

 - ⑭ 知りたいことを質問してみよう(11:15~11:30 15分)

 - ⑮ 伊那市の防災マップを見ながら、避難場所やどういうタイミングで避難しなくてはいけないのか確認する(11:30~11:45 15分)

 - ⑯ 災害時に自分たちに出来ることを考える(11:45~12:00 15分)

 - ⑰ 発表(12:00~12:10 10分)

 - ⑱ とりまとめ(12:10~12:15 5分)

- 子どもたちに伝えたいこと
 - ・ 災害にあうというのは大変なことなんだな
 - ・ 避難した人たちはこんなことで困っているんだな
 - ・ 災害時にきちんと対応するためには、的確な情報が必要なんだな
 - ・ 災害時には様々な人が対策にあたっているんだな
 - ・ 住んでいる場所によって避難する場所が決められているんだな
 - ・ 自分で自分の身を守るということが大切なんだな

授業の流れ

1/20 「過去の災害・天竜川の流路変遷について学ぶ」

【前回学んだこと】

- ・天竜川は洪水などにより、流れる場所が大きく変化していた
- ・流路が変わることで村どうしの争いが起きていた
- ・昔の人が水害と闘ってきたしるしが残っている



- ・これからの災害が起こる可能性がある
- ・災害が起こったらどうしたらいいんだろう

1/27 「災害体験談と避難対応のお話を聞く」
「災害時にどのように避難するべきか考える」
「災害時に自分たちに出来ることを考える」

【授業の内容】

- ④ 過去の災害体験談を平成18年災害時の避難対応を中心に話していただく
災害時にどのような対応がとられているのか考える
- ⑤ 伊那市の防災マップを見て、自分の住んでいる場所が危険地域ではないか確認する
- ⑥ 災害時に必要な情報や避難に必要なものを確認する
実施に災害が起こったときにどのように対応するべきか考える
自分の身を守る大切さについて再確認する
- ⑦ 伊那小学校は避難所となっているが、災害時に自分たちにも出来ることはないか考える

自分の身は自分で守ることが大切
災害時に自分たちにも出来ることがある



- これまで学んできた地域の災害や災害時の対応について班毎に一番記憶に残っている内容をまとめて『防災チラシ』を作成
- 天竜川周辺の人に、災害時や普段の川との関わり方をヒアリングする
- ヒアリングの際に防災チラシを配布して、自分たちの学んだことを地域に発信していく

8-2. 災害教訓伝承講座(上伊那公民館連絡協議会合同研修会)

・実施計画書

上伊那公民館連絡協議会合同研修会 実施内容

○ 実施日 平成 21 年 2 月 12 日 (木)

○ 会場 伊那公民館

○ 実施内容

■研修Ⅰ 「天竜川の災害の歴史と伝承について」

13:25～13:50 災害教訓伝承について 講師：日本工営株式会社 飯沼達夫

- ・ 天竜川上流河川事務所災害教訓伝承活動の紹介
- ・ 公民館で今後実践可能な伝承講座について
災害伝承ビデオや伝承カルタ、伊那おはなしマップの活用について
(災害伝承ビデオの放映)

13:50～14:30 天竜川流域の災害について 講師：天竜川上流河川事務所工務課
荒木秀文建設専門官

- ・ 平成 18 年豪雨災害について
- ・ 天竜川激特事業の概要について
- ・ 質疑応答

■研修Ⅱ 現地研修「天竜川激特事業」

14:40～15:20 中央第 1 護岸工事現場にて

- ・ 現在行われている工事について現場見学しながら説明

○ 配布資料

- ・ 伊那おはなしマップ
- ・ 語りつぐ天竜川 (天竜川の川の碑)
- ・ 天竜川激特事業資料
- ・ アンケート (災害伝承についてのご意見と今後公民館で実施可能な内容について) →研修終了後にアンケート依頼

○ 用意していただくもの

- ・ スライド、プロジェクター
- ・ テレビ、DVD デッキ
- ・ ヘルメット、長靴

平成18年7月豪雨災害



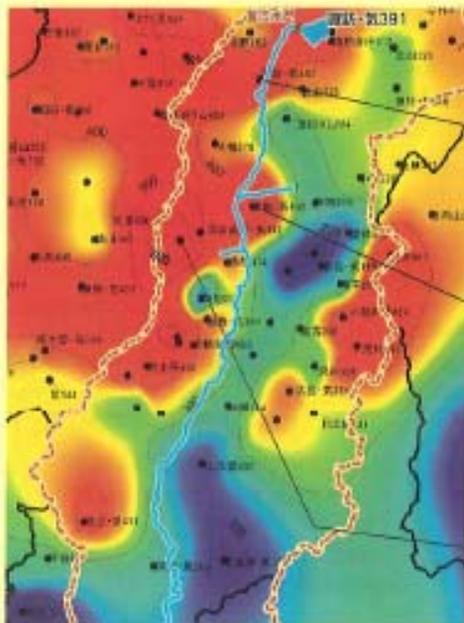
北島破堤箇所応急復旧状況



北島破堤箇所緊急復旧完成状況

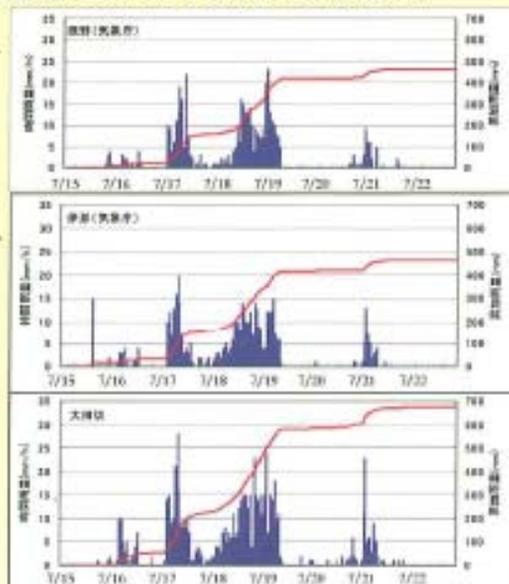
天竜川上流河川事務所 工務課

平成18年7月豪雨の降雨状況



平成18年7月豪雨(7/15~7/23)

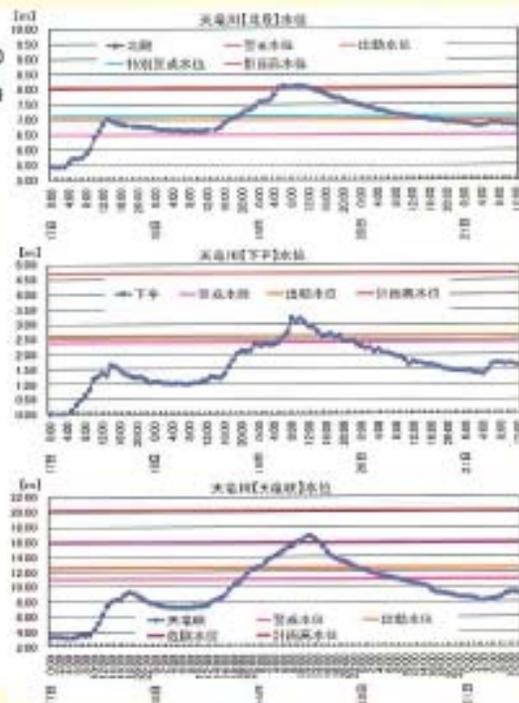
平成18年7月15日以降、梅雨前線が本州付近に停滞し、南から暖かく湿った空気の影響で活動が活発となり、長野県内では18日夕方以降大雨を記録した。



天竜川の水位と流量の状況



※水位、流量の値は観測値であり、報告により変更となる可能性がある。

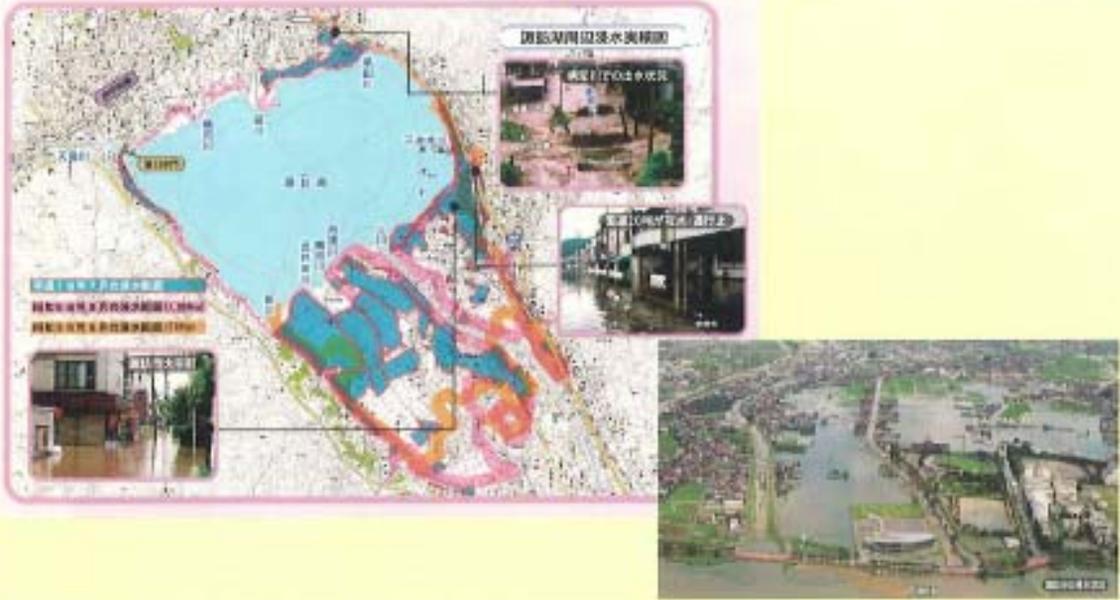


天竜川上流部における災害の状況



「諏訪湖」の被害状況

諏訪湖周辺では、諏訪湖水位が平成18年7月19日9時から21時まで、約12時間にわたり計画高水位を上回った。(最大約13cm) 浸水面積は約558ha、床上浸水1,076棟、床下浸水1,465棟、JR中央本線や国道20号も約37時間にわたり全面通行止めになりました。



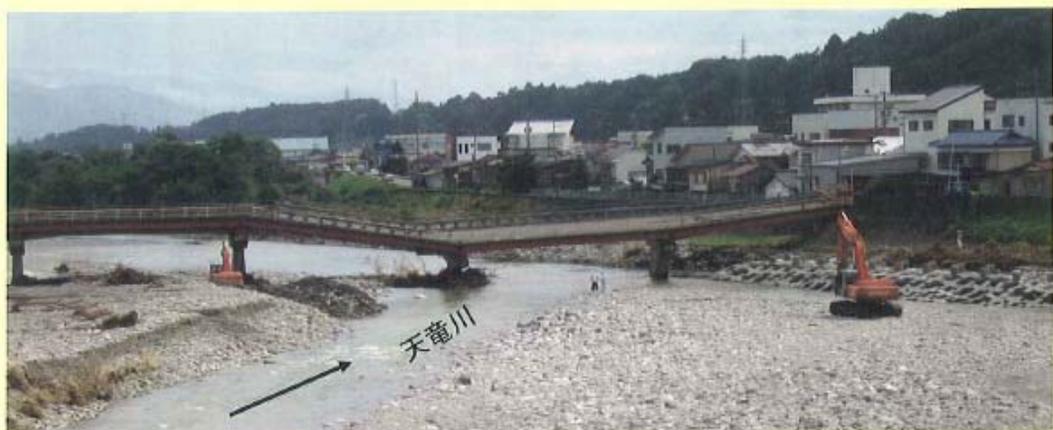
天竜川上流部における浸水被害の状況



南箕輪村北殿地区の状況



伊那市殿島橋の状況



中川村小和田地区の浸水状況



高森町市田地区の状況



飯田市座光寺地区の状況



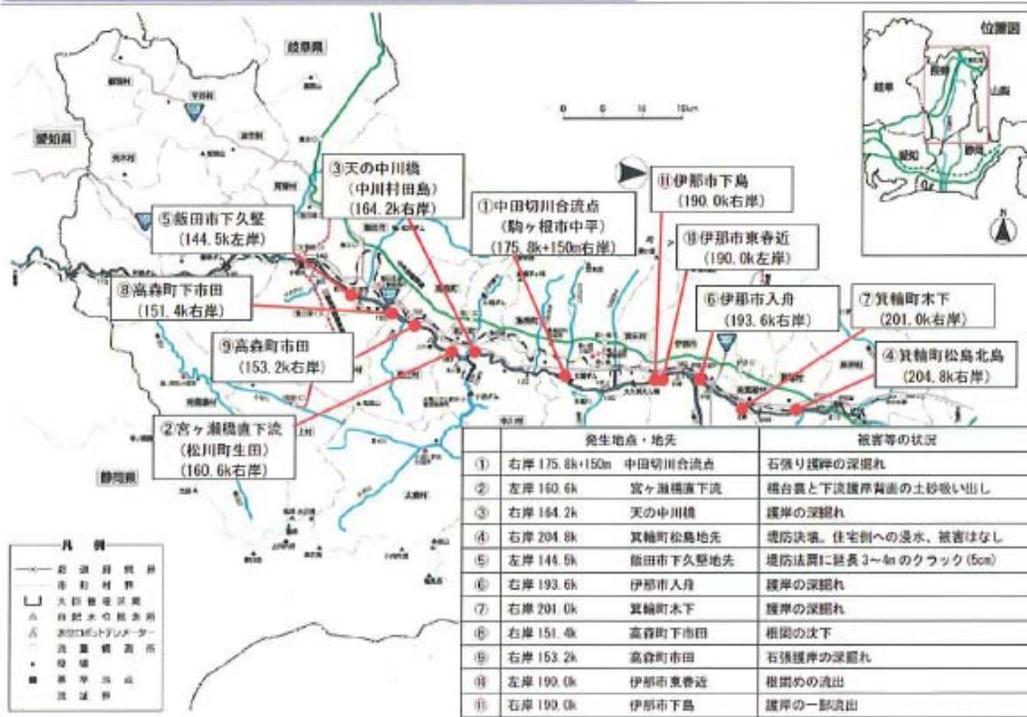
飯田市松尾地区の状況



飯田市川路・龍江地区の洪水時の状況

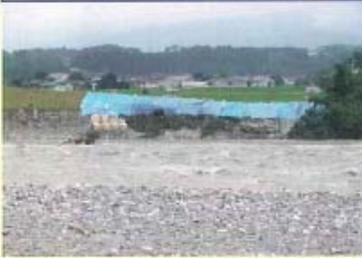


天竜川における河川構造物の被災状況



河川構造物の被災状況

①右岸175.8k+150m 中田切合流点



⑥右岸193.6k 伊那市入舟



⑧右岸151.4k 高森町下市田地先



③右岸164.2k 天の中川橋下流



河川構造物の被災状況

⑨右岸153.2k 高森町市田地先



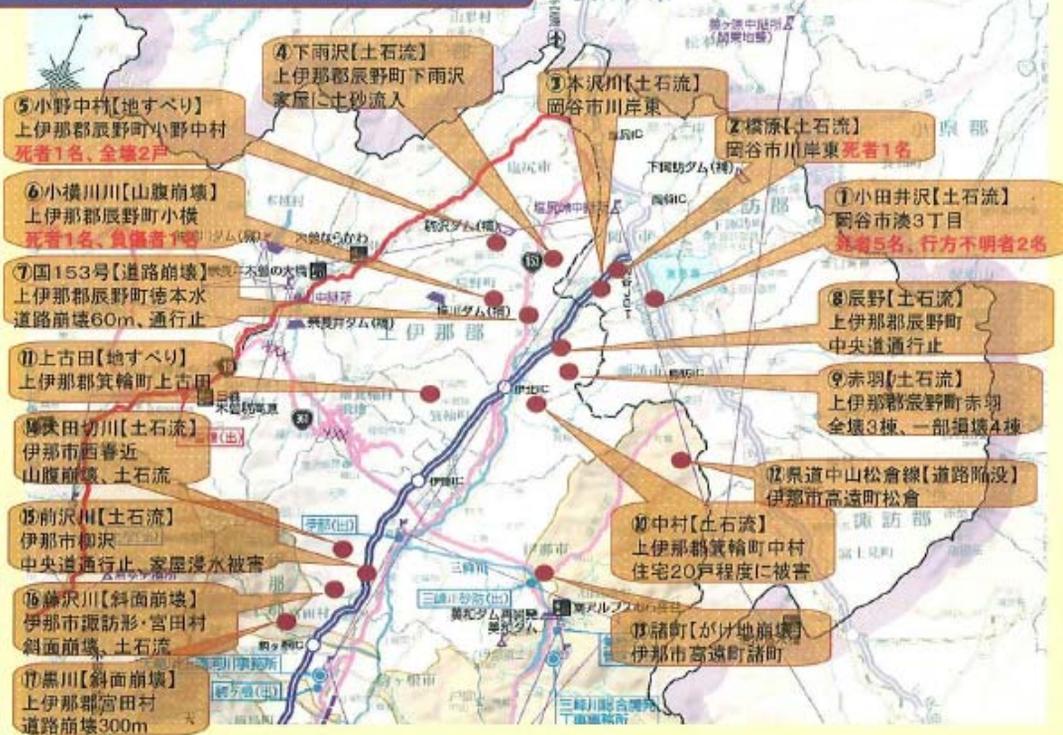
⑩左岸190.0k 伊那市東春近



⑪右岸190.0k 伊那市下島



天竜川上流域での土砂災害



「北島堤防」の被害状況



堤防欠壊前後の状況

- 5:40 諏訪湖水位1.92m超過 放流量増(300→400t)
- 6:00 特別警戒水位超(伊那高観測所)
- 6:15 箕輪町、松島区一部へ避難勧告(440戸、1,117人)
- 9:00 避難勧告を避難指示に切り替え
- 9:35 堤防欠壊を現地確認
- 10:40 箕輪町、避難指示エリアを拡大(830戸、2,099人)

大型コンクリートブロック投入などの洗掘防止対策により、侵食の拡大を防いたが、水位低下とともに被災箇所欠壊は160mに達した。

7月19日 8:35



7月19日 9:30



7月19日
8:50

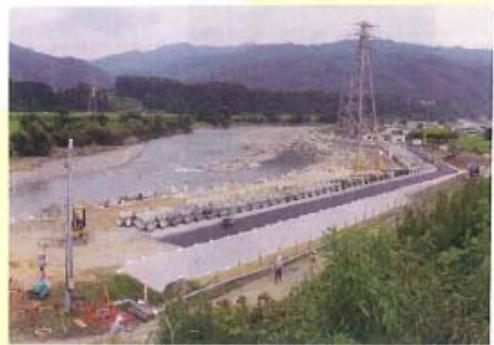
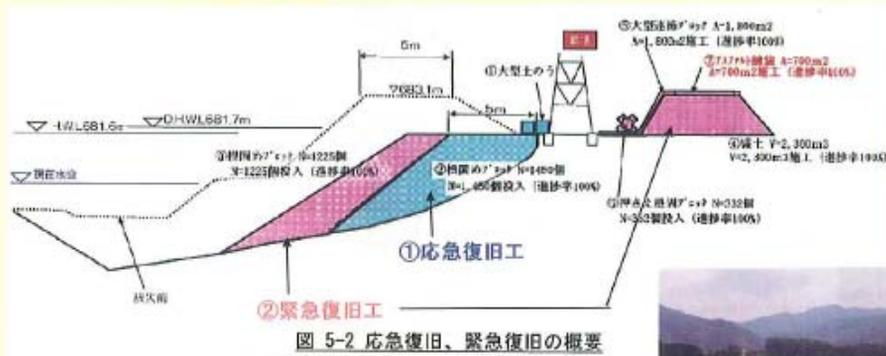
「北島堤防」の緊急復旧

① 応急復旧工

浸食被害の拡大防止を目的に、大型土のう及び大型コンクリートブロックを投入。

② 緊急復旧工

被災前の堤防機能を確認するため、大型コンクリートブロックの投入、盛土、接続ブロック張工等を実施。



● 松島地先現場工事進捗状況

7月20日(木)午前6時



7月21日(金)午後8時(午後7時30分 応急復旧工事完了)



7月25日(火)午後6時



7月31日(月)午後3時(緊急復旧工事完了)



中部地整内の資材連携

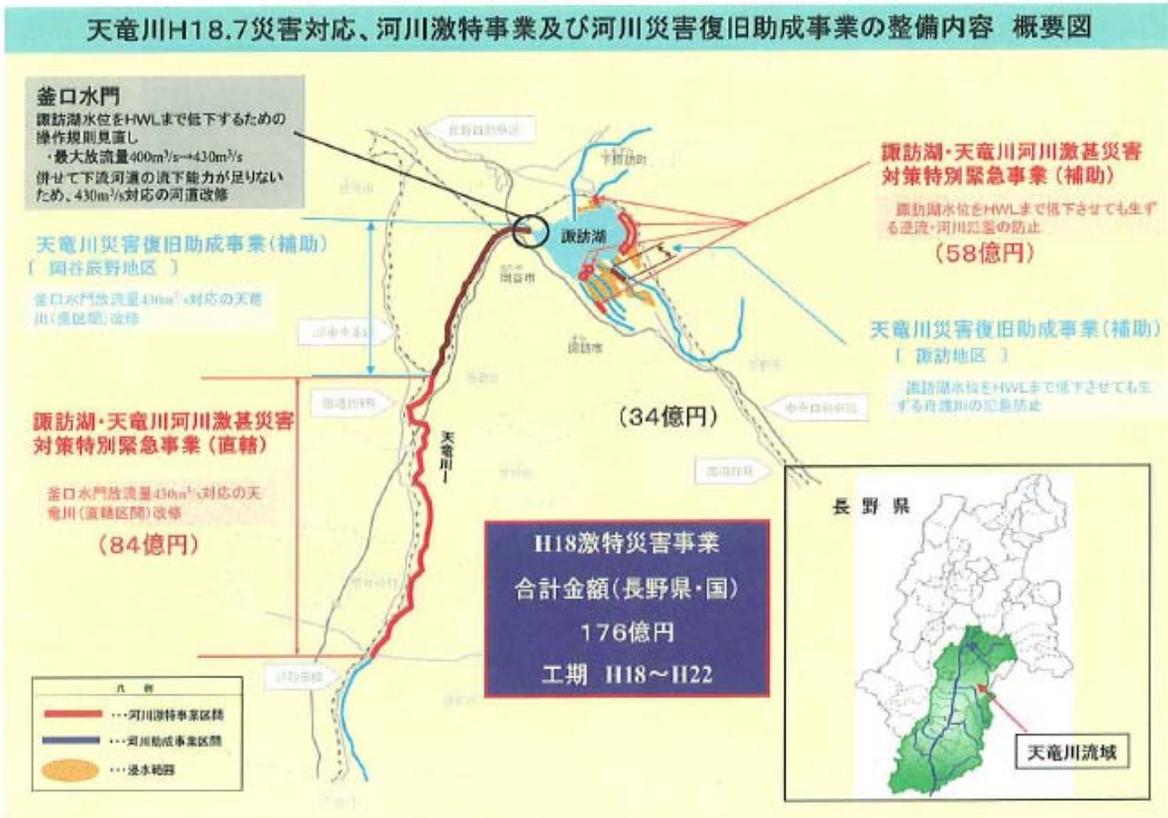
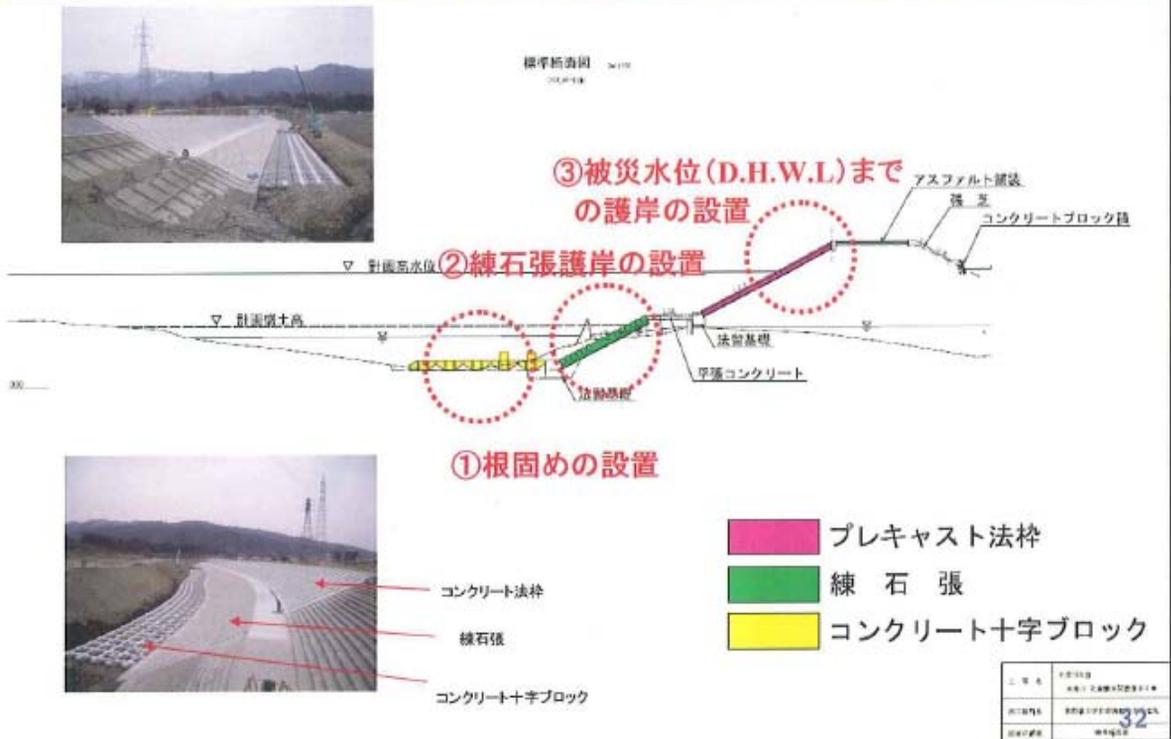


緊急復旧完成(7月31日)



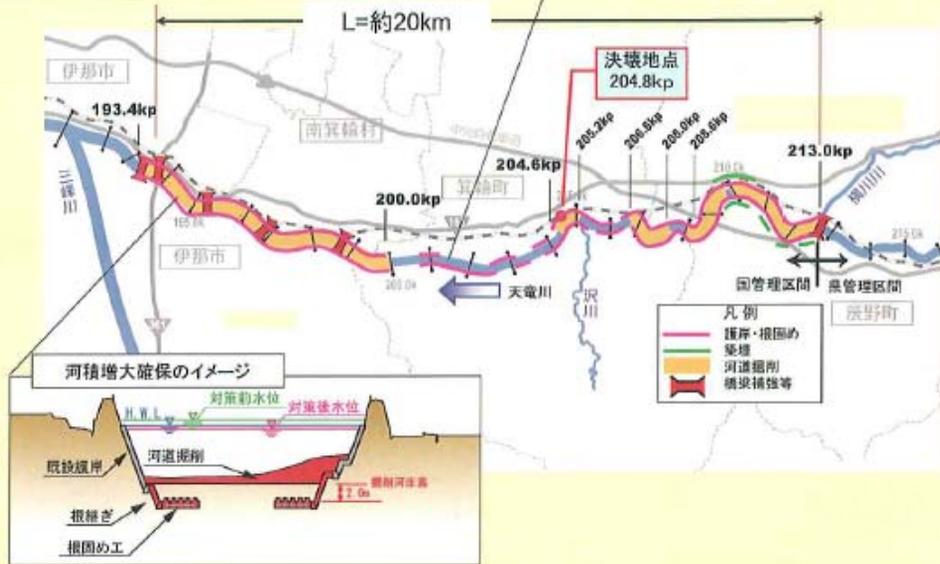
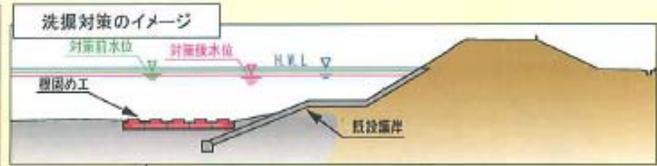
【上伊那郡箕輪町松島北島地先(天竜川204. 8k付近右岸)】

「北島堤防」の復旧

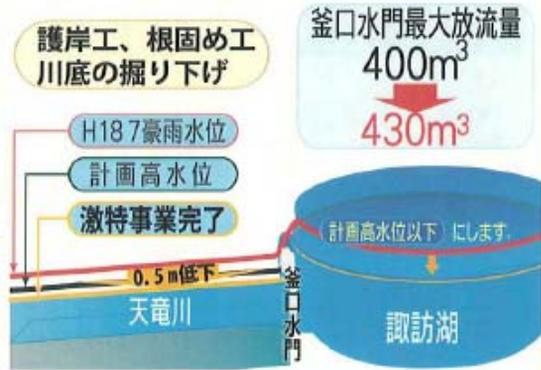
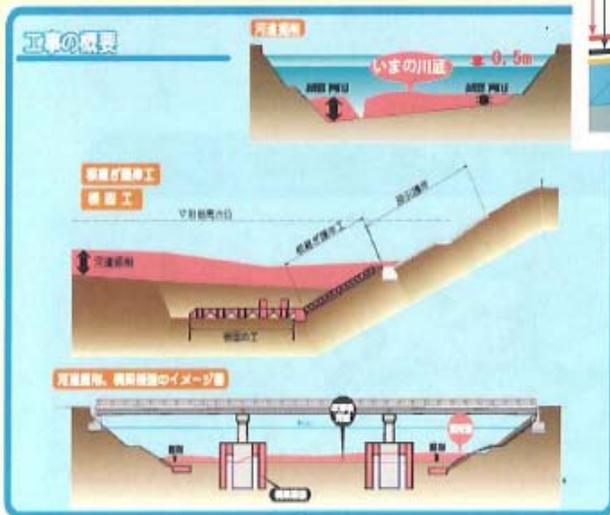


諏訪湖・天竜川 河川激甚災害対策特別緊急事業の実施箇所と整備内容(国管理区間)

「平成18年7月豪雨」に伴う出水で堤防の決壊等の河川管理施設が被災した区間のうち、洪水流の水位が計画高水位を上回った区間を対象に河川激甚災害特別緊急事業により、築堤・護岸、河道掘削等を実施し、洪水を安全に流下させ、被害の軽減を図ります。



激特事業の工事内容



流量の増加を行う方法

1. 川幅を広くして、増加する。
2. 堤防を高くして、増加する。
3. 川底を深くして、増加する。

天竜川では、3. 川底を深くする方法で対応する。

伊那市内で計画している激特工事



南箕輪村内で計画している激特工事

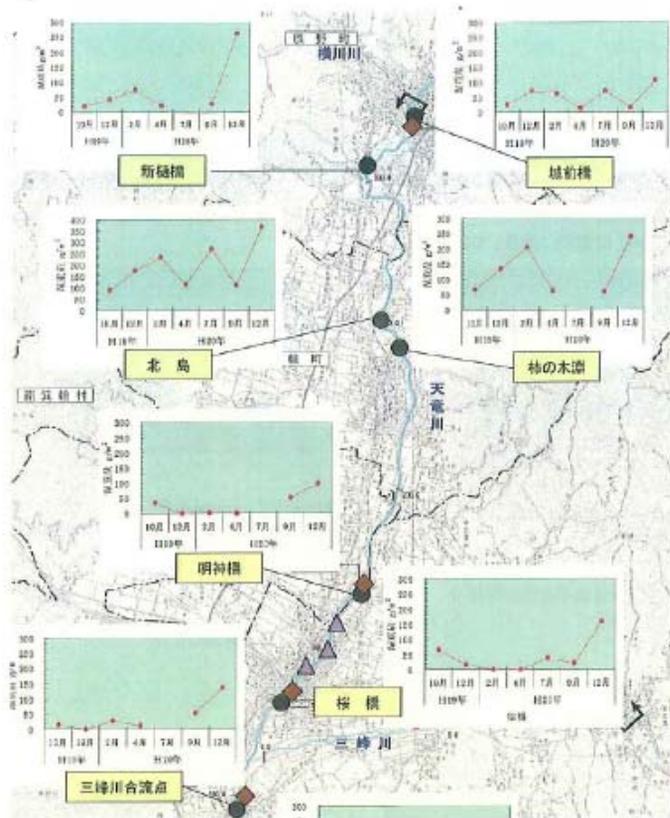


箕輪町内で計画している激特工事



辰野町内で計画している激特工事





ザザムシの継続調査

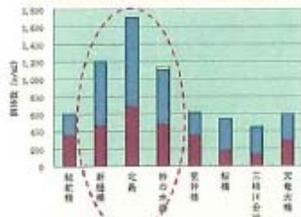
ザザムシ生息数調査地点

・激特區間内 7地点

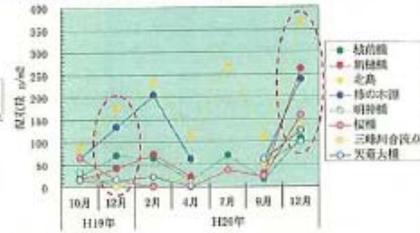
			
城前橋	新橋橋	城前橋	新橋橋
			
北島	林の木津	北島	林の木津
			
明神橋	桜橋	明神橋	桜橋
			
三峰川合流点		三峰川合流点	
調査地点周辺		確認状況	

12月調査時のザザムシの生息量および既往データとの比較

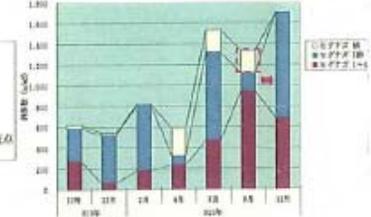
- 12月のザザムシ生息量は近年で最も多かった。特に北島周辺の生息量が多かった。
- ヒゲナガカワトビケラの冬世代(春季に羽化し産卵する世代)は順調に成長していると考えられる。



12月調査におけるザザムシの個体数



平成19年10月から平成20年12月にかけてのヒゲナガカワトビケラの生息量(湿重量)



平成19年10月から平成20年12月にかけての、北島におけるヒゲナガカワトビケラの発育段階ごとの個体数構成比

※ザザムシの個体数、生息量の調査地点間の傾向は、9月の調査結果と概ね同様であった。

※平成20年9月には1~4齢(若齢)幼虫が多く、蛹もみられたが、12月には5齢(終齢)幼虫が増加し、蛹は姿を消した。

仮設備配置計画(仮橋切工事順序)

濁水を少なくする仮設計画(1)

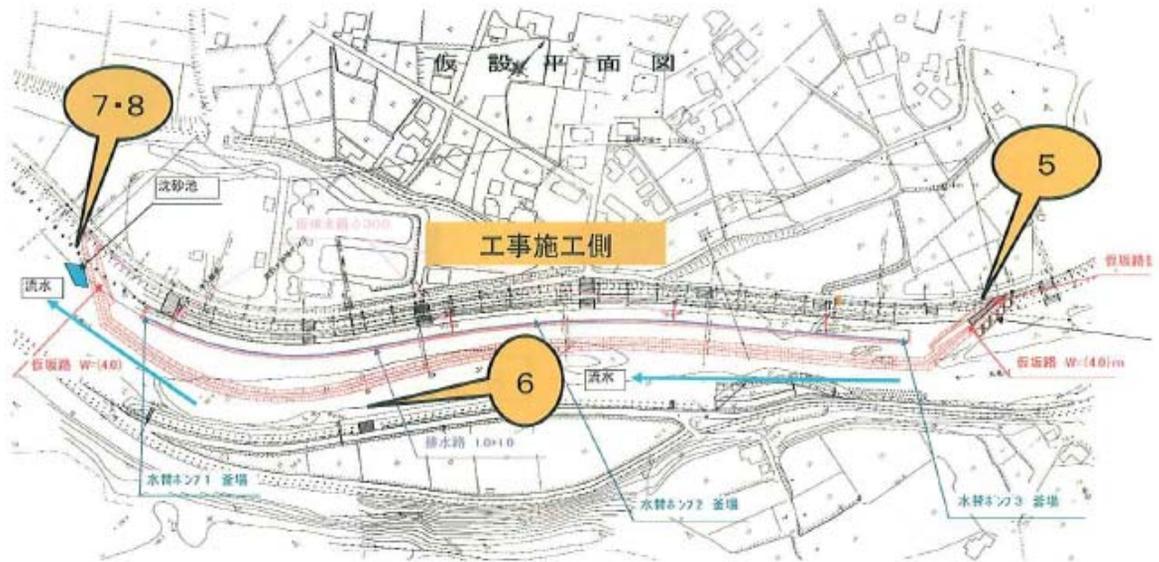


橋切設置計画手順 (第1段階)

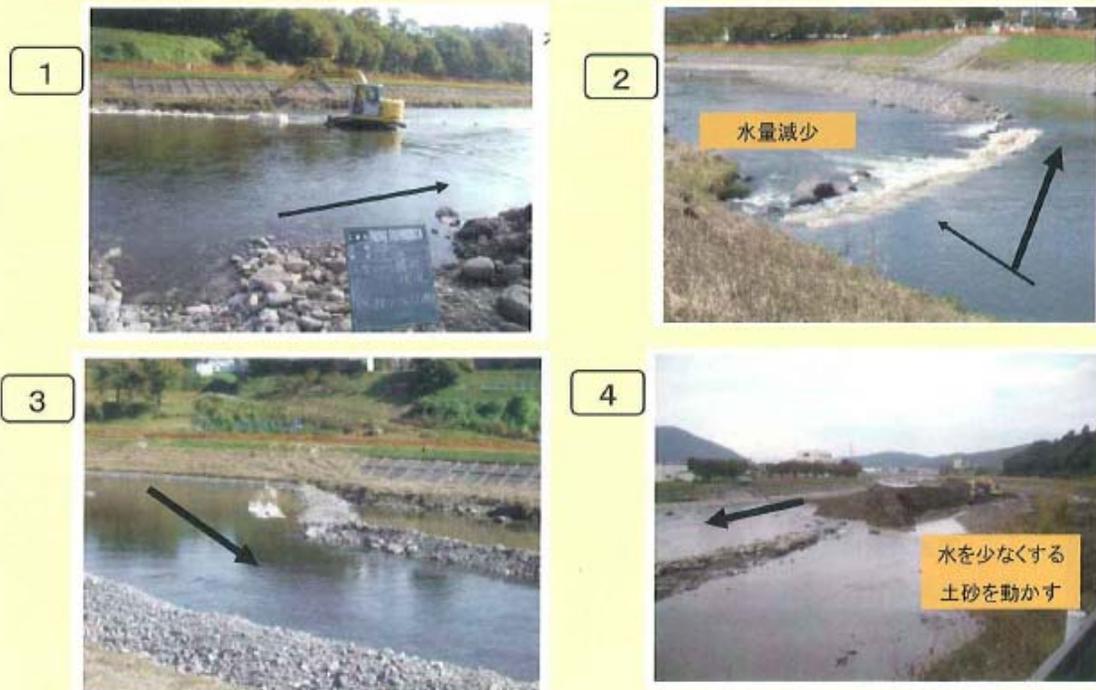
- 1の地盤土を右岸側に移動し右岸側へ水を導く。(後に仮橋切・仮取道に活用する。)
- 2の大型土蓋を右岸側より「かか(カレン仕様)」をいれて設置する。
- 3の既存の河道掘削を行い、4の橋所に仮置きし支保への過水路を開ける。(河床は造作計画河床)

右岸側通水のためのスペース確保
掘削時の流速を落とし流れを変え
左岸側通水スペース確保

濁水を少なくする仮設計画(2)



濁水に対する工夫状況①



濁水に対する工夫②

5



7



沈殿池

6



8



フィルター濾過

ダンプトラックの粉塵に対する取り組み



高速噴射による泥落とし
水路走行による泥落とし



清掃車による粉塵清掃



市町村別被害状況

(長野県調べ)

地区名	浸水面積 (ha)			建物被害状況 (棟)				合計
	農地	宅地	合計	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	
諏訪 ^(※1) (諏訪湖周辺[3市町] ^(※2))	216 (216)	347 (342)	563 (558)	1 (0)	3 (0)	1,087 (1,076)	1,491 (1,465)	2,582 (2,541)
上伊那 ^(※3)	71	15	86	5	3	28	313	349
下伊那 ^(※4)	8	4	12	0	0	1	3	4
総計	295	366	661	6	6	1,116	1,807	2,935

※1：諏訪市、下諏訪町、岡谷市、茅野市 ※2：諏訪市、下諏訪町、岡谷市 ※3：塩尻市、辰野町、箕輪町、南箕輪町、伊那市、駒ヶ根市、飯島町、中川村
 ※4：喬木村、飯田市

避難指示・避難勧告・自主避難の状況

地区名	対象世帯	対象人数	避難人員 ※
諏訪	3,564	8,302	2,527
上伊那	5,111	14,596	3,967
下伊那	187	648	200
総計	8,862	23,546	6,694

※避難人員はピーク時の人数

※長野県調べ

消防団(水防団)の活動状況

地区名	活動人員 ※
諏訪	5,404
上伊那	5,106
下伊那	620
総計	11,130

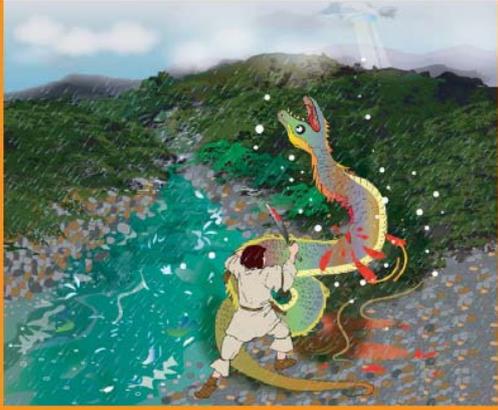
※活動人員は延べ人数

諏訪湖および諏訪湖周辺の河川では、特に甚大な浸水被害が発生しました。
 建物被害は家屋の全壊、半壊合わせて12棟、床上床下合わせて約2,900棟、避難指示勧告は約8,900世帯に
 および約6,700人が避難をしました。
 延べ11,000人あまりの水防団員による土のう積・シート張りなどの水防活動が行われました。

○伊那市に伝わることわざあれこれ○

- 北風が吹くと大水がでる（東春近）
- 西胸へ雲が出ると近いうちに雨（長谷）
- 土にかけるスガシ（地蜂）がホにかけると、台風が来ない年。
- 蜂の巣が低い場所にある年は大風が吹く
- 夕焼けは晴、朝焼けは雨
- 樹上で青蛙が鳴くと雨
- みみずが地面を這うは雨
- 水こい鳥が鳴くと雨が降る
- 禪（ふんどし）が下がれば雨が降る
- 夕方手楯が騒げば雨が降る
- 川下で瀬鳴りがすると雨が降る
- 雪の降る時「桑原、桑原」と唱えると落ちない
- 火の夢は水出、水の夢は火事がある
- 猫が耳を越して顔を洗うと雨

伊那市に伝わる 災害おはなしマップ



天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会

伊那市に伝わる災害 おはなしマップ



★ 伊那市に残る災害にまつわるおはなし・・・1～4ページ
● 水害にまつわる石碑や指標・お祭り・・・5～6ページ

●天竜川のおはなし

天竜川は、昔から大雨が降ると川筋が変わるほどに氾濫したので、「あばれ天竜」といって恐れられていました。また、伝説も多く残されています。

むかし南の海に住んでいた大きな竜は、暴れんぼうで気性が荒く、仏様に天の果へと追いやられてしまいました。竜は、天に昇ってから雲や風をけちらし、強そうにそびえる八ヶ岳にけんかをしかけました。ぐるぐると山に巻きつき締めつけたので、こらえきれなくなった八ヶ岳はどかんと噴火しました。その勢いで竜は吹き飛ばされ、伊那の山々の間にどっさりと落ちました。その跡に川が流れ、天竜川と呼ばれるようになったといわれています。

むかしのおはなしは、川がときに恐ろしい姿に変わり、襲いかかってくることを教えてくれています。

★ 天竜川の川筋の変遷 (伊那市 伊那大橋を中心として)

① 元禄以前の川筋
② 元禄以降の川筋
③ 文化頃の川筋
④ 幕末までの川筋
⑤ 今の天竜川

（「伊那市史 歴史編」図4・17、pp.1134.J」に加筆）

しっかりした堤防や護岸が出来る前の天竜川は、洪水の度に本流が蛇行し、今と違うところを流れていました。江戸時代の古文書に見られる記録や古老のはなし、川の流れる地形や淵（水が淀んで深いところ）の跡などから推定した川筋の変遷が、「伊那市史」に書かれています。

江戸時代の元禄以前の川筋は、今よりも東側の段丘沿いに流れ、大橋のあたりから西よりに流れていました。（①）

元禄から文化頃までは、伊那市の御園地区に残る水神碑のあたりから天竜川の本流が西側に切れ込み、大橋のあたりから東よりに流れていました。（②③）

江戸時代の終わり頃、長い間水害を受けてきた山寺村の願いが高遠藩に聞き入れられ、萩島から北清水・荒なぎに向かって本流を入れる堤防がつけられました。（④）

★ あばれ天竜にまつわる村争い (伊那市 大橋あたり)

むかしの天竜川は、「あばれ天竜」といわれ、江戸時代の約270年間に90回ほどの水害を繰り返してきました。あばれ天竜は、人々が一生懸命に耕した田畑や家を呑み込み、川を挟んだ村々の境界を変えてしまうので、村同士の争いがおこりました。むかしの人々にとって、あばれ天竜は生活の糧を奪ってしまう存在であり、守ることに必死だった姿を思い浮かべることができます。

「島」という海や湖の中にある島を思い浮かべますが、海と無縁の伊那市にも「島」のつく地名が多く残されています。これらは、川に沿った場所につけられている特長があります。「萩島」「萩島」「中島」などは、江戸時代の天竜川の川筋に沿って残されています。

★ 見通し桜 (伊那市 萩島)

むかし、延享元年（1744年）の大洪水で、村境であった「萩島」が流失してしまいました。これをきっかけに、萩島村と西町村・荒井村との村境の絵図が作製され、後の洪水による境界争いの判断の基本とされました。見通し桜は、境界を定める基準点のひとつとして絵図に記されており、二代目の桜が今も大切に守られています。

下の歌は、江戸時代の終わり頃に泡盛する天竜川をはさんでおこった、五か村の水争いを、たくみに織り込んでつくられた狂歌です。さて、争った村とは、どこの村だったでしょうか？ 左上の地図を見て、五つ考えてね。

ふるぎつね、山寺下を海にして あら恐ろしや、いま出て見れば
(答えは、7ページにあります。)

★ 赤河原の大蛇 (伊那市長谷黒河内)

むかし、長谷の山奥を流れる戸台川の上流に七色のうろこを持つ大きな大蛇がすんでいました。大蛇はときどき里におりてきては悪さをするので、人々に恐れられていました。

あるとき、ヤマトタケルが、東国の悪者征伐から帰る途中、東駒ヶ岳を越えて入野谷へとってきました。そこで、この悪い大蛇の話聞いたヤマトタケルは、戸台川の河原で大蛇を見つけると自慢の太刀をふりあげました。

大蛇は、七色の輝きを放ちながら大きなとぐろを巻いて、ヤマトタケルを一飲みしようとしたと襲いかかりました。大乱闘の末、体を切りつけられた大蛇は、苦しみのあまりに広い河原をのたうちまわりました。

そのとき、大きなうろこが空高く飛び散り、大空にキラキラと虹を輝かせながら南アルプスの深い谷の中へと散り散りに落ちていきました。

そして、とうとう大蛇は息が絶えてしまい、あたりの河原は噴き出した大蛇の血潮で、燃えるような赤色に染まっていました。

ヤマトタケルは、退治した大蛇の頭をたずさえて、蒲口の里までおりてくると、大きな桑の木の下で大蛇の頭を埋めて、人々を苦しみから救いました。その後の人々は、尾張の国から熱田神宮（現在の名古屋市熱田区）をおむかえて、ヤマトタケルをお祀りしたということです。

ヤマトタケルが大蛇を退治した河原付近の石はどれも赤い色をしていて、そのあたりは、今も「赤河原」という地名が残されています。また、三峰川には、七色に輝ききれいな珍しい石があり、人々から「三峰川の七石」と呼ばれています。

★ おや子石 (伊那市高遠町御堂垣外)

ずうっとむかしのことだ。大じしんでな、地山がくすれて、ドドドーっと土砂が、おしだしたと。地山には、おや子の山犬がすんだったが、おったまけて逃げだしたとき、さきに母犬が、小犬をつれてな。あとから追いかけてきた父犬は、ワン、ワン、ほえながら逃げた。が、御堂垣外まできた時に、藤沢の蛇ぬけにおしながされて、石になってしまったそう。母犬と小犬は、キャン、キャン、なきながら、どんでん逃げた。けれども、おっかなくて、せつなくて、とうとう中条でな、べったりすわりこんだまま、二つの石になったとき、それだもんで、父犬の石を「犬石」といい、母犬と小犬の石を「子つれ石」とよんだそう。

それから、「地山おしだす、犬石ほえる。ないてにげるは、子つれ石。」とうたわれるようになったとき。それらの石は、今はない。道ぼしんにでもつかわれてしまったのかな。（「天竜川の災害伝説 伊那の民話-信濃の民話」より）

大量の水を呑んだ土砂が一気に流れ下る「土石流」を「蛇抜け」といったりします。「おや子石」のおはなしは、地震で山崩れがおこった後に、大雨などが引き金となって「蛇抜け」が襲ってくる危険性があることを私たちに教えてくれています。

★ 経塚 (伊那市東春近六軒屋)

荒れ狂う水の勢いを目のあたりにして、川が静まるよう、人々は繰り返し祈りました。三峰川を見下ろす段丘のふちに、「経塚」と呼ばれる古墳があります。文化六年（1809年）に三峰川が大洪水になり、上殿島地籍は大きな被害を受けました。その際、人々が水難除けの大般若経を転読し祈禱を行い、この場所に経文を埋めたといわれています。

洪水を鎮めるために祀られた水神やお祭り、水との関りの歴史や出水の指標など、昔の水害を今に伝えてくれる場所が、伊那市にはたくさんあるよ！

水害にまつわる石碑や出水の指標・お祭り

- 1 福島の九頭龍神 (伊那市福島)**

堤防裏面に設置されている九頭龍神です。九頭龍は、戸隠神社の水の神様で、江戸時代の頃には、治水工事の前線に建てられました。



(「三十年のあゆみ」より)
- 2 柵立の碑 (伊那市野底)**

洪水の惨状から美田を守るため、高遠藩の郡代「坂本天山」は、数万人の労力と莫大な費用をかけ、自ら指揮をとってこの地に柵立堤防を築きました。


- 3 双葉神社 (伊那市御園)**

当初、天竜川と大清水川の合流点の堤防上にあった一本杉のたもとに水神として祀られていました。その後護岸工事に伴い移転し、社殿が建設されました。


- 4 山寺の水波能売神 (伊那市山寺)**

「水波能売神」は、日本神話に登場する水の神様です。イザナミが火の神様を生んで火傷し、苦しんでした尿から、五穀・養蚕の神とともに生まれました。



5 天竜川改修記念碑 (伊那市東春近田原)

昭和22年6月天竜川が直轄編入され、最初に着手されたところに建てられた記念碑である。
(「三十年のあゆみ」より)



6 さんよりこより (伊那市美薙川手・富県桜井)

「さんよりこより」とは、洪水をおこす厄病神を叩き潰すかけ声です。昔の洪水で、順に流れついでた天伯様を御輿に担ぎ、三峰川を歩いて渡ります。



7 波切り不動明王像 (伊那市高遠町勝間 勝間大橋)

三峰川沿岸は梅雨に、台風にも、いつも洪水におのいてきた。そこで、勝間の村人は、水の脅威を鎮めてもらおうと不動明王に登場願った。(「天竜川の川の碑」より)



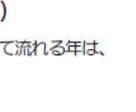
8 高遠弁財天 (伊那市高遠町 弁財天橋)

河中の天然石の上に祀られている弁天様。過去の幾多の洪水にも流されたことがないという。岩は、自然の量水漂のやくめもしてきた。(「三十年のあゆみ」より)



9 米高岩 (伊那市高遠町多町 天女橋)

天女橋の下にある。三峰川の水がその岩に当たって流れる年は、お米の値段が高いという。
(「長野県上伊那誌5 民俗篇上」より)



むかしから語り継がれてきた災害のおはなしは、災害から身を守る知恵や「二度と悲しい思いをしてほしくない」という人々の願いが込められているよ！もっとくわしく知ってみよう！

- まずは、家族や地域の人々に聞いてみよう！
- 図書館で市町村誌や本を調べてみよう！
- おはなしにまつわる場所に行ってみよう！

学習施設や災害の記録に関する本

- 砂防情報センター
(<https://www.tenjo.go.jp/imushoho/hyaka/kouhou.html>)
- 語り継ぐ天竜川シリーズ
天竜川流域の災害・環境・歴史・文化などをテーマに執筆され、現在全61巻。天竜川上流河川事務所のホームページからダウンロードすることができます。
(http://www.tenjo.go.jp/imushoho/hyaka/publication/pbl_tell/pbl_tell.html)
- 長野県災害体験集
(<http://www.pref.nagano.jp/kikkikan/bosai/taiken/hm/index.html>)
- 「上伊那川たんけんブック 天竜川とわたしたちのくらし」
(平成18年5月1日刊行)
編集：上伊那川たんけんブック編集委員会、上伊那教育会郷土館部専門委員会
企画・発行：国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

こたえは、古町村・狐島村・山寺村・荒井村・西町村のことだよ！「ふるごつね」は古町村・狐島村の百姓たちのこと。山寺下は大橋の西側あたりのことで当時は、山寺村だったんだ。「あら」は荒井村、「いま」が当時の西町村にあった伊那郡宿のことで、天竜川の洪水を高見の見物できた場所なんだよ。

クイズの答え

参考文献

- 「天竜川の災害伝説」 (平成5年3月19日発行)
著者：世本正治 企画・発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所
- 「天竜川の川の碑」 (平成20年発行)
著者：竹入弘元 企画・発行：国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所
- 「伊那市史 歴史編」 (昭和59年9月27日発行)
編集：伊那市史編纂委員会 発行：伊那市史刊行会
- 「長野県上伊那誌5 民俗篇上」 (昭和55年1月15日発行)
著者：上伊那誌編纂会 発行：上伊那誌刊行会
- 「三十年のあゆみ」 (昭和55年3月発行)
発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所

お願い

天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会では、天竜川上流域に関する過去に起こった災害の記録や地域に伝わる災害伝承を収集・整理し、そこから得た災害教訓を活かして地域の防災力向上に役立てていく取り組みに取り組んでいます。
貴重な資料、ご意見などございましたら下記連絡先にお知らせください。
＜連絡先＞ 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会事務局
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10
国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
担当：調査課 (電話：0265-81-6415)
＜編集＞ 日本工営株式会社
※本誌の記事・写真・図表の無断転載は堅く禁じます。
(発行 平成21年2月10日)

○飯田市に伝わることわざあれこれ○

- 三日月の欠けた方が下を向いていると雨
- 南山に雲がかかると雨が降る
- 恵那山に雨が降るとすぐこっちにやってくる
- 京夕立は降りが長く長い
- 雲が北へ向うと必ず雨、東に向うと山雨
- 蜂が巣を高い所につくると後風がなく、低い所につくると合風がくる
- 蜘蛛の巣が沢山かかると晴れる
- 雨蛙が鳴くと雨が降る
- 壁がはねると雨が降る
- 猫が寝るこすると雨が降る
- 鍋の底に火がつくと雨が降る
- 石のコゲテ素なみ（落ちてこなし）ところ、水の近いところ、風の当たらないところに家を建てる

飯田市に伝わる
災害おはなしマップ



天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会



★ 貝鞍が池の主と人柱がわりの墓石 (飯田市川路)

池や川には主の大蛇や竜が棲んでいるといわれます。むかし、川路村の天竜川沿いには、貝鞍が池と呼ばれる池がありました。この池を埋め立てて新田をつくるということになりましたが、人々は大蛇のたたりを恐れ、人柱がわりにご先祖様の墓石を埋めて主の怒りを静めました。

いよいよ埋め立ての日、村で見慣れぬ美しい娘が、天竜川に沿って大下条にある深見の里へと急ぐ姿が見られました。深見の里では、麦畑が広がり吹き渡る風が穂先を揺らし、村人は穏やかに暮らしていました。

ある日、この里に居ついた娘は、井戸に水を汲みに行ったまま帰ってきませんでした。井戸には娘の下駄が脱ぎ捨ててあり、哀れに思った村人は井戸の底をあらいましたが、娘の姿はありません。

しばらくすると、晴れ渡った空が急に暗くなり、大雨が深見の里一帯を真っ暗闇に包み込みました。雨が上がり、村人が辺りを見回すと、麦畑が大きな池に変わっていました。驚いた村人は、お祭りをして水の霊を慰めたといわれています。

このように、主の大蛇が棲んでいる池や川を、人々が脅かすことによって天変地異がおこるおはなしは、伊那谷にたくさんあります。

🔍 主の大蛇が池に棲み続けることができなくなり、他の池に移り棲むというおはなしは、下伊那地域に多く伝わっています。

○池が洞の主 (飯田県町切石) ○蛇が池の主 (阿智村浪合蛇峠)

○とうぢやげの池の大蛇 (天龍村神原)

★ 水に挑んだ長左衛門のおはなし (飯田市北方)

水に挑み、偉業を成し遂げた山本長左衛門を称える石碑があります。むかし、新井川は、よく山揚げが起こり、荒れ果てていました。

長左衛門はこのことを知り、村人を救うために飯田の殿様に河川工事を願い入れ、仕事にとりかかりました。

ところが、降り続いた雨で水かさが増し、弱くなった土手が崩れ、家や田が流されてしまいました。村人から訴えられた長左衛門は、牢屋に入れられてしまいましたが、村のために用水を完成させたいという思いは変わりがありませんでした。牢屋の中で熱心に設計書をつくり直し、それが認められて再び河川工事を開始することができるようになりました。

そして長左衛門は、村人の非難にめげることなく、ついに用水を完成させたのです。このおかげで立派な水田ができ、村人からは感謝されるようになりました。

石碑は今もなお、水害に立ち向かった人の姿を伝えています。



★ 子泣き石 (夜泣き石) (飯田市上郷柳町)

月夜に山から大きな石がぶつかり合い、火花を散らしながら濁流とともに流れてきます。

正徳五年(1715年)未満水の時、小さな赤ん坊が、野底川から運ばれてきたという大石の下敷きになりました。それ以来、赤ん坊の悲しそうな泣き声が聞こえるようになり、哀れに思った近所の人たちが石の上にお地蔵様を祀ったところ、泣き声がピタリと止んだと伝えられています。

(「下伊那川たんけんブック天竜川とわたしたちのくらし」より)



★ 大宮諏訪神社への祈願 (飯田市宮の前)

むかし、正徳五年(1715年)未満水の時、荒れ狂う濁流から人々が大宮諏訪神社の高台に逃げ集まり、一心に祈願しました。すると、水の流れる野底川と松川へわかれ、飯田は大災害を免れました。以後、風水書鎮護の神として崇められていたといわれています。(「東野の百年誌」より)

🔍 伊那谷の水害は「満水」といって恐れられました。

満水は、天竜川沿いの低い土地でおこるだけでなく、高台の上や山すそなど、あらゆる場所に水と土砂がおそう伊那谷特有の土砂災害です。(「三六災害40周年 伊那谷の土石流と満水」より引用)

中でも正徳五年(1715年)の未満水は、未曾有の大災害として伝えられています。

★ 諏訪宮のなぎがま (飯田市上村上町)

むかし、飯田市上村中郷に祀られていた諏訪明神が、大洪水で今の諏訪宮まで流されてしまいました。その諏訪宮には、なぎがまが二本記ってあり、水害にあったときに祈願様がなぎがまを持って川に行き、川すじをひくとその通りになったと伝えられています。

(「天竜川の災害伝説」より)

🔍 本来諏訪信仰の中で風切りの薙い鎌として用いられたものが、天竜川流域では洪水の瀬を切る道具として用いられました。

豊丘村では、大水がたどるときに明神様でお祭りをし、神様からいただいた瀬分け鎌を持ってはだかになった大勢の若者が天竜川へとびこみ、瀬分け鎌を引くとたちまちに瀬が変わって村が助かったというおはなしが伝えられています。(「天竜川の災害伝説」より)



★ 水神・山の神 (飯田市上村・南信濃)

むかし、遠山谷では雨がたくさん降ると、水荒れ(洪水)と山荒れ(山揚げ)とが同時に襲いかかってくることから、山と水が関連する場所(山峡の橋のたもとや川を見下ろす山裾など)に水神と山の神の碑をたて、荒ぶる神を静めました。

また、山の神と水の神が結び合って水の供給源となることから、水源となる山にも祀られています。(「遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造」より)

🔍 本来遠山谷には「山の神・水神」と二つの神の名が並んで刻まれた石碑がたくさんあります。石碑とともに、山の神を表す赤い半紙と水神を表す白い半紙を二つに折り竹串にはさんだ「オタカラ」といわれる幣束が祀られています。(「遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造」より)



★ 北原の土石流 (飯田市下久堅北原)

むかし、正徳五年(1715年)未満水の時、飯田市下久堅北原で土石流が発生し、一晩で北原の裏の洞がぬけてできました。

またこのとき、洪水によりたくさんの流木が流れてくるので、天竜川にそれを拾いに行った人たちが多く、とうとう虎岩(飯田市下久堅)の五右衛門さんや和久平(飯田市下久堅)の助次郎さんは濁流に飲み込まれて行方不明になってしまったと伝えられています。(「天竜川の災害伝説」より)

洪水を鎮めるために祀られた水神碑や災害からの復興を記念した石碑・出水のめやすをはかった物が飯田市にはたくさん残されているよ！

水害にまつわる飯田市の石碑や指標

1 烏帽子(えぼし岩) (飯田市川路姑射橋下流左岸)
 むかし、仙人が宴をして酒に酔ってしまい、烏帽子を忘れていったあとにできた岩と伝えられています。
 地域では、洪水の時の出水規模のめやすとされてきました。

2 川路郷家屋移転記念碑 (飯田市川路)
 三六災害により川路地区の低平地の家屋は壊滅的な打撃を受け、災害後この地区の人々は移転しました。(「三十年のあゆみ」より)

3 三六災害最高水位標 (飯田市川路)
 天竜川総合学習館かわらんべ前の河原にあります。(「下伊那川たんけんブック 天竜川とわたしたちのくらし」より)

4 三六災復旧記念碑 (飯田市龍江)
 三六災害からの復興を記念して建立されました。(「三十年のあゆみ」より)

5 川路村からの移籍記念碑 (飯田市時又)
 時又の旧川路村からの移籍記念碑で、裏面に川路から時又に移籍した人々の氏名が記されています。(「三十年のあゆみ」より)

6 弁天引堤記念碑 (飯田市松尾)
 飯田松川の右岸から弁天橋を経て清水にかける松尾堤防を記念して建立されました。(「三十年のあゆみ」より)

7 河原弁天 (飯田市弁天橋付近)
 弁天橋下流左岸側の河原の自然石の上に祀られている弁天さまで、高遠の弁天さまと同様に出水規模の目安にされてきました。(「三十年のあゆみ」より)

8 徳本さまの碑 (飯田市上郷別符)
 正徳五年(1715年)未満水の後、徳本和尚が洪水で亡くなった人を弔ったと伝えられています。

9 九頭竜像 (飯田市上郷飯沼北条 御岳神社)
 九頭竜は治水の他、病氣平癒・火防・虫除けなどにも霊験があり、戸隠の山伏・御師が県外各地を回ってお札を配り、頼まれれば祈禱もしたといわれています。

むかしから語り継がれてきた災害のおはなしには、災害から身を守る知恵や「二度と悲しい思いをしてほしくない」という人々の願いが込められているよ！もっとくわしく知ってみよう！

- まずは、家族や地域の人に聞いてみよう！
- 図書館で市町村誌や本を調べてみよう！
- おはなしにまつわる場所に行ってみよう！

体験談・災害の記録に関する本

- **語り継ぐ天竜川シリーズ**
 天竜川流域の災害・環境・歴史・文化などをテーマに執筆され、現在全60巻。天竜川上流河川事務所のホームページからダウンロードすることができます。(http://www.tenjo.go.jp/jmushohp/hyaka/publication/pbl_tell/pbl_tell.html)
- **濁流の子 伊那谷災害の記録** (昭和39年12月23日発行)
 著者：碓田米一 企画：建設省中部地方整備局天竜川上流工事事務所
- **続・濁流の子 伊那谷昭和36年災害をのりこえて**
 (1993年3月発行)
 企画：建設省中部地方整備局天竜川上流工事事務所
- **「三六災害二十周年記念誌 恐怖の豪雨」**
 (1981年10月発行)
 編集：三六災害二十周年記念誌編集会 出版：上郷村職員互助会

学習施設

- **天竜川総合学習館かわらんべ**
 (http://www.tenjo.go.jp/kawaranbe/)
- **飯田市美術博物館** (http://www.wida-museum.org/)
- **大鹿村中央構造線博物館** (http://www.oskjanis.or.jp/miti-muse/)

参考文献

- **「下伊那川たんけんブック天竜川とわたしたちのくらし」**
 (平成19年4月1日発行)
 編集：下伊那川たんけんブック編集委員会
 企画・発行：国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
- **「三六災害40周年 伊那谷の土石流と満水」**
 (平成13年5月1日第2刷発行)
 編集：松島信幸・亀田武巳・村松武 発行：伊那谷自然友の会・飯田市美術博物館
- **「索野の百年誌」** (昭和45年12月発行)
 編集：東野百年誌編集委員会 出版：東野公民館
- **「天竜川の災害伝説」** (平成5年3月19日発行)
 著者：笹本正治 企画・発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所
- **「遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造」**
 (平成9年3月15日発行)
 著者：浮葉正親 企画・発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所
- **「三十年のあゆみ」** (昭和55年3月発行)
 発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所

お願い

天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会では、天竜川上流域に関する過去に起こった災害の記録や地域に伝わる災害伝承を収集・整理し、そこから得た災害教訓を活かして地域の防災力向上に役立てていく試みに取り組んでいます。
 貴重な資料、ご意見などございましたら下記連絡先にお知らせください。
 <連絡先> 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会事務局
 〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10
 国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
 担当：調査課 (電話：0265-81-6415)
 <編 集> 日本工営株式会社
 ※本誌の記事・写真・図表の無断転載は強く禁じます。

天龍川の

川の碑

竹入弘光

—— 目 次 ——

	はじめに	4
岡谷市	1 与謝野晶子歌碑	5
	2 開明社記念碑	6
辰野町	3 新村青圃句碑	7
	4 松尾芭蕉句碑①	8
	5 豊穰の碑	9
	6 松井芒人歌碑	10
箕輪町	7 有賀露草歌碑	11
	8 箕輪ダム由来碑	12
	9 水神	13
	10 西天竜水路記念碑	14
南箕輪村	11 以和清水記念碑	15
	12 御井神	16
伊那市	13 土地改良記念碑	17
	14 弁財天女神像	18
	15 井堰開墾五十周年記念碑	19
	16 罔象女命	20
	17 井上井月句碑①	21
	18 種田山頭火句碑①	22
	19 御子柴君顕徳之碑	23
	20 伊那市上ノ原土地改良記念碑	24
	21 手洗い石	25
	22 戸隠大神・天伯大神・諏訪大神	26
	23 美簗土地改良記念碑	27
	24 天白宮	28
	25 土地改良記念碑	29
	26 春富井記念碑	30
	27 殿島橋記	31
	28 井上井月句碑②	32
	29 修堤記念碑	33
	30 西部開発記念碑	34
	31 八大竜王	35
	32 月蔵井筋記念碑	36
	33 原井大明神	37
	34 松尾芭蕉句碑②	38
	35 波切り不動明王像	39
	36 水路竣工記念碑	40
	37 水速女命	41
	38 山岳信仰の弁財天女神像	42
	39 山神石祠・水神石祠	43

宮田村	40 六字名号を刻んだ巨石	44
	41 駒ヶ原耕地整理記念碑	45
駒ヶ根市	42 阪本天山墾田の碑	46
	43 一切水神碑	47
	44 井上井月句碑③	48
	45 宇賀神・弁財天・名号・蛇像	49
	46 水神	50
	47 菅沼堤防の碑	51
	48 井上井月句碑④	52
	49 駒ヶ根土地改良区記念碑	53
	50 水神	54
飯島町	51 大山祇神・水波能売神	55
	52 猿ヶ城用水記念碑	56
	53 開墾記念碑	57
中川村	54 天流功業義公明神	58
	55 蓮に巻き付く蛇	59
高森町	56 九頭龍大権現碑	60
	57 斎藤茂吉歌碑	61
飯田市	58 九頭竜像	62
清内路村	59 種田山頭火句碑②	63
	60 種田山頭火句碑③	64

石碑分布図Ⅰ（岡谷市～伊那市付近）

石碑分布図Ⅱ（伊那市～駒ヶ根市付近）

石碑分布図Ⅲ（駒ヶ根市～飯田市付近）



知る 遊ぶ 学ぶ 天竜川ひろば

天竜川に関する
旬の情報を
お届けします。

天上ニュース 天竜川水系河川整備計画の策定を進めています

河川整備計画の策定にあたって関係団体の意見を反映させるため、計画のたたき台である河川整備計画(草案)について、天竜川上流河川整備会(かわらんべ)が主催で開催し、地味地区の方から土に「治水」や「環境」について、たくさんのご意見をいただきました。

開催地	日時	参加人数	集客額
飯田	8月17日(水)	38名	28枚
伊豆	8月18日(木)	23名	21枚
笠原	8月19日(金)	19名	17枚

その他、7月25日に河川整備計画策定を企画し、天竜川上流河川整備会や市町村の役員などで、8月12日まで策定するまでに、公聴会を4回(飯田)に開催し、伊豆側で2回、飯田側で5回の公聴会、今後、いただいた意見を参考に河川整備計画案を作成し、関係団体への意見徴収を行い、早急の計画策定を進めています。

かわらんべ Information 天竜川総合学習館「かわらんべ」 飯田市川路7674番地 TEL.0265-27-6115 kawaranbe@tenjo.go.jp

かわらんべ TOPIC
川遊びのルール(ライフジャケット)は、川遊びの「命」を守るために「事故」は、「死」に直結するだけでなく「怪我」によるケガ、さらには「命」の危険がその非難大事故につながる可能性があります。川遊びをするときは、まずしっかりと「ケガ」を防ぎましょう。

ライフジャケット
川遊びで、川遊びに「命」をかけている場合は、ライフジャケットは、川遊びの「命」を守るために、必ず着用してください。ライフジャケットは、川遊びの「命」を守るために、必ず着用してください。ライフジャケットは、川遊びの「命」を守るために、必ず着用してください。

講座スケジュール

10月		11月	
2日(木)	「船手紙を作ろう10」9:00~11:00	1日(土)	「天竜川の岩石図鑑作り」9:00~11:30
4日(土)	「発掘所とダム見学」9:00~14:00	6日(木)	「そば体験その1」9:00~11:00
5日(日)	「かわらんべフェスタ10」15:00~16:30	8日(土)	「そば体験その2」9:00~11:00
9日(木)	「川遊び体験リーダー養成講座」9:00~16:00	12日(水)	「長手振りーとれたてイモ汁を食べようー」9:00~12:00
11日(土)	「くもみひらい」13:00~15:00	15日(土)	「写真講座講師7」9:00~11:00
18日(土)	「写真講座講師7」9:00~11:00	19日(土)	「クリスマスツリーリースの土作り」9:00~11:00
19日(日)	「マコモタケ料理」9:00~12:00	21日(金)	「秋の星屋ー大岡田形と星屋ー」19:00~20:30
11日(土)	「秋の樹木林ムシ探検」9:00~11:00	22日(土)	「押し葉で模様を作ろう」9:00~11:00
18日(土)	「水の家・草の実集め」9:00~11:30	26日(水)	「押し葉で模様を作ろう」9:00~11:00
19日(日)	「キノコの採取と賞味」9:00~13:30	29日(土)	「鮎豆作り」9:00~11:00
22日(水)	「写真講座講師8」9:00~15:00		
25日(土)	「秋の鳥の観察」9:00~11:00		
26日(日)	「そば体験その2そば作り」9:00~11:00		

講師:かわらんべ協力員のみならず、持ち物:汚れてもよい服装
対象:小3~大人(小2以下は保護者同伴)

かわらんべのメールマガジンのお知らせ
「自然系総合学習タイムマガジン カワネット」
かわらんべ講座にて紹介される様々な自然系講座を、テキスト形式で毎月にお届けする月別のメールマガジンです。→ <http://www.tenjo.go.jp/kawaranbe>

編集部からのお知らせ
天竜川通信で紹介する「天竜びと」を募集しています。天竜川が大好きな方、自然体験は得意な方、ぜひご応募ください。

T e n r y u R i v e r T i m e s



天竜川通信

2008 Autumn vol.15

「天竜川通信」では、四季折々の自然、遊び、川を舞台にした活動、新しいニュースなど、天竜川の魅力再発見につながる情報をお届けします。天竜川を「見る」「遊ぶ」「学ぶ」「体験する」ツールとして、ぜひお役立てください。

「天竜びと」が語る 流域の民俗芸能



さんよりごよりは
富田時代より伝わる神事、
加藤の皆さんとともに
後世へ伝えていってほしい。

さんよりごよりは
富田時代より伝わる神事、
加藤の皆さんとともに
後世へ伝えていってほしい。





富田時代より伝わる神事、
加藤の皆さんとともに
後世へ伝えていってほしい。



飯田市美術館 学芸係長 梅井弘人さん(飯田市在住) 電話:0265-27-6115

「天竜びと」は、天竜川流域に暮らす人々であり、また天竜川にゆかりのある人々の活動です。この人々から天竜川流域に暮らしている人々の声として、直接「天竜川通信」編集部にメールでお知らせください。

8-3. 天竜川の治水・洪水の伝承遺構見学会

・実施計画書

天竜川 治水・洪水の伝承遺構見学会
【運営計画書】

天竜川

治水・洪水の伝承遺構見学会

～天竜川の河岸（中川村、豊丘村、高森町）の昔と今～

運営計画書

12/4 版

目 次

1. 開催概要	1
2. 運営体制	2
(1) 共催主体（関係者のみ）	2
(2) 運営作業	2
(3) 講師（説明者）	2
3. 当日のスケジュール	3
(1) 見学会（晴天時）	3
(2) 交流会	4
4. 見学会・交流会の場所	5
(1) ルートマップ	5
(2) 見学のみどころ（見学地点）	6
(3) 交流会会場	7
5. 当日役割分担	8
6. 行動計画表	9
(1) 見学会（晴天時）	9
7. 緊急時連絡体制	12
(1) 国土交通省天竜川上流河川事務所	12
(2) 日本工営株式会社	12
(3) 警察署・交番	14
8. 備品リスト	15

1. 開催概要

(1) 開催目的

天竜川流域には、過去の災害にまつわる歴史資料、石碑・以降、民間伝承などが多く残っており、それらの災害教訓を伝承し、地域に定着させていく手法の1つとして、駒ヶ根～中川村地域を対象に、地域に残る堤防をまわる見学会を開催する。見学会に参加することで災害意識を「気づき」から「正しい理解」、「有事の的確な判断・行動」に変化させ、災害対応、防災活動における地域リーダーを育成することを目的とする。

(2) 開催日時

日：平成 20 年 12 月 5 日（金）

時：11：55～16：30（集合：天竜川上流河川事務所 11：50）

(3) 見学対象

理兵衛堤防、石神の松、前亡後死三界万霊塔、惣兵衛堤防、伴野堤防、
中川村歴史民俗資料館、高森町歴史民俗資料館

(4) 見学会テーマ

「過去の堤防を巡りながら、過去の災害や水防技術を学ぶ」

天竜川流域に築かれた過去の堤防を見て回ることにより、流域にこれまでどのような災害があり、それに対してどのような取り組みが行われていたのか学習する。また中川村、高森町歴史民俗資料館で専門家から話を聞き、知識の醸成を図ることを目的とする。

2. 運営体制

(1) 共催主体（関係者のみ）

1) 国土交通省 天竜川上流河川事務所（以下事務所）

役職	氏名
建設監督官	河崎 祐次
専門調査員	長谷部 厚志
技官	炭竈 康志

(2) 運営作業

日本工営株式会社（以下、NK）

氏名	役割
飯沼 達夫	総括、見学補助、交流会司会
青木 佳世	副総括、会場設営、見学補助
菱田 のぞみ	全体司会、見学補助

(3) 講師（説明者）

- ・中川村教育委員会 伊藤 修学芸員
- ・高森町歴史民俗資料館 手塚 勝昭館長
- ・信州大学名誉教授 北澤 秋司 先生

3. 当日のスケジュール

(1) 見学会（晴天時）

天竜川 治水・洪水の伝承遺構見学会は、以下のスケジュールで予定しています。

場所	滞在時間	時間 (想定)	発	移動手段	行動予定と内容	説明者
天竜川上流河川事務所駐車場	—	11:55	発	バス 10分	11:50 集合	—
駒ヶ根駅	10分	12:05	着	分	12:15 集合	
		12:20	発	バス	※上り電車 12:10に到着	
中川村歴史民俗資料館	20分	13:00	着	40分	13:00 集合 説明（挨拶）	・伊藤 修氏 (中川村歴史民俗資料館)
		13:20	発	バス 5分	説明（文書） 資料館脇の橋の上から天竜川を望む	
①理兵衛堤防	40分	13:25	着		見学・説明（理兵衛堤防（新旧）・前沢の川除・石碑）	・伊藤 修氏
		14:05	発	バス 5分		
②石神の松	5分	14:10	着		見学（石神の松）	・伊藤 修氏
		14:15	発	バス 20分	高台から天竜川を望む	
③市田駅 (前亡後死三界万霊塔)	10分	14:35	着	分	見学（前亡後死三界万霊塔）	・手塚 勝昭氏 (高森町歴史民俗資料館)
		14:45	発	バス 5分		・事務局
④惣兵衛堤防	20分	14:50	着		見学・説明（惣兵衛堤防）	・手塚 勝昭氏
		15:10	発	バス		
⑤伴野堤防・記念碑他	20分	15:15	着	5分	見学・説明（伴野堤防・記念碑）	・事務局
		15:35	発	バス		
交流会会場 高森町歴史民俗資料館	45分	15:45	着	10分	交流会	・手塚 勝昭氏
		16:30	終			
J R市田駅		16:50頃			※17:04 飯田行き ※17:15 岡谷行き	
中川文化センター		17:30頃				
天竜川上流河川事務所		18:20頃			18:20 頃解散	

※滞在時間には、バスの乗降時間を含みます。
※降雨状態によっては徒歩移動をバス移動に変更します。

※プログラム(晴天時OR雨天時)は、河崎建設監督官、飯沼が 11:00 までに協議、決定します。

(2) 交流会

交流会においては、まず惣兵衛堤防の模型や絵図等の展示を閲覧し、高森町歴史民俗資料館館長の手塚勝昭氏による説明を受けます。

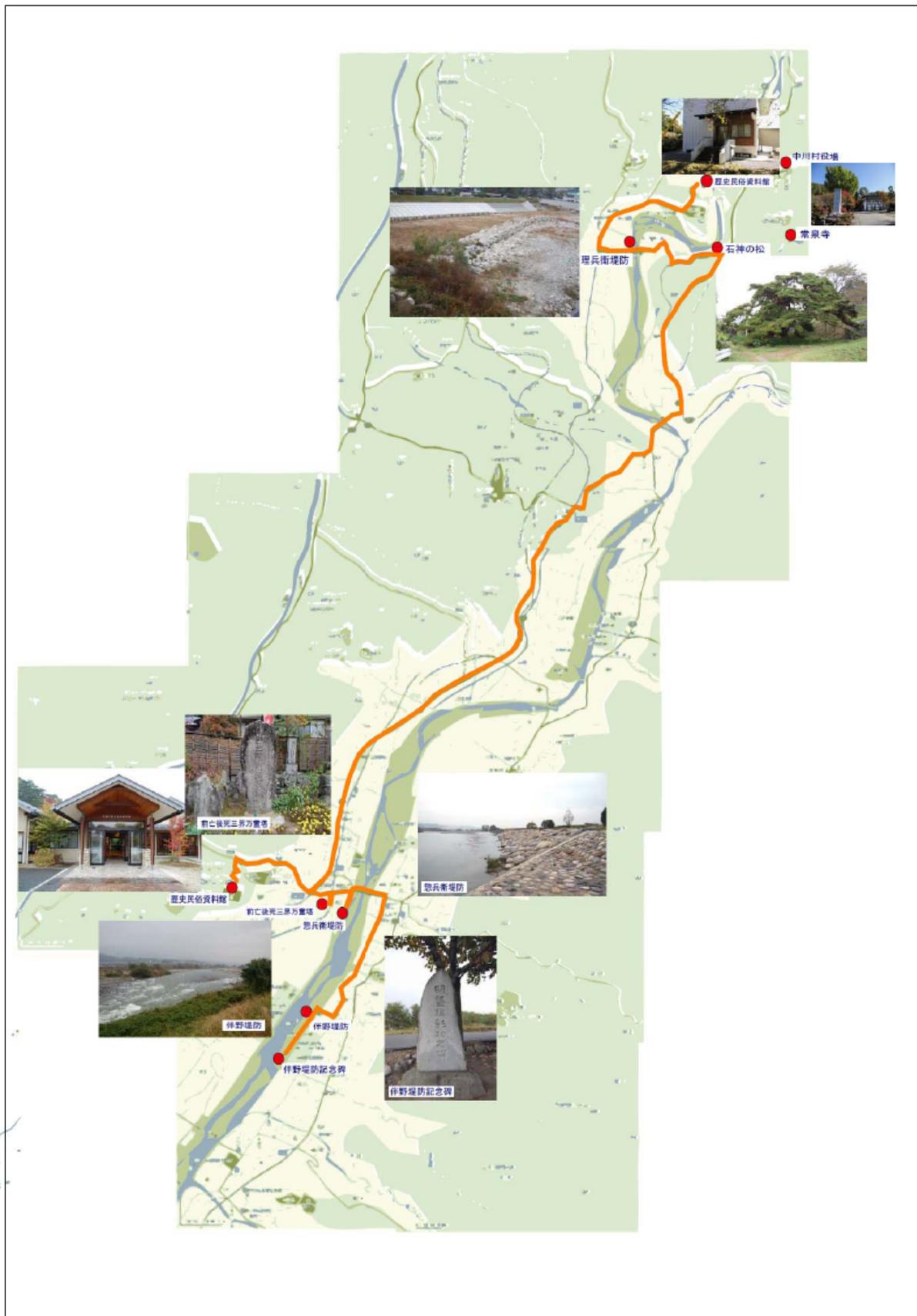
その後、見学会をふり回りながら参加者全員でそれぞれの気づきの共有や、意見交換を行います。

【交流会のスケジュール】

- ・惣兵衛堤防の模型・絵図等の展示・資料の見学/手塚氏の説明・・・15分
- ・一日の振り返り、気づき感想の共有、意見交換・・・・・・・・・・20分

場所	時間 (想定)		行動予定と内容	説明者
高森町歴史民俗資料館駐車場	15:45	着	高森町歴史民俗資料館	—
高森町歴史民俗資料館 展示スペース 学習室	15:50	始	惣兵衛堤防についての説明を聞きながら、模型等の資料を見学する	手塚 勝昭氏 (高森町歴史民俗資料館)
	16:05	終		
	16:05	始	見学会を振り返りながら、気づいた点などについて意見交換を行う	—
	16:25	終		
	16:25	始		
16:30	終			

4. 見学会・交流会の場所
(1) ルートマップ



(2) 見学のみどころ（見学地点）

みどころ	概要	
①中川村歴史民俗資料館	中川村にある歴史民俗資料館で、考古・民俗・歴史の3部門の資料が展示されています。展示物の中には、理兵衛堤防に関する文書や古い絵図などもあり、理兵衛堤防について、学ぶことができます。	
②理兵衛堤防	前沢村の百姓の頭分であった松林利兵衛忠欣は、天竜川の氾濫から村の田畑を守るために、寛延三年（1750）に川除菅清を幕府に頼り出て、大石積み工事を始めました。この事業は忠欣の子の常吉、孫の忠良へと引き継がれました。この三世代の間に作られた堤防を理兵衛堤防と称しています。	
③石神の松から、天竜川を望む	石神の松口は洪水にまつわる伝説が残されています。元禄の頃、天竜川は氾濫をしきりに起こしており、農民たちは困り果てていました。そこで常宗寺に寄寓していた山伏（行者）が21日間こらえて水鏡の祈禱をしたそうです。行者は満願の日とうとう倒れてしまいましたが、死に先立ち、手植えの松を神に手向けたのが今に残る石神の松と云われています。	
④前亡後死三界万霊塔	正徳五年乙未年（1715）十月八日夜明けから激しく降り続いた雨は、やがて激しい泥流を伴って天竜川へ向かい、すべてを飲み込んでしまいました。このときの災害の被害者の冥福を祈るために建立された「前亡後死三界万霊塔」が今でも理兵衛前に残っています。	
⑤惣兵衛堤防	惣兵衛堤防は、高い技術を持った石工の惣兵衛によって作られた頑丈な堤防です。三六災害で崩壊してしまいましたが、それまでの200年余りの永きに渡って、度重なる天竜川・大島川の氾濫を防ぎ、肥沃な土地を守ってきました。	
⑥伴野堤防・開墾彰功碑	神祇伴野の地では、対岸にできた惣兵衛堤防が氾濫を受け、また明台初期は連続して洪水に見舞われ、村は廃弊の極みに達していました。松尾千振が率いる33名の有志「開墾組」が堤防の構築に取り掛かりました。開墾組は明台19年（1886）5月の洪水による堤防流失や、明台25年（1892）の松尾千振の世界という苦難を乗り越え、明台39年（1906）には堤防の大筋が完成しました。伴野堤防は三六災害でほとんど流失し、現田は近代的な堤防が造られました。付近には開墾組の功績を称える記念碑が建てられています。	
⑦高森町歴史民俗資料館	高森町にある歴史民俗資料館で、富本銭や本学神社（下伊賀郡高森町山吹）の展示、その他この地域の民俗や歴史に関する史料を展示しています。惣兵衛堤防についても、学ぶことができます。	

(3) 交流会会場

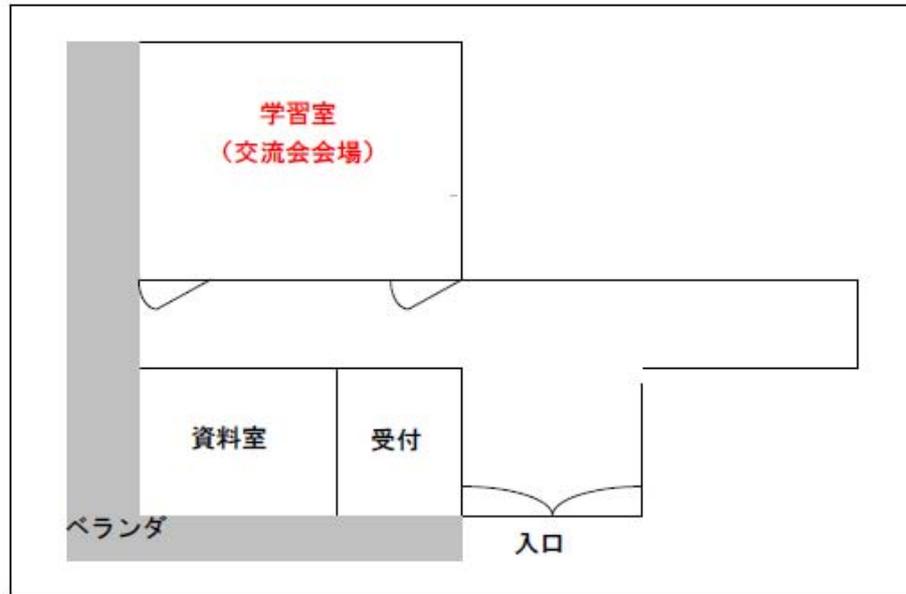


図 交流会会場概要

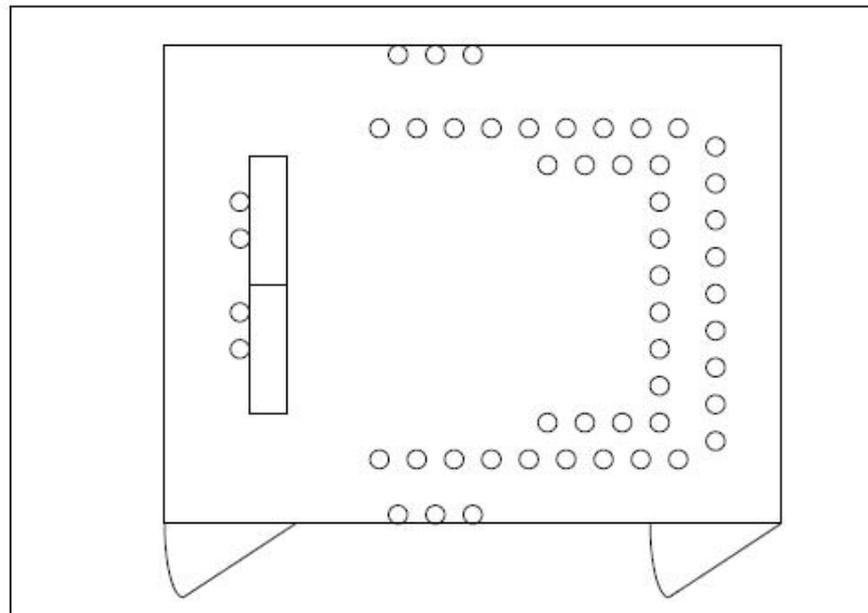


図 交流会会場レイアウト (案)

5. 当日役割分担

当日は以下のような役割分担を考えています。

スケジュール		役割	担当者
プログラム（晴天時 もしくは雨天時）の 決定			河崎建設監督官、飯沼
見学会	受付・開会	受付	参加者対応：天上炭羅 参加者確認：菱田
		誘導	飯沼、
		司会	菱田
		開会挨拶	河崎建設監督官
		撮影	デジカメ：飯沼
		中川文化センタ ー 誘導	天上長谷部、青木
		参加者連絡	天上炭羅
	現地見学	説明	中川村歴史民俗資料館：伊藤 修氏 高森町歴史民俗資料館：手塚 勝昭氏 日本工営：飯沼 達夫
		司会	菱田
		TK	菱田、飯沼（補助）
撮影・録音		飯沼、菱田	
事務局車		青木	
交流会	開会	司会	飯沼
		講師	高森町歴史民俗資料館：手塚 勝昭氏
		撮影	デジカメ：菱田
	閉会	会場設営	青木、（ ）
		誘導	菱田
		会場撤収	青木、（ ）

※事務局車は、中川文化センターと高森町歴史民俗資料館へは先回りをするため、バスとは別行動になる。

6. 行動計画表

(1) 見学会（晴天時）

※降雨状況によっては徒歩移動をバス移動に変更

時間	項目	対象者	内容	必要備品等
10:00	天上事務所集合	天上全 NK（除・飯沼）	・運営必要機材を準備（仕分け作業） ・受付の準備	
10:30	直前打合せ	天上全 NK（除・飯沼）	・全日程スケジュールと役割を確認	
10:50	北澤先生集合	飯沼	・飯沼運転の車両で北澤先生合流	
11:00	当日のプログラム決定	河崎建設監督官 飯沼	・天候を考慮して当日のプログラムを決定する	
11:05	飯沼移動	飯沼	・高森町歴史民俗資料館へ移動 →事務局車（9人乗り）にて、下伊那地方事務所からの参加者と共に、中川文化センターへ移動（12:10に参加者合流）	参加者一覧 配布資料セット
11:00 ～ 11:30	直前打合せ	天上全 NK全	・昼食 ・北澤先生の食事は、NKが手配（天上事務所付近のお店）	
11:30 ～ 11:50	天竜川上流河川事務所集合（11:50）受付	（ ） 天上炭羅菱田	・天上集合の参加者の車両を誘導 ・参加者を受付に誘導 ・名簿チェック ・こない人には、連絡を行う。 ・出発までの待ち時間はバスに着席してもらう。	誘導用サイン 参加者一覧 配布資料セット
11:40 ～ 12:55	青木・長谷部移動（バス2号車）	天上長谷部青木	・バス2号車で中川村歴史民俗資料館に向かう ・到着後、伊藤氏に挨拶と必要事項の確認をし、中川文化センター駐車場へ。参加者が来たら誘導・対応を行う。 ・バス1号車を待つ間に受付を済ませる。	参加者一覧 配布資料セット
11:55 ～ 12:05	バス移動	河崎建設監督官 飯沼	・車中で簡単な挨拶を行う ・飯沼より、青冊子の説明を行う	
12:10 ～ 12:15	JR駒ヶ根駅到着 参加者合流	天上炭羅菱田	・名簿チェック ・こない人には、連絡を行う。 ・出発までの待ち時間はバスに着席してもらう	参加者一覧 配布資料セット
12:20 ～ 13:00	バス移動	菱田	・会の趣旨・コースなどの説明 ・検討会事務局作成 DVD を車中で鑑賞する	DVD

時間	項目	対象者	内容	必要備品等
13:00 ～13:20	開会挨拶 中川村歴史民俗資料館の見学 橋の上から天竜川を眺める	河崎建設監督官 菱田 伊藤氏	<ul style="list-style-type: none"> 開会の挨拶を河崎建設監督官よりいただく 見学会の概要と諸注意を参加者に説明 【諸注意】 <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の確認 気分が悪くなった場合はスタッフへ連絡 安全にウォーキングを行うための注意 <ul style="list-style-type: none"> 資料館の文書を読覧し、伊藤氏の説明を聞く 牧の原橋からの天竜川の眺望を楽しむ 	
13:20 ～13:25	バス移動 事務局車移動	—	<ul style="list-style-type: none"> 中川村歴史民俗資料館前から、理兵衛堤防まで移動 	
13:25 ～14:05	①理兵衛堤防の見学	伊藤氏	<ul style="list-style-type: none"> 理兵衛堤防とその周辺（石碑、前沢川の古い川除け）の見学、及び、伊藤氏の説明を受ける 	ハンドマイク 録音機材
14:05 ～14:10	バス移動 事務局車移動	—	<ul style="list-style-type: none"> 理兵衛堤防から石神の松まで移動 	
14:10 ～14:15	②石神の松の見学	伊藤氏	<ul style="list-style-type: none"> 石神の松及び、ビューポイントからの天竜川の眺望を見学、及び、伊藤氏からの説明を受ける。 	ハンドマイク 録音機材
14:15 ～14:30	事務局車移動	青木	<ul style="list-style-type: none"> 伊藤氏を中川村歴史民俗資料館まで送る 	
14:30 ～14:50	事務局車移動	青木	<ul style="list-style-type: none"> 石神の松から惣兵衛堤防へ移動 防災倉庫前の広場に駐車し、バスが来るまで待機 	
14:15 ～14:35	バス移動	—	<ul style="list-style-type: none"> 石神の松から、JR市田駅まで移動 車中で、北澤先生より、三六災害の話をしていただく。（1号車：約10分） JR市田駅前の駐車場にバスを停車 JR市田駅で手塚氏と合流 JR市田駅から、高森町役場小林さん合流（14:30に市田駅） 	録音機材
14:35 ～14:45	③前亡後死三界万霊塔の見学	手塚氏 飯沼	<ul style="list-style-type: none"> JR市田駅から、前亡後死三界万霊塔まで徒歩で移動し、見学とNK飯沼の説明を受ける 見学後は、JR市田駅まで徒歩で戻る 	ハンドマイク 録音機材
14:45 ～14:50	バス移動	—	<ul style="list-style-type: none"> JR市田駅から惣兵衛堤防まで移動する 河川管理用通路を入った広場で参加者を降ろし、そのままバスは待機 参加者が亀甲石の見学に向かうタイミングでバスに乗車位置まで来てもらうように連絡をする 	
14:50 ～15:10 (15:05に石碑に移動)	④惣兵衛堤防の見学	手塚氏	<ul style="list-style-type: none"> 惣兵衛堤防を見学、手塚氏の説明を受けた後、15:05まで公園内で自由行動 15:05になったら、亀甲石まで移動 バスは亀甲石付近の道路で参加者を乗せる 手塚氏は高森町歴史民俗資料館へ向かう 	ハンドマイク 録音機材
15:00 ～15:40	事務局車移動	青木 ()	<ul style="list-style-type: none"> 惣兵衛堤防から高森町歴史民俗資料館まで移動 1F学習室で交流会会場の設営を行う 	

時間	項目	対象者	内容	必要備品等
15:10 ~15:15	バス移動	—	・惣兵衛堤防から伴野堤防まで移動 (石碑前道路で乗車、コメリ手前の右折道路内で下車) ・乗降場所が道路なので、安全に留意	
15:15 ~15:35	⑤伴野堤防の見学	飯沼	・降車場所から川に沿って伴野堤防まで徒歩 ・伴野堤防と開墾碑を見学、事務局飯沼の説明を受ける ・対岸の惣兵衛堤防を確認する ・バスの待機場所まで徒歩で戻る ※時間によっては、開墾碑付近の道路路肩で乗車(参加者に素早い乗車を促す)	ハンドマイク 録音機材
15:35 ~15:45	バス移動	—	・伴野堤防から高森町歴史民俗資料館まで移動 ・車中で、北澤先生より三六災害の話をしていただく。(2号車:約10分) ・高森町歴史民俗資料館に到着後、1Fの学習室に入室し、参加者は着席する	録音機材
15:45 ~16:00	交流会 ①惣兵衛堤防に関する展示と説明	手塚氏 飯沼(司会)	・惣兵衛堤防に関する展示を見学し、手塚氏の説明を受ける	
16:00 ~16:25	交流会	飯沼 (司会)	・一日の振り返りと、気づきの共有などを行う	
16:25 ~16:30	閉会の挨拶	河崎建設監 督官	・閉会の挨拶を行う ・閉会 ・解散についての案内	
	解散	—	・バスはJR市田駅、中川文化センターに立ち寄る ・JR市田駅 17:04 飯田行き、17:15 岡谷行き	
16:30 ~	交流会撤収作業	青木 ()	・交流会会場の撤収を行う ・飯沼車両で天竜川上流河川事務所まで直行する	

7. 緊急時連絡体制

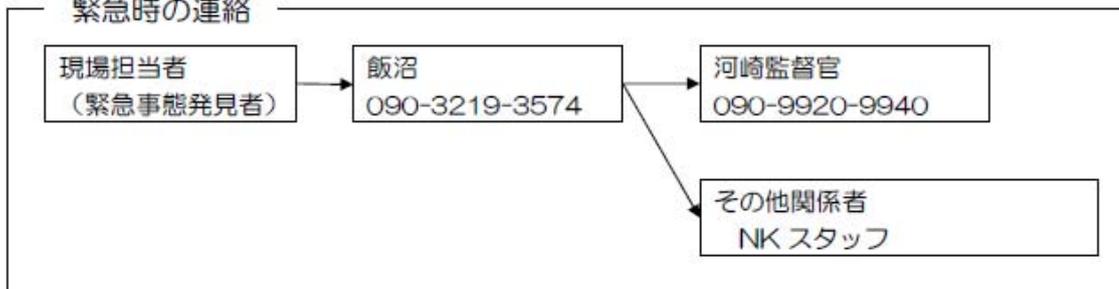
(1) 国土交通省天竜川上流河川事務所

氏名	携帯番号
河崎 祐次	090-9920-9940
長谷部 厚志	090-4153-1170
炭竈 康志	090-4260-3037

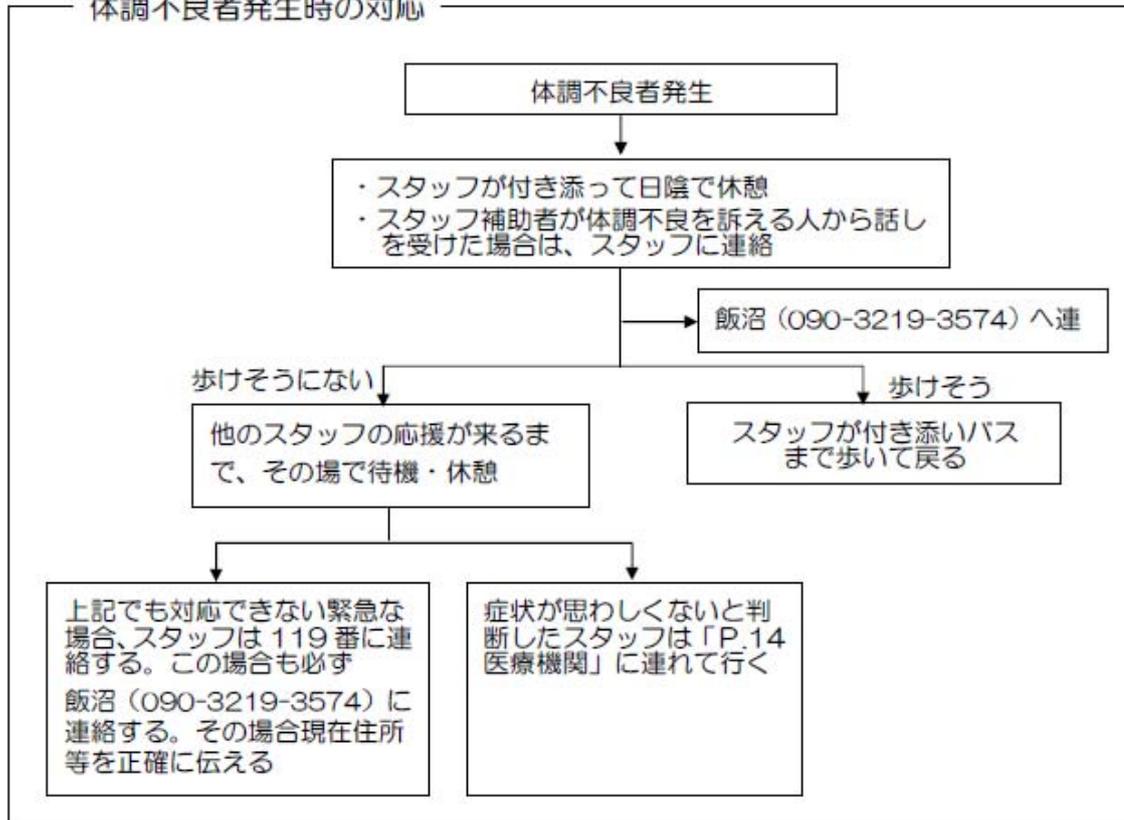
(2) 日本工営株式会社

氏名	携帯番号
総括責任者：飯沼 達夫	090-3219-3574
副総括責任者：青木 佳世	080-2074-2101

緊急時の連絡



体調不良者発生時の対応



※緊急時車両手配用タクシー会社連絡先

■駒ヶ根市

- ・赤穂タクシー有限会社 (0265-83-5221)
- ・有限会社丸正タクシー (0265-82-3101)
- ・伊那乗用自動車有限会社 (0265-82-4177)

■下伊那郡

- ・北部タクシー有限会社 (0265-35-2062) (高森町)
- ・松川タクシー有限会社 (0265-37-2131) (松川町)
- ・丸茂自動車有限会社 (0265-36-3333) (松川町)

※中川村、豊丘村に位置するタクシー会社の情報はなし

医療機関

機関名	診療時間	診療科目	住所	電話番号
前澤病院	9:00~12:00 15:00~17:30	内科・胃腸科・小児科・外科・ 眼科・放射線科	駒ヶ根市上穂南 11-5	0265-83-2151
早田医院	確認中	内科・小児科・消化器科	駒ヶ根市中央 17-9	0265-82-2030
神戸医院	確認中	内科・小児科・外科	駒ヶ根市上穂栄町 2-31	0265-82-3522
下島外科 医院	確認中	消化器科・外科・整形外科・ 皮膚科・麻酔科	駒ヶ根市飯坂 1-4-17	0265-82-2700
南向診療 所	8:30~12:30 16:00~18:00	内科・消化器科・循環器科・ 小児科	上伊那郡中川村大 草 4037-1	0265-88-2019
小沢医院	8:30~11:30 15:30~17:30	内科・小児科・外科	下伊那郡豊丘村大 字神稲 129	0265-35-2016
下伊那 厚生病院	8:00~11:30 14:45~16:00	内科・外科・眼科 他	下伊那郡高森町吉 田 481-13	0265-35-7511
竹村整形 外科	9:00~11:00 14:30~16:00	外科・整形外科	下伊那郡高森町吉 田 471-3	0265-35-2141
山路医院	9:00~12:00 15:30~18:00	内科・循環器科・皮膚科 他	下伊那郡高森町吉 田 481-13	0265-35-2198

警察署・交番

機関名	住所	電話番号
駒ヶ根警察署	駒ヶ根市上穂南 8-1	0265-83-0110
駒ヶ根駅前交番	駒ヶ根市中沢 3583-11	0265-83-7766
片桐駐在所	上伊那郡中川村片桐 3862-1	0265-88-2509
飯田警察署	飯田市小伝馬町 1-3541-2	0265-22-0110
飯田駅前交番	飯田市上飯田 5359-10	0265-22-2116
松川町交番	下伊那郡松川町元大島 1447-6	0265-36-2051
豊岡村駐在所	下伊那郡豊丘村大字神稲 370-3	0265-35-2009
高森町駐在所	下伊那郡高森町上市田 535-2	0265-35-2225

天竜川

治水・洪水の伝承遺構見学会

～天竜川の堤防（中川村・豊丘村・高森町）の昔と今～

天竜川流域には、過去の災害にまつわる歴史史料、石碑、遺構、民間伝承などが多く残っています。見学会では、現存する天竜川の堤防や遺構、川の石碑を巡りながら、治水や堤防について学びます。また、昔の人々の暮らしと天竜川の災害、災害から暮らしを守るための知恵を学んでみませんか？

この見学会に参加することで、天竜川にまつわる災害や水害への理解を深め、災害対応、水防・防災活動における地域リーダーとして新しい知見を深めてください。

開催日：12月5日（金）

当日のスケジュール

- 13:00 ①中川村歴史民俗資料館
- 13:25 ②理兵衛堤防の見学と説明
- 14:10 ③石神の松より天竜川を望む
- 14:35 ④前亡後死三界万霊塔を見学
- 14:50 ⑤惣兵衛堤防の見学と説明
- 15:15 ⑥伴野堤防の見学と説明
- 15:45 ⑦交流会（高森町歴史民俗資料館）
- 16:30 交流会終了

集合場所・集合時間

- ① J R 駒ヶ根駅改札口・・・12:15
- ② 中川文化センター・・・12:50

中川文化センターには敷地内のグラウンド横に駐車場もございます。中川文化センターから中川村歴史民俗資料館へは、各自徒歩でおいで下さい。

《解散》

J R 市田駅 17:00 前後、中川文化センター 17:30 前後
J R 駒ヶ根駅 18:00 過ぎ（時間は予定です）

申込・問合せ先

天竜川上流河川事務所調査課
 電話：0265-81-6415
 F A X：0265-81-6421
 事務局携帯電話：090-3219-3574
 ※ご参加にあたっては、事前にお申込をお願いします。

中川村
歴史民俗資料館

参加
無料

先着
40名

理兵衛堤防

惣兵衛堤防

石神の松

伴野堤防

主催：天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会
事務局 国土交通省天竜川上流河川事務所





★ 理兵衛堤防 (中川村片桐)

理兵衛堤防が築かれた地（前沢川と天竜川の合流地点）は、やわらかく堆積した扇状地を山地から流れ出る支流が短期間で深くけずりとなって谷となる田切地形をなしています。雨が降ると付近一帯の雨水が前沢川に集中して氾濫や土石流を引き起こし、あばれ天竜の濁流とともに、心血を注いで開墾した田畑や人々に襲いかかってきました。やむなく土地を離れる人々もいたほど災害による大打撃を受けながらも、人々は幾多の困難を乗り越え、生活を守るために水との闘いを繰り返してきました。



▲天の中川橋下流側に残る理兵衛堤防の一部。昭和58年の災害で洗掘され、中段部が姿を現しました。

●理兵衛堤防とは



▲松村理兵衛忠欣

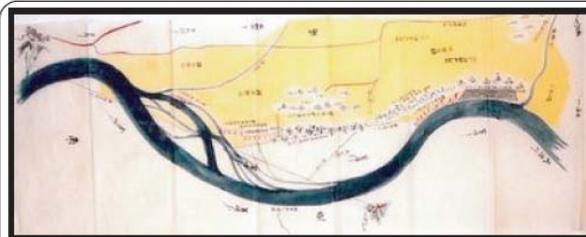
前沢村の昔人百姓（大地主）であった松村家は、1千石のお米がとれたという田島たんぼの約2割を所有していました。未曾有の災害と伝えられている正徳五年（1715）の未満水の時、村は荒廃し、理兵衛忠欣は築堤を決意したといわれています。そして、寛延三年（1750）に川除普請（堤防工事）を幕府に願ひ出て、大石積の大工事を始めました。工事は、冬と春の農閑期における百姓の稼ぎになるように進められ、明和八年（1771）に至るまでに5回の修理をしながら始め30間、後に100間の堤防を築いたといわれています。翌年から文化五年（1808）に至るまでの工事は、度重なる無常な災害の大打撃を受けながらも子孫の常邑、孫の忠良へと引き継がれ、この間に造られた堤防を「理兵衛堤防」と称しています。堤防の工事費用は、忠欣が行った寛延三年から文化五年までを含めると3万2千両（江戸中期の平均米価1両＝約4万円）で換算するとおおよそ12億8千万円に相当）に及び、関わった人足は計57万6千11人といわれ、莫大な私財を投じて造られました。

その後文政十一年（1828）の洪水で大きな被害を受けており、代々堤防の復旧を行っている記録が残されています。また、前沢川の合流部付近にも堤防が造られており、今もその姿を見ることができます。

●理兵衛堤防に関する略年表

西暦	年号	事項
1635	寛永十二年	・水害による大被害を受け、理兵衛の祖先(忠興)は土地を離れ七窪に移住。数十年後、現在の中川村田島に戻り、荒廃した耕地の復旧・開拓に努める。
1715	正徳五年	・正徳五年の未満水 ・理兵衛忠欣の養父(忠助)が私財を投げ打って飢えに苦しむ村人を救済し、貧困に陥いる。
1750	寛延三年	・理兵衛忠欣が遺産の一部を処分したり、新しく酒造の業を始めるなどして頼った家産を挽回し、築堤を幕府に願ひ出て、大石積の大工事を始める。
1756	宝暦六年	・大満水にて前に築いた堤防がすべて流される。
1765	明和二年	・大満水にて堤防欠損。
1771	明和八年	・寛延三年より21年の間に5度の築堤工事を実施。大石積三十間及び前沢川下より田島前青島山に至る長さ百間の堤防を築く。(詳細不明)
1772	安永元年	・現存する理兵衛堤防の工事を始める。(大石積長さ百間・高さ四間半・馬踏二間半)
1778	安永七年	・大満水にて欠損し、二度の工事を始める。
1789	寛政元年	・六月十七日、十八日の大満水にて堤防のほとんどが押し崩される。 ・理兵衛常邑が幕府に急報普請を願ひ出て工事を始める。
1792	寛政四年	・七月十三日の大満水にて前沢川の出水が激しく天竜川との合流部で欠け崩れる。 ・急報普請を願ひ出て工事を続ける。 ・堤防防護のための柳木並木の植え付け完了。
1808	文化五年	・前年から二年続いた大満水にて欠け崩れる。 ・理兵衛忠良が急報普請を願ひ出て工事を始める。 ・この工事によって完成された堤防が現在残っている理兵衛堤防である。

参考文献 > 「中川村誌 中巻」（平成18年3月）編纂：中川村誌編纂刊行委員会 発行：中川村



▲理兵衛堤防の絵図（松村家所蔵、作成時不明、右二134絵図彩色）

●理兵衛堤防の特徴

堤防を守るために水の勢いを緩めたり、流れの方向を変えたりする「割ね」を水のあたる場所に石積で作り、水の流れが対岸へ行くように設置されています。堤防に使われた石は、前沢川の上流域から運ばれた市田花崗岩で、大きな石を切り出して堤防の表側に積み上げるとともに、裏側にも置いて、洪水によって壊れることを防ぐようにしてあります。

●平成18年7月豪雨災害で姿を現した上流部

平成18年7月豪雨災害の時、天の中川橋上流部のコンクリート護岸が洗掘されて決壊し、理兵衛堤防の上流部側およそ80mが姿を現しました。

また、堤防の河川側中段に沿って71mの石の部分(40m)と木の部分(31m)からなる灌漑水路が発見されました。現在は、復旧工事の終了後に埋め戻し保存がなされ、木樋の一部が中川村歴史民俗資料館に保存されています。



▲姿を現した堤防の上流部



▲発見された水路

●あばれ天竜に挑んだ理兵衛忠欣

文化十二年（1815）忠欣の33回忌に当りその孫の忠良は京都吉田神祇宮に請うて祖父の神号（天流功業義公明神）を授かりました。これを記念して石碑が建立され、水神や丸頭竜碑とともに今も祀られています。

（三十年のあゆみより）



▲理兵衛を祀った石碑

●「聖牛」とは

組み上げた丸太を蛇籠などを載せて川底にすえつけ、川の急な流れを抑える水制工法で武田信玄が考案したといわれています。棟木の長さによって中聖牛・大聖牛・大々聖牛などと呼ばれています。子の常邑は、寛政元年（1789）六月の大満水における復旧工事の際、大々聖牛を用いて穴切り大石積を施して堤防を完成させました。大々聖牛は大木が必要で費用がかかることから、これをやる所は少なかったようです。



一メモ一

- 長さの尺度：100間（けん）≒182m
- 貨幣価値：江戸中期の平均米価で換算すると1両≒約4万円で算定



参考文献 > 「天竜川上流工事事務所 三十年のあゆみ」（昭和55年3月）編纂：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所 発行：（社）中部建設協会

★ 石神の松 (中川村大草)

石上の松には、洪水にまつわる伝説が残されています。三共地区の人々は、毎年3月からお盆前まで松の消毒や草刈などの手入れを行っています。また仲林地区の人々は、毎年伝説にまつわる祠の前に集まり、和尚さんと呼んで「行者様のお祭り」を盛大に行っています。

今でも石上の松は、地域の人々の信仰の対象になっており、伝説と共に洪水の史実が伝えられています。



▲石神の松、中川村の指定天然記念物になっています。

●水難除けの祈禱をした行者様



元和の頃（1615年～1624年）、法力のすこぶる顕著な山伏（仏道修行のために山野に起臥する僧）が常泉寺に寄寓していました。

時を同じくして天竜川は、洪水による氾濫をしきりに起こしていました。困り果てた農民たちは、常泉寺に寄寓していた行者（山伏）を頼り、水難除けの祈禱をもらいました。

▲祠の中の行者様

行者は熱心にお経を唱えながら21日間の祈禱を続け、満願の日とうとう精魂尽きて倒れてしまいました。

このとき死に先立ち、手植えの松を水神に手向けたのが今に残る「石上の松」だと伝えられています。遺骸が葬られた祠は、「山伏塚」とも呼ばれ、今も地域の人々から「行者様」といって崇められています。



▲行者様が祀られている祠、石神の松を見守るように鎮座しています。

●釜淵の主

石神の松の下を流れる天竜川の淵は、釜淵と呼ばれています。そこには、主の大きな鯉が棲んでいて、九頭竜の化身であるといわれていました。ところが、ある年の洪水で主の鯉は、淵の外に跳ねて濁って死んでしまいました。里人がその鯉の死骸を今の石神の地に手厚く葬り、塚を築いて水神として祀ったとも伝えられています。

—メモ—

●中川村三共地区には、天竜川にまつわる伝説・信仰が今も根づいています。



参考文献>「南向村誌」（昭和41年3月20日）編集：南向村誌編纂委員会 発行：中川東公民館

★ 出砂原の大石 (高森町下市田出砂原)

たくさんの雨は山を崩し、土砂と共に大きな石が火花を散らしながら泥流となって川を流れくんだり、一瞬にして泥だらけの扇状地を形成します。

JR市田駅近くに残る大石は、伊那谷で未曾有の大災害と語り伝えられている「正徳五年の未満水」の時に大島川の上流から流れてきたものだとわれています。大石の上には大小二体のお地藏様が祀られています。

出砂原の大石は、私たちが暮らしている土地に起こった大地変の史実と災害を経験した人々からのメッセージを今に伝えてくれています。



▲出砂原の大石

●未曾有の大災害「正徳五年の未満水」

正徳五年乙未年（1715）六月、月初めから雨が降り続いていました。十八日の夜明け方から、雨はたらいをぶちまけたようななどしゃ降りとなり、膝を並べて話す声が聞こえない程でした。大島川上流の不動滝近くのかきかけという高い山が崩れ上流部を堰き止め、前の沢の下・わる沢ととこなみ沢の間に天然ダムができました。そして漫々と水がたまった天然ダムの一角が決壊し、天地も崩れるばかりの大音響と共に赤土色の濁流が押し出し、川幅は数十間の広さとなって押し流してしまいました。吉田川原から天竜川へ注ぐ所では、押し出された多量の泥水のため、一時天竜川も堰き止められ、海のようにになりました。そのため、天竜の水は逆流し、一旦流されてきた5尺の酒桶や土蔵の土台が竜の口まで戻っていったと伝えられています。（高森町史上巻後編より）安養寺の住職であった了溪禪師が、溺死した人々の霊を弔い、冥福を祈るために建立したといわれる「前亡後死三界万霊塔」が、出砂原の明照寺前に今も残されています。



▲前亡後死三界万霊塔

●出砂原地名が教えてくれること

「出砂原」という地名は、正徳五年の未満水をはじめ、大島川の氾濫によってできた土石流扇状地につけられた地名です。松崎岩夫氏によるとその由来は、「土砂が流れくって来た処（「だ」の発音は「落ちる」という意味、「さ」の原形は「しゃ」、「ら」はあちら・こちらにみられる場所を示す）」と考えられています。昔の人々が私たちへ、土地に対する注意を促してくれているように思えます。

—メモ—

●天竜川流域には「出砂原」以外にも、「水神町」「田島」「青島」「荒井」「生田」「百間井」「わる沢」など洪水や土砂災害にまつわる地名が多く残されています。



参考文献>「天竜川の災害伝説」（平成5年3月19日）著者：徳本正治 企画・発行：国土交通省中部地方整備局天竜川上流工事事務所

★ 惣兵衛堤防 (高森町下市田)

惣兵衛堤防(下市田村大川除)は、突きあたるあばれ天竜の水勢を刎ね返し、下市田・座光寺・上郷に250町歩という美田をもたらし、江戸時代より200年あまりに渡って人々の生活を守り抜いてきました。昭和36年に伊那谷を襲った三六災害の時、人々の懸命な水防活動の最中無念にも流失してしまいましたが、惣兵衛堤防の恩恵は立派な大石積の姿が見られなくなった今日に至ってもなお、度重なる水害から堤防を保護し続けてきた人々によって語り継がれています。



▲ありし日の惣兵衛堤防
(高森町歴史民俗資料館所蔵)

●惣兵衛堤防とは

惣兵衛堤防が造られた地は、古くより鍋釜堤という堤防がありましたが、洪水の度に押し流され荒地となっていました。没落していた飯田藩の藩政刷新に力を入れた堀親長侯が12歳の時、重臣黒須橋右衛門の献策によりこの地に堅固な堤防を築き、天竜川の水を引き入れる灌漑用水を建設して新田を開発し、藩の財政を豊かにする計画を立てました。

工事の主任技師には、現在の飯田通り町で「吉田屋」とい石工をしていた中村惣兵衛が命じられました。飯田で惣兵衛が造った堤防はどれも堅固な出来であると定評があり、75歳齢にもかかわらず用いられたのです。



▲惣兵衛堤防に使われた大石
寛延三年(1750)に工事が始まり、惣兵衛は非常な熟慮と熟練した土木技術をかけて築堤に専念しました。石積に使う高さ4尺内外(1尺=30.3cm)の大石は、台持洞より約500m下方の堤防まで竹を敷いた道の上で大勢の人々が木道音頭で引き寄せました。そして宝暦二年(1752)二月、大石を乱れ積にした全長81間の一大岩壁が完成しました。

惣兵衛堤防で刎ね返したあばれ天竜の激流は、対岸の村々にとっては脅威であり恨みを持った惣兵衛は、一時飯田の松尾に隠れていましたが、堀候から下殿岡(現在の飯田市伊賀良)に土地を与えられ、87歳で没するまで余生を送りました。

●築堤の測量基準点

惣兵衛堤防の築堤にあたり、領主堀候の紋章にちなんだ亀甲に「上」の文字を刻みつけた「亀甲石」と呼ばれる2つの大石と、今はなき天伯森の祠と畑の中にあつた供養塚が測量の基準点として用いられました。



▲上の亀甲石、用水の取入口付近の位置を決定する基準点
▲下の亀甲石、土地の境界堤防等の距離をだす基準点

●惣兵衛の偉業を偲ぶ石碑



▲嘉永の水天宮



▲惣兵衛の供養碑

惣兵衛堤防完成から約100年後の嘉永三年(1850)に惣兵衛の偉業を偲び水天宮が建立されました。三六災害で流失してしまいましたが、奇跡的に平成5年(1993)の親水公園造成中に河床から見つかりました。

嘉永七年(1854)には、郷中総意で惣兵衛の菩薩を祀った供養碑が建立されました。

参考文献>「高森町史 上巻後編」(昭和47年1月25日) 編集:高森町史編纂委員会 発行:高森町史刊行会



▲市田村大河除絵図(高森町歴史民俗資料館所蔵)に加筆して引用

●惣兵衛堤防の特徴と大井

惣兵衛堤防は、明神橋のたもとから西南へ230間(直線距離)の地点より始まり、岸に沿って弧を描き、尾端へいくほど狭まった形状をしていました。堤防の中央と尾端には、「刎ね」と呼ばれる出っ張りが設けてあり、水を刎ね返すのに役立ちました。

また、築堤とあわせて大井(天竜井とも間夫井ともいう)と呼ばれた用水路の建設が行われ、明神橋のたもとから50間ほど上手に灌漑用水の取入口が設けられました。この大井の完成により、飯田市座光寺をへて上郷別符までの河原が美田へと変わり、巨額な石高を得るにいたりました。

惣兵衛堤防と大井の管理は、堤防より西の方角に設けられた「御小屋地」に飯田藩から首請掛かりが出張して復旧工事の監督をしたり、井番がつめて大井の水門調節を行い、村では川除世話係というものが堤防事務に関する処理を行っていたといわれています。

●語り部に聞く 惣兵衛堤防流失の時

水防活動では各々が、自分の家の庭木を全部切って木流しをして一生懸命やっておったんですよ。そうしておたらね、4時ごろにリーダーが「もうこっちへ避難せよ」「流れが弱くなるとおれたちのところへぶつかってくる」と言うんですよ。



▲惣兵衛堤防決壊を見守る人々(三十年のあゆみより)

それで見ておたら急にな、竜が川の面にわーっと出てくるような感じ、それは濁流が、川の一番の中心部の部分が盛り上がりてきたんですよ。たちまち惣兵衛堤防の上を水が乗り越えてきたんですよ。後ろは弱いですからだんだん侵食されていって、やがて。

(惣兵衛堤防に使った)石は全部オジマガハラ(土流)の石を使ったんだよね。だから、私たちが住んでいる場所は、祖先がそういうところを開拓して住めるようにして何百年かたっているわけですから、これは成り行きというか自然の摂理というか、そういうものの姿を見ておるんだということで、それはしっかりと目に焼きついているんです。(高森町在住MKさん)

メモ

●昔の土木工事では、亀甲石や要石が基準となる石として利用されていました。



参考文献>「惣兵衛川除」(平成3年3月15日) 著者:市村威人、市村栄人 企画・発行:国土交通省中部地方整備局天竜川上流工事事務所

★ 伴野堤防 (豊丘村伴野)



▲紙芝居「開墾堤防」

美濃高須藩が治める神稲村伴野の地は、対岸にできた惣兵衛堤防の刎ね返しをまともに受け、賽の河原の石積に等しい荒地と化していました。江戸より帰郷した松尾千振は、郷土復興のために堤防を造り開墾する計画を力説し、その熱意は希望を失っていた村人の心を動かしました。明治16年に「開墾組」が創設され、幾多の困難を鉄の団結力で乗り越え、築堤開田の事業を成功させたのです。



▲昭和30年頃の伴野堤防(右)と天竜川(豊丘村誌 下巻より)

●伴野堤防とは



▲松尾千振

万延元年(1860)の洪水による伴野新田の流失は三六災害を凌ぐものとなり、明治初期に連続して洪水に見舞われた村の疲弊は極みに達していました。松尾千振が率いる「開墾組」は33名の有志で構成され、荒地の所有者から無代無償収獲にて土地を借りて開田し、その収獲物を財源として築堤し、25年後に立派な水田にしてから返還するという大事業を始めました。明治19年(1886)5月の洪水によりこれまで築いた堤防のほとんどが流されましたが、開墾組からは一名の脱退者もなく再建に向いました。

明治25年2月16日、松尾千振は堤防の完成を待たずして39歳という若さで他界してしまいました。開墾組は暗闇に光明を失いましたが、松尾千振の志を絶やすことなく更に団結し事業を進めました。度々見舞われる水害にめげることなく、明治39年(1906)に堤防の大筋が完成し、内堤も美田へと姿を変え、明治42年(1909)に土地所有者への返還が行われました。

伴野堤防は、三六災害でほとんど流失し、現在は復興事業によって近代的な堤防が建設されています。



▲開墾組の功績を伝える開墾組彰功碑

●「木工沈床」とは

材木を方格に組んだ枠の中に玉石をつめて護岸の前面に沈設し堤防の根固めをする工法です。豊丘村誌によれば、粗朶沈床が天竜川の急流に適さなかったため、伴野堤防の工事指導に関わった飯田土木出張所主任の小西竜之助が、新たに木工沈床を考案したと伝えられています。



▲昭和24年頃の木工沈床による護岸工事のようす(三十年のあゆみより)

—メモ—

- 伴野地区には、開墾の碑以外にも三六災害復興記念の碑や松尾千振の偉業を讃えた碑が残されています。



参考文献>「豊丘村誌 下巻」(昭和50年12月1日)編集:豊丘村誌編集委員会 発行:豊丘村誌刊行会

★ 石川除 (飯田市座光寺)

南大島川と土曾川に挟まれた天竜川沿いの川原地帯は、洪水の度に水がつくところでした。石川除の周辺は、昔の殿様が釣りをした場所であると伝えられている塚が残っており、昔は天竜川の川筋だったと思われます。江戸時代になると市田村出砂原にできた惣兵衛堤防の刎ね返しに対抗し、対岸の伴野村に強固な堤防ができ、そこに突き当たった激流がまた対岸の座光寺村大島川渡を直撃するようになりました。そこで、村の頭分は知恵を出し合い資金を集め、飯田藩に石川除の建設を願い出て、両者折半のもとに石積の堤防が築かれました。



▲現存する石川除

●石川除とは

大島川渡への強固な堤防建設を願う村人の熱意により、216両2朱の資金が集まりました。飯田藩への石川除建設願いが聞き届けられ、文政十一年(1828)から3年間をかけて総延長128間5尺、堤防の北に大井の水門が設けられた石川除が完成しました。

その後、度々襲ってくる水害と闘いながら何度も修復がされ、現存する石川除は、明治元年(1868)に高上げ工事を施した時の姿をしています。

三六災害(1961)の時、惣兵衛堤防決壊の報が伝わって間もなく、あばれ天竜の濁流が一挙に南下してきましたが、石川除とその先に続く水神堤防副堤によって遮断され、かすみ口のところまで一時滞水し、その後天竜川へと放流されました。先人が苦心を重ねて築き上げた石川除の恩恵がいかに大きかったということが思い起こされます。



▲南大島川と天竜川の合流部



▲座光寺治水区の歴史を伝える治水碑と石川除水神

●川原新田の開発に尽力した北原米太郎

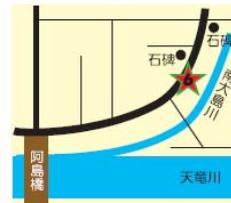
明治の頃、中羽場にいた寺地の当主北原米太郎氏は荒地になっていた石川除周辺の開墾に着目しました。同志を募り、明治24年より十数年を要して新田開発に尽くしました。その功績を讃えて「北原氏墾田碑」が石川除の西北隅に立てられています。



▲川原開墾記念碑

—メモ—

- 今もひっそりとたたずんでいる石積からは、江戸時代の立派な施工技術を確認することができます。



参考文献>「座光寺村史」(平成5年1月30日)編集:座光寺村史編集委員会 発行:座光寺村史刊行委員会

★ 弁天の大岡さばき (飯田市松尾)



▲弁天橋下流の中洲にある弁天岩

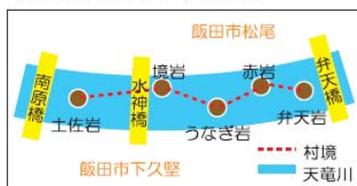


●洪水がもたらした境界争い



元文三年(1738)の洪水で天竜川の流が西寄りになり、島田村(現飯田市松尾)と対岸の虎岩村・知久平村(現飯田市下久堅)との間で境界争いが起こりました。

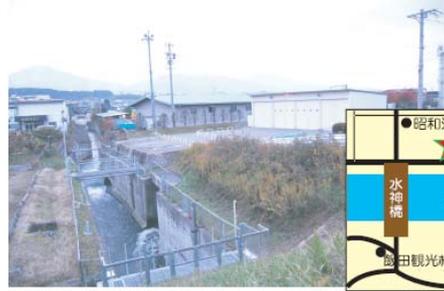
▲弁天の大岡さばき文(一部抜粋)



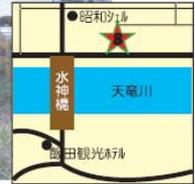
▲さばきのあとの境界

参考文獻>「下伊那川たんけんブック 天竜川とわたしたちのくらし」(平成19年4月1日) 編集:下伊那川たんけんブック編集委員会

★ 飯田市松尾地区



▲松尾地区の水防施設



●平成18年7月豪雨災害の時

飯田市松尾地区の水神橋のたもと周辺は、36災害58災害など過去に何度も水害に見舞われている地域です。平成18年7月豪雨災害においても冠水し、排水ポンプ車による支援活動が行われました。

▼排水ポンプ車の活動状況



●語り部に聞く 昭和36年災害の様子

天竜川沿いにあった工場の家が、水がついてくることによって浮きまして、徐々に本流の方へ導かれて、天竜川にかかっております水神橋に激突してこぼみじんになるという状況を見て、「これは恐ろしい」という感覚を受けました。災害後は、今でいうボランティアとして泥だしを行い先生ともども出かけました。災害を経験して思ったことは、「まずは人命」という形の中で、避難体制を準備しなくてはいけないこと、行政だけでなく住民の皆さんも巻き込んでそういう意識をいかにして持ち続けていくかが大事で、今後やっていかなければいけないところです。(飯田市勤務HKさん)

スケッチペー

Blank space for drawing or sketching.

わかしから語り継がれてきた災害のおはなしには、災害から身を守る知恵や「二度と悲しい思いをしてほしくない」という人々の願いが込められているよ! もっとくわしく知ってみよう!

学習施設 ※詳しくは、各施設へお問い合わせください。

- **中川村歴史民俗資料館**
〒399-3802 長野県上伊那郡中川村片桐4757番地
TEL: 0265-88-1005 有線: 88-1005 (中川村教育委員会)
(http://www.vill.nakagawa.nagano.jp/old_site/kankou/menu/rekisi/index.html)
- **高森町歴史民俗資料館**
〒399-3103 長野県下伊那郡高森町下市田2243
TEL: 0265-35-7083
(<http://www.town.takamori.nagano.jp/tokinoeki/index.html>)
- **天竜川総合学習館かわらんべ**
〒399-2431 長野県飯田市川路7674
TEL: 0265-27-6115
(<http://www.tenjo.go.jp/kawaranbe/>)

お願い

「天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会」では、天竜川上流域に関する過去に起こった災害の記録や地域に伝わる災害伝承を収集・整理し、そこから得た災害教訓を活かして地域の防災力向上に役立てていく試みに取り組んでいます。この資料を広く活用していただきながら、地域に現存する防災資源を再発見し、水害や災害に備える力を高めていただけたらと思います。貴重な資料、ご意見などございましたら下記連絡先にお知らせください。

<連絡先> 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会事務局
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10
国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
担当: 調査課 (電話: 0265-81-6415)

<編集> 日本工営株式会社 防災マネジメント室
※本誌の記事・写真・図表の無断転載は強く禁じます。

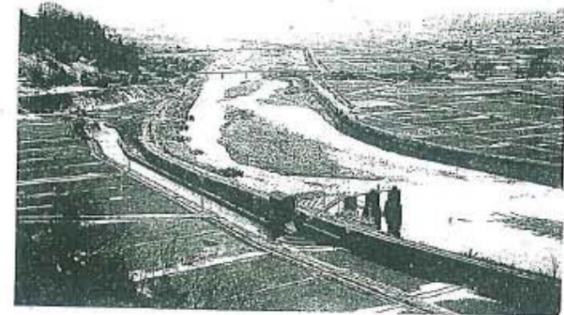
いよいよついで確認の！※

pp1-2 『長野県 県営伊那農業水利改良事業 竣工記念集（昭和39年3月、南信農業水利改良事務所）』

伊那農業水利改良事業
受益地域



航空写真
天竜川上流工事
事務所提供



頭首工と受益地域

棚澤川
柵立の碑

柵立堤防



事務所庁舎

南信農業水利
改良事務所所在地



事務所職員

伊那小学校

伊那農業水利改良事業概要一覽圖



伊那農業水利改良事業概要

項目	数	量
事業費		363,574,000円
事業量	頭首工1ヶ所	用水路9,026.76m 排水路10,470.50m
事業年度	自昭和27年度 至昭和38年度	
受益面積	6,291ha (田4,901ha 畑1,091ha 宅地30ha)	
増産石数	米換算6,538石 (米3,849石、麦3,590石)	
流域面積	254.386km ²	
全用水量	4.29m ³ /sec (左岸2.22m ³ /sec 右岸2.07m ³ /sec)	
全排水量	26.80m ³ /sec	

頭		首		工	
型式	床面コンクリート堰堤	取入水門	3門	高	4.15m
堤高	3.50m	排水路	コンクリート水路	長	138.48m
堤長	53.80m	沈砂池	鉄筋コンクリート	長	45.0m
天端巾	2.00m	分水工	鉄筋コンクリート溢流式	左岸	2.22m ³ /sec
排砂門	2門			右岸	2.07m ³ /sec

用水路		排水路	
右岸	2,879.50m	第1号	4,185.50m
内訳	サイフォン	排水路	2,315.00m
	暗渠	放水路	1,870.50m
	開渠	第2号	2,656.00m
左岸	6,147.26m	排水路	2,529.00m
		放水路	127.00m
内訳	第4号	排水路	3,629.00m
		空及練石積開渠	
		鉄筋コンクリート暗渠	
		練石積、鉄筋コンクリート甲蓋暗渠	
コンクリート巻立護道、コンクリート開渠、鉄筋コンクリート堰堤、ブロック開渠		流域面積	2,134.0町

野底地区

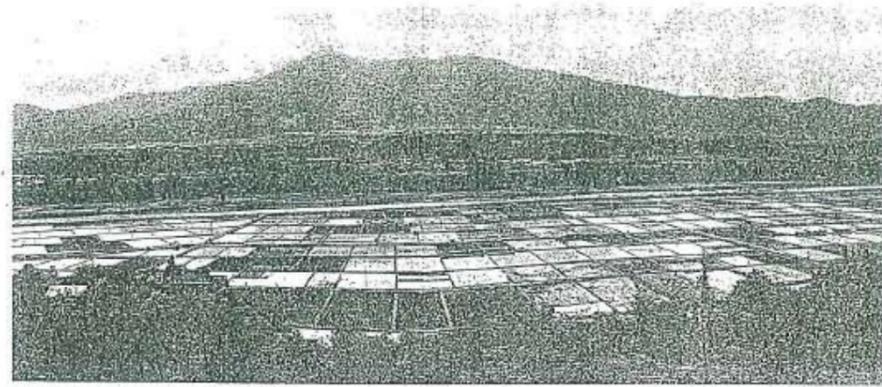
工期 { 着工 昭和27年2月
 竣工 昭和30年3月
 面積 16.97町
 事業費 408.000円

事業量
 区画整地工 16.35町
 道路工 2.640m
 排水路工 727m
 用水路工 2.137m
 暗渠工 5ヶ所
 橋梁工 2ヶ所

役員
 委員長 平沢嘉明
 工事委員 平沢史三郎 平沢善雄 平沢善市 平沢利文
 会計 平沢鶴夫 井口辰
 築地委員 平沢博邦 平沢莊南 平沢文男
 評議委員 菅沢繁雄 平沢政人
 耕地審査委員 平沢定孝 平沢右一郎



(49)



上牧地区

工期 { 着工 昭和27年2月
 竣工 昭和30年3月
 面積 50.01町
 事業費 18,405,000円

事業量 区画整地工 50.01町
 道路工 7.654m
 用水路工 8.947m
 排水路工 3.938m
 暗渠工 52ヶ所
 橋梁工 5ヶ所

役員
 委員長 岩木博愛
 工事委員 岩木房夫(28年) 岩内栄治 田中徳勝
 藤田英雄 宮原新江 岩木正致 岩木 実 岩木善文 岩木佐一 岩木房天
 会計 岩木忠雄(29年) 岩木梅雄(31年)
 築地委員 平島忠明(28年12.28日就任) 小沢正雄 岩木公雄 藤田謙一 平島徳治 田中徳勝 岩木
 善 岩木龍江 大野田三蔵(27年7月死亡) 岩木一郎(28年12月26日就任)
 評議委員 大野田昇太郎 岩木辰治 藤田豊一 田中一雄 田中正實 岩木正十 岩木内匠 岩木勝
 新地審査委員 宮原邦久 岩木誠 藤田長秀 平島盛吉 平島一興 岩内常治 岩木富貴雄 岩木徳
 水利委員 平島善照 岩木政啓 藤田五一 小沢吉之介 田中貞英 岩木徳雄 岩木邦武

(48)

出典: 土地改良沿革史(1956)

長野県上伊那土地改良区 P48, 49



昔から、この地区一帯は^{しつでん}湿田であり、^{にむさく}二毛作は不可能であつた。
然し^{はいり}排水路の完備は^{しつでん}湿田を^{かんでん}乾田としたため、二毛作が可能となり、春ともなれば附近一帯は^{くわ}麦の穂の波がうねり、地区民たちはよろこびの^{くわ}鍬を振りよになつた。

出典：土地改良沿革史(1956)
長野県上伊那郡伊那土地改良区 P89

13 土地改良記念碑

上伊那郡南箕輪村向河原

現在、碑のある向河原は、天竜川左岸で、伊那市福島と箕輪町卯の木の間に位置する。

表 「利天地」伊那土地改良区
裏 (要点)伊那土地改良事業の目的沿革成果 土地改良事業こそは実質的な土地の拡大と、地力の改善とによって、近代農業の基礎を築き、経営の合理化を計り、以て農業生産力の発展を招来する。伊那土地改良区は、昭和二十六年十二月着手、三十一年四月完成。箕輪町北小河内南小河内長岡木下三日町福与、南箕輪村久保塩井北殿南殿田畑神子柴、伊那市福島野底上牧中央区御園山寺荒井西町の二十部落の人々が延べ四十万人により、総面積二千町歩、区画整備八百町歩、暗渠八四六、排水路四十軒、農道百三十七軒、橋梁百二十八ヶ所、なお天竜川横断頭首工による二大灌漑用水路を起工、総事業費五億五千四百万円。今や農地整然、湿田は乾田化、縦横に走る農道は機械化農業を作り上げた。収穫は年一万余石の増収の実績をあげた。その喜びを永久に記念すべく一碑を建立して偉績を後人に伝えるのである。
昭和三十一年五月吉日 伊那土地改良区理事長下平晒四
題字元農林大臣広川広禎 兼額長野県知事林虎雄 理事名略
(元山寺に建立したものを、昭和46年(1971)4月移転)

出典：語りつぐ天竜川より「天竜川の川の碑」

竹入弘元
2008



国土地理院発行：1/50000地形図
「伊那」・「高遠」



学習のページ

故郷の歴史を知る
理兵衛堤防今昔

天竜川に急づく先人の足跡

豪雨で出現した理兵衛堤防

理兵衛堤防は、江戸時代の天竜川での治水技術を知る貴重な村の文化財です。しかし明治以後の度重なる洪水によって堤防の大半は埋まってしまいました。昭和58年、10号台風により堤防の一部が現れ、さらにまた、今年7月の豪雨によりその上流部の石積みが出現しました。そこで、今回は表紙部分で写真紹介しました理兵衛堤防の概要についてお話しします。

洪水との戦い

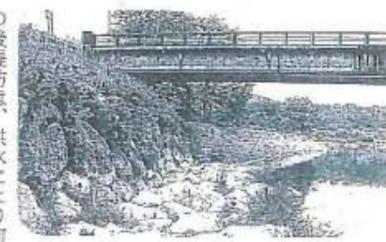
江戸時代の天竜川では、数年おきに大小の洪水がおき、沿岸の人々に大きな被害を与え、恐れられてきました。人々は、そ



松村理兵衛忠欣の肖像画

築堤に生涯をかけた理兵衛三代天竜川に前沢川が合流する地域は「田島田んぼ」と呼ばれる米どころでした。ところがひとたび川が氾濫すると見渡す限り田や畑は砂に埋まり大石や大木が散乱する無残な光景と化しました。こうした光景を目のあたりにしてきた前沢村の大地主松村理兵衛忠欣は、寛延3年(1750)一千石の耕地を守るため幕府の許可を得て自力で本格的な築堤工事に取り掛かりました。そ

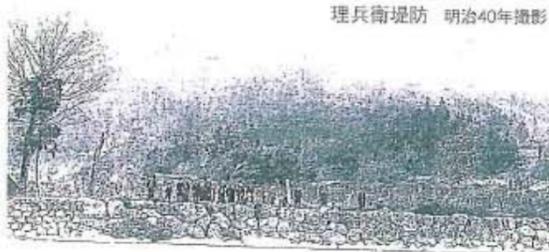
驚くほどの大規模な工事。堤防工事は大変大掛かりなもので、尾張(愛知県)から石工を招き、その指導のもとで行われました。その工法は松の生木を筏に組み水の底に沈め敷き木としそこへ大石を沈めて基礎とし、さらにその上に大石を積み



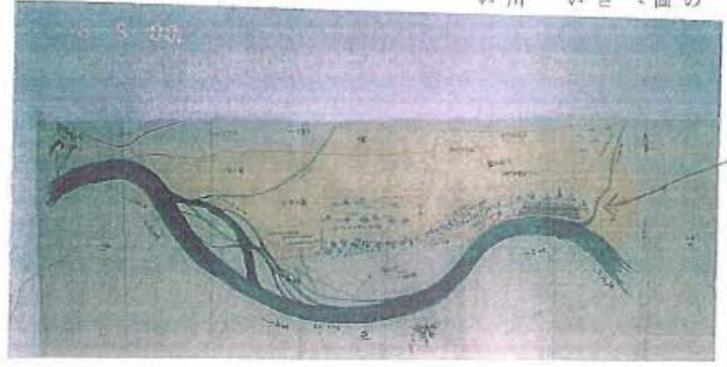
豪雨前の理兵衛堤防の様子
橋の下奥の堤防部分が流失して理兵衛堤防が出現した

重ねた堅牢なものでした。長さ180メートルに及ぶ堤防の工事は、延べ50万人余の人が従事したといわれ、また3万両を超える費用がかかったともいわれています。いま、天の中川橋のたもとの北側に忽然と現れた当時の堅固で大掛かりな遺構を見るにつけ、先人の知恵と苦労と、また生きるための力強さを感じずにはいられません。

※理兵衛堤防については、中川村誌中巻(30頁)に記されていますので一読ください。



理兵衛堤防 明治40年撮影



理兵衛堤防

54 天流功業義公明神

上伊那郡中川村片桐田島 天の中川橋西

松村理兵衛の治水事業を讃える
中川村田島、天の中川橋西に九頭竜王大権現像があるが、そこには文化六年(1809)に同時に建立した更に二基の文字碑がある。

一基の主文は、「天流功業義公明神」であり、他の一基は「大聖天王廟碑」で、共に表面に漢文が刻まれる。書いた人は、平安胤(たいらのやすたね)。その最初は、「洪範九畴 繕九鼎……」で、以下難しい文字が続くが、洪範、政治道徳の基本法則、九畴は、天下を治める九つの大法をいう。中国の太古の夏王朝の禹(う)が堯舜(ぎょうしゅん)以来の思想を集大成したものの。全文の要旨は、松村理兵衛三代の治水事業の功績を讃えたもの。治水の功績のあった松村氏を禹(中国古代の聖王。堯舜に仕えて、黄河の洪水を治め、舜の譲りを受けて、夏王朝を開いた。)には及ばないが、その下、その次にあると讃えた。

天竜川に前沢川が落ち合う田島耕地100haは、しばしば洪水に襲われた。松村忠良は、祖父忠欣(1721-1785)が、幕府の許可を得て築堤に着手し、父常邑が引き継ぎ、漸く自分の代に完成を見たので、文化六年(1809)にこれらの碑を建立した。巨大な石を運んで構築した堤防は今に残る。

それは、特に忠欣の徳を称えてのものであろう。天流功業碑公明神の神号は、文化十二年に京都の卜部公文所から贈られたという。すると、文化六年の建碑は、贈られる前のことになる



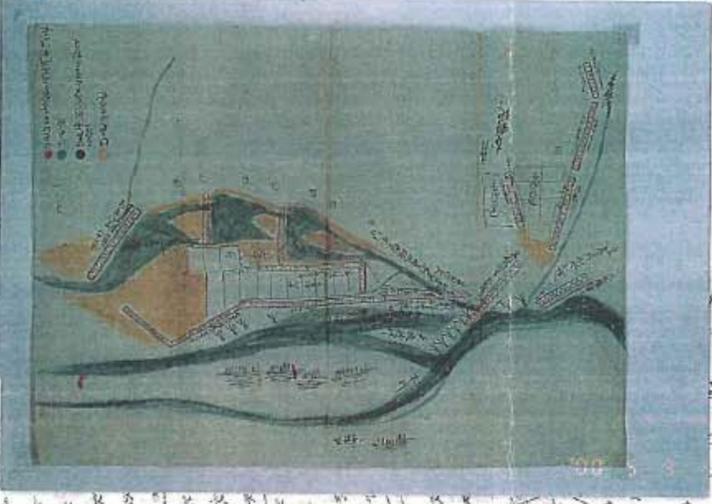
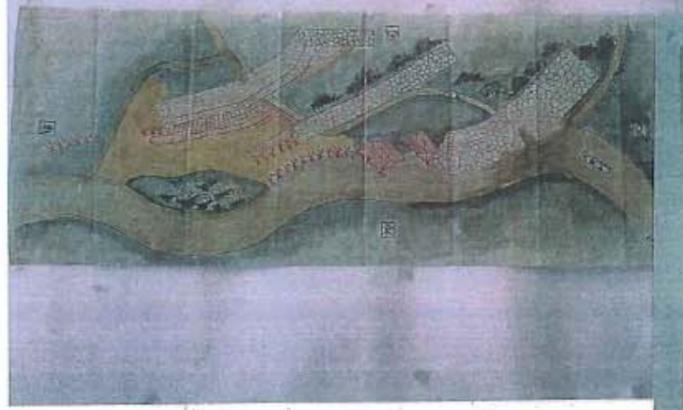
国土地理院発行: 1/50000地形図「飯田」



01 5 00

天竜川実測平面图 (明治32年測量)

6



天竜川上流域の災害の歴史

●平成18年災害

2006(平成18)年7月15日から降り始めた雨は21日まで降り続き、各地に被害が続出しました。浸水面積は約558ha、被害家屋は、床上浸水1,076棟、床下浸水1,465棟の合わせて2,541棟にも及ぶ被害となりました。天竜川本川では、田畑等の浸水被害が12地区で発生し殿島橋が落橋した他、箕輪町松島地区で堤防が決壊するなど、飯田市から箕輪町まで広範囲に被害が及びました。

天竜川各地の被害状況

水位帯の区分

- ▲ 計画洪水位以上 (河川警備の基準としている水位)
- ▲ 危険水位以上 (沿岸の恐れが及ぶ水位)
- ▲ 特別警戒水位以上 (沿岸部が避難する被害となる水位)
- ▲ 決壊水位以上 (堤防等が崩壊する水位)
- ▲ 警戒水位 (堤防等が崩壊の虞を有する水位)

伊那市 中央橋 (7/19)

箕輪町松島地区

岡谷市湊

赤羽中山

伊那市 殿島橋 (7/20)

飯島町中平

中川村小和田地区 (7/19)

飯田市川路 かわらんべ前 (7/19)

高森町 カヌー親水公園 (7/19)

(平常時)

天竜川 治水・洪水の伝承遺構見学会

～天竜川の河岸（中川村、豊丘村、高森町）の昔と今～

見学のしおり

1. 見学会の概要

(1) 開催目的

天竜川流域には、過去の災害にまつわる歴史史料、石碑・遺構・民間伝承などが多く残っている。それらの災害教訓を伝承し、地域に定着させていく手法の1つとして、中川村から高森町地域を対象に、地域に現存する天竜川の堤防や遺構、川の碑を巡りながら治水、堤防について学びます。見学会に参加することで災害意識を「気づき」から「正しい理解」、「有事の的確な判断・行動」に変化させ、水害時などを初めとした災害対応や防災活動における地域リーダーとしての知見を高めていただくことを目的としています。

(2) 開催日時

日：平成20年12月5日（金）

時：13:00～16:30（中川村歴史民俗資料館より順次見学）

(3) 見学対象

理兵衛堤防、石神の松、前亡後死三界万霊塔、惣兵衛堤防、伴野堤防、
中川村歴史民俗資料館、高森町歴史民俗資料館

(4) 見学会テーマ

「天竜川の堤防や伝承・遺構を巡り、治水や災害の知恵について学ぶ」

2. 当日の行程

(1) 行程

場所	時間 (予定)		滞在時間 (予定)	説明者
中川村歴史民俗資料館 (参加者合流)	13:00	開会	20分	・伊藤 修氏 (中川村歴史民俗資料館)
	13:20	発		
理兵衛堤防 (前沢川の川除けも含む)	13:25	着	40分	・伊藤 修氏
	14:05	発		
石神の松	14:10	着	5分	・伊藤 修氏
	14:15	発		
前亡後死三界万霊塔 (JR市田駅付近)	14:35	着	10分	・手塚 勝昭氏 ・事務局
	14:45	発		
惣兵衛堤防	14:50	着	20分	・手塚 勝昭氏 (高森町歴史民俗資料館)
	15:10	発		
伴野堤防・記念碑他	15:15	着	20分	・事務局
	15:35	発		

交流会会場 高森町歴史民俗資料館	15:45	着	45分	・手塚 勝昭氏
	16:30	閉会		

(2) 見学ポイントと講師の先生方

みどころ	概要
<p>中川村歴史民俗資料館</p>	<p>中川村にある歴史民俗資料館で、考古・民俗・礫臣の3部門の資料が展示されています。展示物の中には、理兵衛堤防に関わる文書や古い絵図などもあり、理兵衛堤防について、学ぶことができます。</p> 
<p>理兵衛堤防</p>	<p>前沢村の百姓の頭分であった松村利兵衛忠欣は、天竜川の氾濫から村の田畑を守るために、寛延三年(1750)に川除普請を幕府に願い出て、大石積みの工事を始めました。この事業は忠欣の子の常邑、孫の忠良へと引き継がれました。この三世の間に作られた堤防を理兵衛堤防と称しています。</p> 
<p>石神の松から、天竜川を望む</p>	<p>石神の松には洪水にまつわる伝説が残されています。元和の頃、天竜川は氾濫をしきりに起こしており、農民たちは困り果てていました。そこで常泉寺に寄寓していた山伏(行者)が21日間に渡って水難奈々の祈禱をしたそうです。行者は満願の日にととうとう倒れてしまいましたが、死に先立ち、手植えの松を神に手向けたのが今に残る石神の松だと云われています。</p> 
<p>前亡後死三界万霊塔</p>	<p>正徳五年乙未年(1715)十八日夜明けがたから激しく降り続いた雨は、やがて激しい泥流を伴って天竜川へ向かい、すべてを飲み込んでしまいました。このときの災害の被害者の冥福を祈るために建立された「前亡後死三界万霊塔」が今でも明照寺前に残っています。</p> 
<p>惣兵衛堤防</p>	<p>惣兵衛堤防は、高い技術を持った石工の惣兵衛によって作られた頑丈な堤防です。三六災害で決壊してしまいましたが、それまでの200年余りの永きに渡って、度重なる天竜川・大島川の氾濫を治め、肥沃な土地を守ってきました。</p> 
<p>伴野堤防・開墾彰功碑</p>	<p>神保村伴野の地では、対岸にできた惣兵衛堤防かね返しを受け、また明治初期には連続して洪水に見舞われ、村は疲弊の極みに達していました。松尾千振が率いる33名の有志「開墾組」が堤防の構築に取り掛かりました。開墾組は明治19年(1886)5月の洪水による堤防流失や、明治25年(1892)の松尾千振の他界という苦難を乗り越え、明治39年(1906)には堤防の大筋が完成しました。伴野堤防は三六災害でほとんど流失し、現在は近代的な堤防が造られましたが、付近には開墾組の功績を称える記念碑が建てられています。</p> 
<p>高森町歴史民俗資料館</p>	<p>高森町にある歴史民俗資料館で、富本銭や本学神社(下伊那郡高森町山吹)の展示、その他この地域の民俗や歴史に関する史料を展示しています。惣兵衛堤防についても、学ぶことができます。</p> 

※ 講師：中川村教育委員会 伊藤 修学芸員(理平堤防、石神の松)
 : 高森町歴史民俗資料館 手塚 勝昭館長(前亡後死三界万霊塔、惣兵衛堤防)
 : 信州大学名誉教授 北澤 秋司 先生(車中:36災害体験の語り継ぎ)

3. 見学コース



8-4. 災害教訓伝承パネル展示

①赤十字奉仕団大会

・実施計画書

伝承実施メニュー【飯田市赤十字奉仕団大会】

日時：平成20年10月10日（金） 13：00～17：00（受付12：30）

準備開始：9：30～

会場：飯田文化会館

主催：日本赤十字社長野県支部飯田市地区／飯田市赤十字奉仕団

内容：

○パネル展示

- ① 36 災害について 概要と写真
- ② 58 災害について 概要と写真
- ③ H18 災害について 概要と写真
- ④ 飯田市在住の36 災害体験者の方のお話（飯田市在住・羽場崎さんのお話）
- ⑤ 飯田に伝わる民話 子泣き石・未年の満水
- ⑥ 天竜川上流河川事務所の取り組みについて（激特事業など）

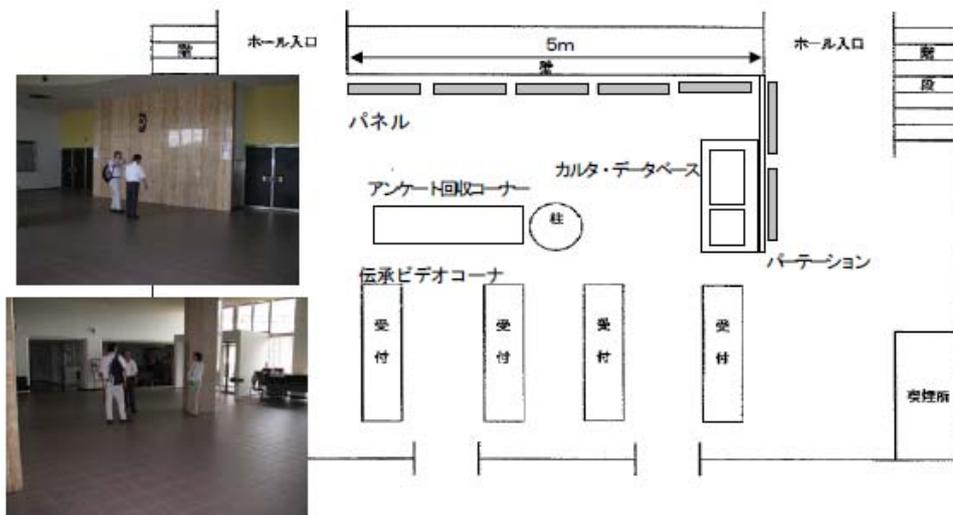
○伝承ツールの紹介

- ① 伝承カルタの紹介
- ② 災害伝承データベースの紹介

○配布資料

- ① 飯田市における民話や伝説をまとめた冊子（10 ページ程度）
- ② アンケート

※アンケートについては、伝承ブースに立ち寄ってくださった方のみ配布



○準備するもの

事務所

- ① パネル（事務所の取り組みについて） 1枚
- ② 伝承カルタ 1部
- ③ パソコン 1台
- ④ パンフレット？

日本工営

- ① パネル 5枚
- ② 伝承カルタ 1部
- ③ 伝承ビデオ 1式
- ④ パソコン 1台
- ⑤ 配布冊子 200部
- ⑥ アンケート 300枚
- ⑦ アンケート回答用筆記用具 1式
- ⑧ アンケート回収箱
- ⑨ パーテーション（1700×1170） 1枚
- ⑩ イーゼル 5個
- ⑪ 案内看板

天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会

○天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会とは？

天竜川上流域には過去の災害にまつわる歴史資料、石碑・遺構、民間伝承が非常に多く残っています。しかし災害を経験したことにより得た教訓（知恵、知識）が十分に活かされていない現状があります。

そこで、災害に備えるための教訓をどのようにして後世に語りついでいくのかを考えるために信州大学人文学部の笹本教授を座長とし、大学や博物館の有識者、自治体や防災関係団体などのメンバーからなる委員会を設置しました。昨年度から2年間にわたり全4回の検討会を行っています。今年度はいくつかの地域を対象に災害教訓を伝承するための取り組みを試行的に行っています。



平成 18 年 7 月豪雨災害を伝える新聞
H18.7.19 信濃毎日新聞

○災害教訓伝承手法検討会の様子を伝える新聞



H20.10.1 信濃毎日新聞



H20.10.1 長野日報

○お願い

「災害教訓伝承手法検討会」では、天竜川上流域に関する過去に起こった災害の記録や地域に伝わる災害伝承を収集、整理して地域防災力の向上に役立てる試みを行っております。ご自宅で保管されているような貴重な資料がありましたら下記連絡先までお知らせ下さい。

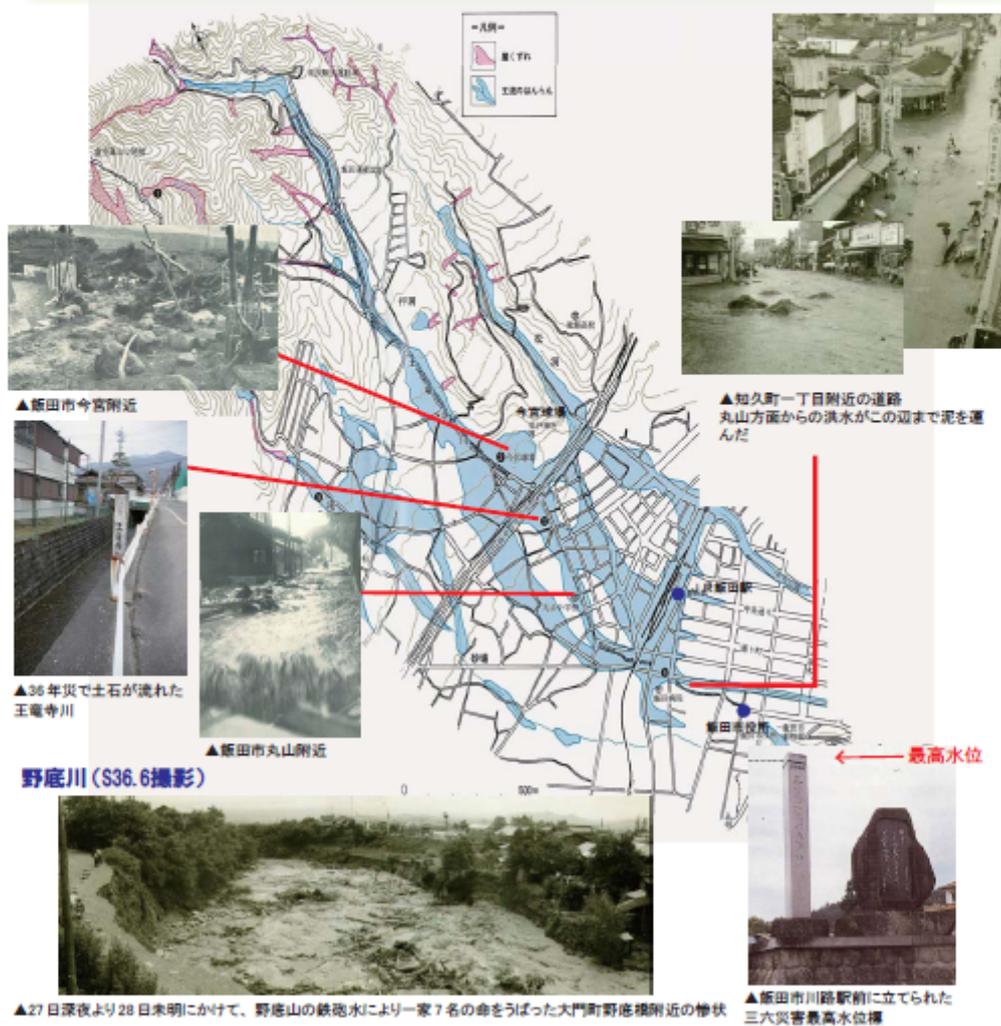
〈連絡先〉国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
担当：調査課（電話番号：0265-81-6415）

天竜川上流域の災害の歴史

●三六災害

1961(昭和36)年6月、台風の接近と梅雨前線の停滞により、伊那谷では1週間で年間平均雨量の3割を超える豪雨(飯田観測所:総雨量579mm)を記録、各地で土砂災害が発生しました。

ふり始めからの総雨量が500mmをこえた飯田市下伊那地方の山間部では土石流が多発、天竜川本流でも堤防が決壊して、人家や耕地をおそいました。死者・行方不明者130名の日本の土砂災害史上に残る大惨事となりました。



『伊那谷の土石流と洪水』伊那谷自然友の会・飯田市美術博物館発行／
『36年6月梅雨前線集中豪雨災害記録』長野県下伊那地方事務所発行 より

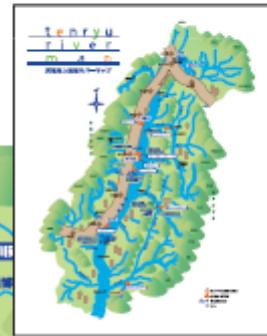
天竜川上流河川事務所

天竜川上流域の災害の歴史

●五八災害

1983（昭和58）年9月20日にグアム島の南で発生した台風10号により、本州南岸沿いに停滞していた秋雨前線が刺激され、天竜川上流域で9月27日から28日にかけて大雨になりました。総雨量は200～400mmにおよび、天竜川の流量は戦後最大を記録しました。下伊那地方の被害は、死者3人、負傷者12人、被災住家933棟におよび、三六災害と並ぶ大災害となりました。

旧上郷町の土砂災害 (飯田市上郷)



川路の洪水災害



▲飯田市川路天電鉄 床上浸水（天電鉄ホテル）



▲飯田市川路天電鉄 S58.9.29 床上浸水

竜江の洪水災害



▲飯田市竜江御滝 S58.9.29
天竜川の氾濫により桑畑、水田浸水

天竜川の災害と教訓

伝えたい災害とお話 ～飯田～

●羽場崎 のりともさん(飯田市在住)

長年地域の水防活動に取り組んできた竜水開発組合長



「昭和36年災害・58災害」について

Q. 雨の降り方やまわりの状況はどんな様子でしたか？

ドーンと降ってそれからバツと止んじゃったみたいな形で本当に実際にここまで水についっとったのは、2時間か3時間だったと思いますね。

Q. 災害に直面した時、どんな行動をしましたか？

「向こう三軒隣組」、それがやっぱり一番役にたつていうか、「あそこのおばさんが来とらんじゃないか、まだ家にいるんじゃないか」と、そういう心配で水がついっとっても行ってみてくる。

Q. 災害を経験して、どんなことを思いましたか？

目の裏に焼きつくとすると、自然災害の恐ろしさというものを目の当たりにして、自然には勝てないと、なんとかこれからは行政の面でも力を入れて守っていかなくやならんというようなことを強く感じた。

Q. 災害に強い地域への取り組みには、どんなことが必要ですか？

地域全体で雨の降り方、そういったものもある程度情報源を持っておるとのこと。



36災害当時の伊賀良の様子(昭和36年6月)



●平沢 清さん(飯田市勤務)

36年災当時、飯田市下久堅に在住、H18年災では長野県職員として復旧に従事

「昭和36年災害」について

Q. 雨の降り方はどんな様子でしたか？

ほぼ1週間ぐらいシトシトシトと雨降りが続いた後、大きな雨がどつきた、という印象がありました。

Q. 天竜川はどんな様子でしたか？

天竜川沿いにあった工場の家が、水がついてくることによって浮きまして、徐々に本流の方へ導かれて、天竜川にかかっております水神橋に激突してこぼれみじんになるという状況を見て、「これは恐ろしい」という感覚をうけました。

Q. 天竜川やまわりの様子を見て、どんなことを思いましたか？

天竜川の中を大きな石が流れるなかで、石と石がぶつかって火花が散るとかですね、ゴトンゴトンというなんともいえない地響きをたてるような音とかですね、夜昼なしに恐ろしさを感じました。

Q. 災害後、どんな行動をしましたか？

泥出しですね、今でいうボランティアとして学校で先生ともども出かけました。水だけだったようなところについては、倒れた稲をあげることによって田んぼがなんとか復活するということで歩いた記憶がある。

Q. 災害を経験して、どんなことを思いましたか？

36災害を通じて、ああいう災害が少しでも減らすことができればという思いから、こういう職場に入ったかもしれないです。行政側だけでなく住民の皆さんも巻き込んだ、そういう意識をいかに持ち続けるのが大事かという、今後やってかなくやいけないな。

災害にまつわる言い伝えと民話



子泣き石

それはなむ、いまから二百十余年もめえのなむ、正徳五年の未満水のときだつちゆうに。天地かいびやくこのかたの大水が出てなむ、あつちべた、こつちべたの山がくずれてなむ、そいつが一度にとつと天竜川におし出したんだつてな。(略) それ。そこんどどこでかい石があるずら。あれもそのときになむ、上の方からころんころんと流れてきたんだつちゆうに。

それからこの大石のそばを通るとなむ、赤んぼうの泣き声が聞こえるんだつて、かわいそうに、赤んぼうが流れて来たその大石の下になって死んでつからだつちゆうに。

赤んぼうの悲しそうな泣き声がするもんで、近所のしゆうが、石の上にお地藏さまをまつつてやったら、泣き声がピツタリやんじやつたつて。

ほうら、お地藏さまに、よだれかけがいくつも掛けたるずら、あれはなむ、赤んぼうの夜泣きや病気をなおしてもらったお礼にあげたものだに。

伊那谷の伝説
「天竜川のカワランベ」より



野底川から運ばれてきた子泣き石 (飯田市上郷別府)

災害伝承カルテNo.130



人柱

昔、南信濃の天竜川に長い橋が架かっていて。毎年毎年大水で流されてしまうので、村中の人が集まって対策を話し合っていた。ひとりの男が人柱の話をしたところ、その男は最初に言い出したという理由で人柱にされてしまった。

男の息子は悲しがり、父は矢作の人柱 キジも鳴かすば撃たれまい、と詠んだ紙を父が埋められている柱に貼り付けた。村の人たちのためになつたが、父が余計なことを喋つたためにこんなに遭わねばならなかつたと悔やんでいる息子の姿をみて村人は、橋を渡る際に息子の歌を思い出し、死んだ男のおかげで安心して渡れることをありがたがったという。

②飯田市安全大会

伝承実施メニュー【飯田市安全大会】

日時：平成 20 年 12 月 20 日（土） 13：00～15：45

会場：飯田文化会館

内容：

○パネル展示

- ① 36 災害について 概要と写真
- ② 58 災害について 概要と写真
- ③ H18 災害について 概要と写真
- ④ 飯田市在住の 36 災害体験者の方のお話
- ⑤ 飯田に伝わる民話 子泣き石
- ⑥ 天竜川上流河川事務所の取り組みについて（激特事業など）
- ⑦ 災害教訓伝承手法検討会について

○伝承ツールの紹介

- ① 伝承カルタの紹介
- ② 災害伝承ビデオの放映

○配布資料

- ① 飯田市おはなしマップ
- ② アンケート

※アンケートについては、伝承ブースに立ち寄ってくださった方のみ配布



8-5. 天竜川防災カフェ

・実施計画書

伝承実施メニュー【飯田市美術博物館 防災カフェ】

日時：平成20年11月29日（土）

時間：1回目 10：00～12：00（受付9：30）

2回目 14：00～16：00（受付13：30）

会場：飯田市美術博物館

主催：天竜川上流河川事務所／飯田市美術博物館

後援：いいだFM

事務局：日本工営（株）防災マネジメント室

定員：各30名（事前申込不要、参加無料（お茶代500円？））

事前広報：チラシの配布（地域の自治会、周辺小学校など）、いいだFMでの告知（未定）

天竜川上流河川事務所HP、飯田市美術博物館HP

内容：

【午前の部】 「気づき」→「正しい理解」

○オープニング（10分）

会の趣旨説明

○朗読会（10分）

いいだFMパーソナリティによる『飯田市に伝わる災害のおはなし』朗読会

朗読の際にはイメージ映像を流す

・濁流の子／続・濁流の子

○座談会（50分）

パネリスト：笹本 正治さん（信州大学人文学部教授）

松島 信幸さん（飯田市美術博物館顧問）

コーディネーター：いいだFMパーソナリティ

テーマ：①天竜川流域の文化と災害

②飯田市に伝わる災害のおはなし

③災害の際に私たちに出来ること

○参加者とのフリートーク（20分）

内容：事前に参加者の方から頂いた質問の中から質疑応答を行う

参加者の方の災害の体験を簡単にインタビューする

【午後の部】 「無関心」→「気づき」

○朗読会 (30分)

いいだFMパーソナリティによる『飯田市に伝わる災害のおはなし』朗読会

朗読の際にはイメージ映像を流す

お話は子どもにも分かりやすいものとし、紙芝居のように映像付きでイメージしやすいように工夫する。

- ・貝鞍が池の主と人柱がわりの墓石
- ・水に挑んだ長左衛門のおはなし

○カルタ大会 (30分)

親子参加の伝承カルタ会を行う

○防災クイズ大会 (30分)

防災に関するクイズ大会を行う

クイズは防災に関する簡単な知識を問うものとし、参加者には○×の札を配布し、札上げで回答を行う。成績優秀者には飯田おはなしマップを配布する。

【展示物】

○パネル展示

- ① 36 災害について 概要と飯田市での被害状況 2枚くらい
- ② 飯田市在住の36 災害体験者の方のお話
- ③ 飯田に伝わる民話 子泣き石・未年の満水
- ④ 飯田地域のハザードマップ
- ⑤ 防災豆知識
- ⑥ 災害教訓伝承委員会とは

○災害伝承ツールの体験コーナー

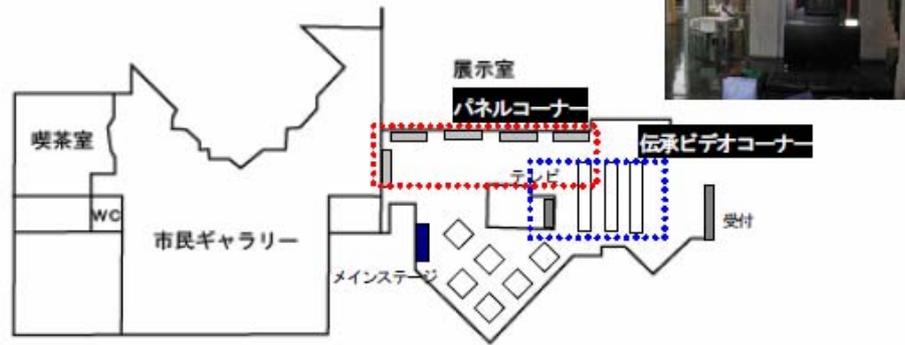
- ① 災害伝承ビデオ放映（飯田市での伝えたいおはなし）
- ② 伝承カルタ
- ③ 地域に伝わる紙芝居の展示

○配布資料

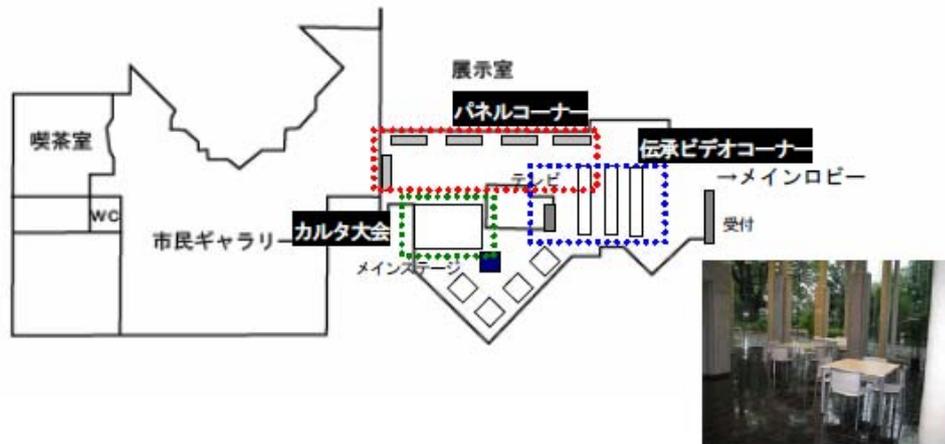
- ① 質問シート（パネリストの方に聞いてみたいこと）
- ② アンケート

○会場配置図

【午前の部】



【午前の部】



飯田市美術博物館 天竜川防災カフェ

運営計画書(案)

11/26版

目次

1. 開催概要	2
2. 内容	3
(1) 午前の部（1回目）	3
(2) 午前の部（2回目）	4
(3) 展示物	5
(4) 配布資料	5
3. 当日のスケジュール	6
4. 会場配置図	7
5. 事前広報	8
6. 関係者	8
(1) 主催	8
(2) 事務局	8
(3) パネリスト	8
7. 備品	9

1. 開催概要

(1) 開催目的

(2) 開催日時

日：平成20年11月29日（土）

時：1回目 10:00～12:00（受付：9:30）

2回目 14:00～16:00（受付：13:30）

(3) 会場

飯田市美術博物館

(4) 定員

各回30名（事前申込不要）

(5) 参加費

お茶代（コーヒー・ジュース）として400円

(6) 開催主体

主催：天竜川上流河川事務所/飯田市美術博物館

後援：飯田エフエム放送株式会社

事務局：日本工営（株）防災マネジメント室

(7) 記録・放送

防災カフェの午前の部については、当日の様子を録音し、後日、飯田エフエム放送株式会社による編集・放送が行われる予定である。（放送日程等、詳細は未定）

2. 内容

(1) 午前の部（1回目）

午前の部の目的は、参加者に朗読会やパネル展示で災害や防災について触れ、専門家による座談会に参加してもらい、自らも災害や防災について考えることで「気づき」から「正しい理解」へと、意識を深めてもらうことにある。

午前の部の内容としては以下のものを検討中。

時間	プログラム	内容	担当
9:30	受付開始	受付後、お茶（お茶菓子）のサーブをする。 質問用紙、アンケート用紙を配布する。 ※天竜川通信秋号の配布が可能か調整 開始時間までは質問用紙への記入をしてもらう。	日本工営スタッフ
10:00	オープニング (10分)	会の趣旨説明 録音と放送についての説明	説明：河崎監督官 天竜川上流河川事務所
10:10	朗読会 十座談会 (70分)	飯田市に伝わるおはなしを朗読しながら、パネリストを招いての座談会 座談会の途中で参加者にもインタビューを行う ①『飯田市に伝わる災害おはなしマップ』のおはなし朗読とイメージ映像の上映 ・おはなしは貝鞍が池の主と人柱がわりの墓石 →菅本先生から飯田市の民話・伝説と災害について解説していただく ②『飯田市に伝わる災害のおはなし』の朗読と、イメージ映像の上映 ・おはなしは『濁流の子 泥にまみれて』 →松島先生から36 災害の体験談をお話いただく →会場の方に36 災害体験談をインタビューする ③天竜川流域の石碑について 天竜川流域の石碑についてディスカッション ④その他 災害の際に私たちに出来ることなど、有事の際に役に立つ話を簡単にしていただく ※座談会の最後に、質問表を回収する。	朗読・コーディネーター： 市岡 明美氏 飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ パネリスト： 菅本 正治氏 (国州大学人文学部教授) 松島 信幸氏 (飯田市美術博物館顧問)
11:20	参加者とのフリートーク (20分)	参加者の方から頂いた質問の中から、質疑応答を行う。	司会： 飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ
11:40	まとめ		飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ
12:00	終了	アンケートを記入・提出してもらう	

※タイムスケジュールは準備等の時間を考慮し、余裕を持って組んでいます。

(2) 午前の部 (2 回目)

午後の部の目的は、参加者におはなしやゲームなど親しみやすい題材を通して災害や防災について触れてもらい、「無関心」から「気づき」へと、災害や防災について考えるきっかけを生み出すことにある。

午後の部の内容としては以下のものを検討中。

時間	プログラム	内容	担当
13:30	受付開始	受付後、お茶のサーブをする。 質問用紙、アンケート用紙を配布する。 ※受付にてカルタ会の参加希望を確認 開始時間までは質問用紙への記入をしてもらう。	日本工営スタッフ
14:00	オープニング (10分)	会の趣旨説明	説明：河崎監督官 天竜川上流河川事務所
14:10	朗読会 (30分)	『飯田市に伝わる災害のおはなし』の朗読と、イメージ映像の上映 ・おはなしは『かいくらが洲の大蛇』 ※映像は冊子に使用されている絵を用い、紙芝居のような、親しみやすくイメージしやすいものとする ※子ども達の感想を簡単にインタビュー	朗読：市岡 明美氏 飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ
14:40	カルタ会 (30分) カルタ作成体験 (30分)	親子参加の伝承カルタ会を行う。 ※参加希望者数が多い場合は、10～15首ごとに、参加者を入れ替える。 ※カルタ会参加以外の防災カフェ参加者用に、防災(伝承)カルタの作成体験を行う(親子で一首作成、台紙に唄と絵を記入等) ※作成していただいたカルタは記録に残す	詠み手： 飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ 補助：日本工営
15:10	防災クイズ大会 (30分)	防災に関するクイズ大会を行う。 クイズは防災に関する簡単な知識を問うものとし、参加者には〇×の札を配布し、札上げて回答を行う。 成績優秀者には、『でんたっちくん缶バッジ』を贈呈する。 ※参加者の注意をひき付けるため、質問がイメージしやすいような映像を使用する。 ※1, 2問、体を動かさせるような質問を用意し、参加者が飽きない工夫をする。 ※問いかけと回答の合間に、参加者へ簡単な話を振ることで、参加型イベントの雰囲気作りを心がける	出題： 飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ 補助：日本工営
15:40	表彰、まとめ	防災クイズ大会、カルタ会の成績優秀者を簡単に紹介表彰する。	飯田エフエム放送株式会社・パーソナリティ
16:00	終了	アンケートを記入・提出してもらう。 アンケート回答者には飯田おはなしマップを贈呈	

※タイムスケジュールは準備等の時間を考慮し、余裕を持って組んでいます。

(3) 展示物

会場での展示物として、以下のものを検討中。

○パネル展示

- ① 36 災害について 概要と飯田市での被害状況 2枚くらい
- ② 飯田市在住の 36 災害体験者の方のお話
- ③ 飯田に伝わる民話 子泣き石・末年の満水
- ④ 飯田地域のハザードマップ
- ⑤ 防災豆知識
- ⑥ 災害教訓伝承委員会とは
- ⑦ 天竜川上流河川事務所パネル 2枚くらい
- ⑧ いいだ FM の事業説明

○災害伝承ツールの体験コーナー

- ① 災害伝承ビデオ放映（飯田市での伝えたいおはなし）
- ② 伝承カルタ

○その他

- ① 天竜川通信
- ② 天竜川上流河川事務所発行の書籍（下伊那川たんけんブック、下伊那・ものしりブック）

※感想用のメモ帳・・・立ち寄っただけの方でも気軽に感想や意見を記入してもらえるように、展示物付近に感想用の記入帳を用意する。

(4) 配布資料

- ① 質問シート（受付で配布）
- ② アンケート（受付で配布）
- ③ 参加証用シール（受付で配布）
- ④ 『飯田おはなしマップ』（アンケート回答者に贈呈）
- ⑤ 『でんたっちくん缶バッジ』（防災クイズ大会、カルタ大会の成績優秀者に贈呈）
- ⑥ 防災グッズ ※いいだ FM 提供品（先着〇名）

3. 当日のスケジュール

当日のスケジュールを以下に示す。

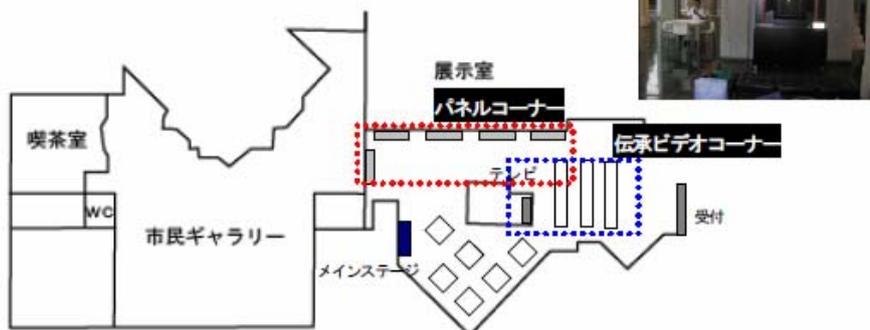
時間	所要時間	プログラム	内容/行動	担当者
7:30 8:00	or —	準備スタッフ集合	飯田市美術博物館入り口に 集合 会場設営、準備	日本工営
9:00	—	関係者集合	飯田市美術博物館1F 防災カフェメインステージ 前に集合	天竜川上流河 川事務所 飯田エフエム 放送株式会社 日本工営
9:10	10分	関係者当日打合せ	打合せ後、お茶の準備	
9:30	10分	パネリスト打ち合 わせと座談会内容 の最終確認	パネリストと座談会内容の 最終確認	笹本 正治氏 松島 信幸氏 天竜川上流河 川事務所(河崎 監督官) 日本工営(青 木)
9:30	—	受付開始	・参加者の受付、資料配布 ・お茶のサーブ	日本工営
10:00	2時間	防災カフェ・午前の 部	P3を参照	
12:00	—	防災カフェ・午前の 部、終了		
12:00	—	パネリスト対応	パネリスト対応	天竜川上流河 川事務所(河崎 監督官) 日本工営(青 木)
12:00	20分	会場の整理	会場の整理整頓	日本工営
12:20	50分	昼食休憩	昼食・休憩	
13:10	20分	関係者集合 防災カフェ・午後の 部の準備	会場の整理・準備、お茶の準 備	日本工営
13:30	—	受付開始	・参加者の受付、資料配布 ・お茶のサーブ	日本工営
14:00	2時間	防災カフェ・午後の 部	P4を参照	
16:00	—	防災カフェ・午後の 部、終了		
16:10	50分	会場の片付け	会場の片付け、荷物の梱包な ど	関係者
17:00	—	解散		

4. 会場配置図

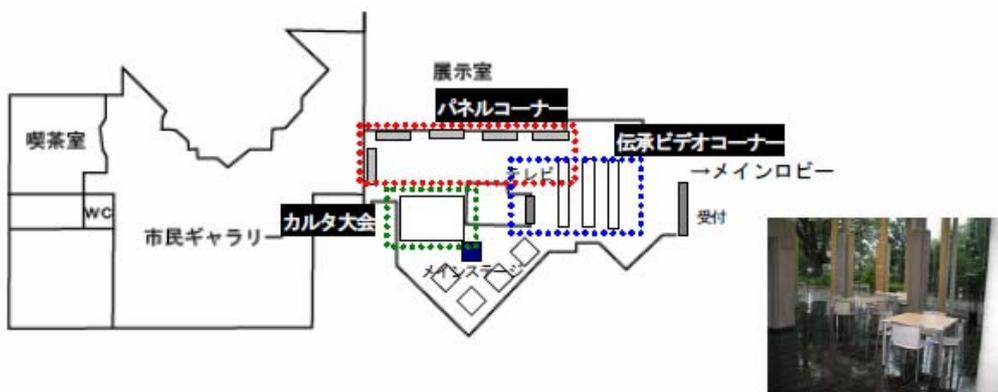
会場配置図を以下に示す。

○会場配置図

【午前の部】



【午後の部】



5. 事前広報

事前広報として、現在以下の方法を検討中。

- チラシの配布（地域の自治会、周辺小学校など）
- いいだエフエム放送株式会社の放送による告知（11/17 から 11/28 まで）
- いいだエフエム放送株式会社の番組出演による告知
- 天竜川上流河川事務所 HP
- 飯田市美術博物館 HP

6. 関係者

(1) 主催

1) 国土交通省天竜川上流河川事務所（予定）

役職	氏名
建設監督官	河崎 祐次
専門調査員	長谷部 厚志

2) 飯田エフエム放送株式会社（予定）

氏名
営業局 中村 史彦
パーソナリティ 市岡 明美

(2) 事務局

日本工営株式会社（予定）

氏名	役割
飯沼 達夫	総括
青木 佳世	副総括、関係者対応、参加者対応、会場設営
菱田 のぞみ	受付、会場設営、司会補助
島田 千亜紀	受付、会場設営、運営補助

(3) パネリスト

- 笹本 正治氏：信州大学人文学部教授
- 松島 信幸氏：飯田市美術博物館顧問

7. 備品

当日必要な備品を以下に示す。

■天竜川上流河川事務所

備品名	数量
パネル（事務所の取組みについて）	1枚
伝承カルタ	1式
プロジェクター・スクリーン	1式
天竜川通信	〇部

■飯田市美術博物館

備品名	数量
パーティーション	1式
タタミ	4畳分
マイク	1式
机・椅子	1式
イーゼル	10個

■日本工営

備品名	数量
パネル	8～10枚
伝承カルタ	2部
白紙カルタ用台紙	70枚
カルタ作成用筆記用具 ※クレパス、クレヨン、色鉛筆など	1式
大判白紙 ※カルタ作成の際に汚れ防止用に使用	10枚
伝承ビデオ	1式
パソコン	1台
飯田おはなしマップ	200部
参加証用シール	80枚
クイズ用回答札（〇×札セット）	50部
アンケート	200枚
アンケート回答用筆記用具	1式
アンケート回収箱	1個
案内看板	1式
感想用記入帳	2冊
お茶セット	1式

※お茶セットについての詳細は、後日飯田市美術博物館内の喫茶室と交渉し、決定します。

※備品については、今後の打合せで追加・数の変更の可能性があります。

■いいだFM

備品名	数量
パネル	1枚

地震、急な災害時に役立つコミュニティFM放送!

新潟県内の集中豪雨でも三条市の地元コミュニティFM放送が市民の情報源となりました。

災害に対する意識を高めよう

災害はいつやってくるかわかりません。いざという時のために、自分の命・家族の命を守るためにも、日頃から防災に対する心がけ、災害が起きたときの対応について、考えてみてはいかがでしょうか?



非常持出品	避難する時に、 まず最初に 持ち出すべきもの。 リュックサックなどにひとまとめにして、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
貴重品	現金、預貯金通帳、印鑑、免許証、権利証書、健康保険証 など
非常食品	カンパン、缶詰、栄養補助食品(調理せずそのまま食べられるものがよい) ミネラルウォーター(缶やペットボトル入りのもの)、水筒、プラスチックが紙製の皿、コップ、割り箸、缶切り、 栓抜き、乳幼児・高齢者・病人向けの食品(必要に応じて用意)など
応急医薬品	ばんそうこう、包帯、消毒薬、傷薬、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬、常備薬 など
生活用品	衣類(下着、上着、靴下など)、タオル、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、軍手、雨具、ライター、ビニール袋
その他	生理用品、紙おむつ など 携帯ラジオ(FM付き)、懐中電灯(できれば、1人につき1つ)、予備の電池(多めに用意しておく)



また、イステーションでは、災害が発生した場合などの緊急時には、通常放送を一時中断し、災害情報を放送致します。

※いざという時に持ち出す非常用袋といっしょに電池で聴ける携帯ラジオも持ち出せるようにしておきましょう。



備えようFMラジオ!!

コミュニティFM 76.3MHz

(いいだFMステーションは
あなたのライフラインです)

人と人、地域と人との ふれあい元気ラジオ

いいだFM 76.3MHz
アイステーション

株式会社エフエム放送 新潟県三条市 http://www.ilda.fm

川の豆知識

もっと身近な天竜川



天竜川の名前のいわれ

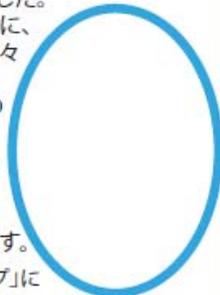
川の名前は地名に拠るものが多くありますが、天竜川はその限りではありません。「天竜」はもともと「天流（アメノナガレ）」と読んでいたようです。「竜」の文字が使われたのは、急流で、竜が天に昇っていくように見えるところからきているという説、天竜川の流れの始まりである、諏訪湖の近くにある諏訪神社に祭られている竜神からきているという説など、いくつかの説があります。



暴れ天竜と地域の知恵

大雨が降るとたびたび洪水を起こしてきた天竜川は「暴れ天竜」とも呼ばれてきました。この「暴れ天竜」を治めるために、昔から天竜川流域に暮らす人々は様々な努力をしてきました。天竜川流域には今でも当時の人々が築いた堤防の遺構や、川や水にまつわる石碑、民話や言い伝えが、たくさん残されています。これらは地域の貴重な財産です。

※詳しくは「災害おはなしマップ」に載っています。



川で遊ぶときの持ち物

川は楽しい魅力がたくさんですが、同時に危険もあります。安全に川あそびを楽しむためにも、次のような持ち物を用意しましょう。

《ライフジャケット》

自分の頭の重さを支えられるだけの浮力が必要です。頭の重さは、体重の約10分の1。ライフジャケットを用意するときは、浮力をチェックするようにしましょう。

《リバーシューズ》

川に入るときはリバーシューズを履きましょう。サンダルは滑ったり、流されたりして大変危険です。リバーシューズは滑りにくく、水が抜けやすくなっています。

※このほか、転倒時に頭を保護するヘルメットや、緊急時用の呼笛があるとよいでしょう。

天候のチェックポイント

川に遊びに行く前には、必ず天気をチェックしましょう。遊びに行く場所だけでなく、その上流域の天候をチェックすることも必要です。

例えば、

- ・天候
 - ・前日に降雨があったか
 - ・その雨量はどれくらいだったか
- などを把握するようにしましょう。



天竜川をもっと詳しく知るには

天竜川についてもっと詳しく知ることができる、こんな施設があります。川の自然や生き物、川あそびのことや、川に関わる災害のことなど、私たちの生活に深く関わっている天竜川のことを知るために、ご家族で、お友達と、ちょっと足を運んでみませんか？

天竜川総合学習館 かわらんべ

「かわらんべ講座」「防災講座」で天竜川や地域の防災について学ぶことができます。また、図書室や各種展示物、総合学習室があり、どなたでも無料で利用することができます。

砂防情報センター

天竜川支流の太田切川流域の地域特性や土砂災害について見て・触れて学習できる施設です。降雨体験車の「あめ太郎」のほか、様々な展示や模型を見ることができます。

参考：国土交通省天竜川上流河川事務所HP <http://www.tenjo.go.jp/jimushohp/index.html>



天竜川上流河川事務所

天竜川上流域の災害の歴史

●三六災害 一飯田市地域の状況一

○野底川一帯



▲ひつじ満水（1715年）の再来といわれる鉄砲水にヒン曲げられた野底橋



▲東中央通り方面の洪水のあと

○市内各地



▲知久町三丁目の泥の道



▲知久町商店街の浸水のようす

○松尾



▲弁天橋に激突する天竜の濁流、対岸は下久堅

○川路



▲濁流に孤立した川路小中学校

○伊賀良



▲伊賀良北方大瀬木部落のようす

「本当のことと思えないでせう」と
飯田市伊賀良小学校 六年 桜井千代子
（前略）家の方をみると、洋服だんすや、たたみがながれていくのが、少しみえた。たくさん家のものが流れていく。おにいさんは、「ああ、みんな家のものが、流れていく。」と言って、はん分ないていた。水は、家の方と、たけやぶの所を流れていた。
（中略）それから、おかあさんは、向こうの、となりのかじゆえんへいこうとしたら、もう水は、そこまで来ておって、足をさらわれて、おかあさんも流れて行った。うんがよく、長平さんのほうへ流れて行ったもんでよかった。もし、ほんりゆうの方へ行けば、とし子と二人で死んでいた。流れて行く時は、おかあちゃんは、いきたところはなかった。だけど、「命だけ助かってよかった。」と言っていた。（後略）
『続・濁流の子』より

(14)

どいつまで死にものぐるいになつて兄は叫んでいた。私達もひつしになつて寝た。真中に川をばさんで家のうら山とむこう山。両方の山からせめられまつマ一時はとび込められましまうかと思つた。

お宮の街社殿がつぶれて、私の家。おとなりは振動がつぶれまいった。どれどこのほらは二軒しが明りがつかなくなつた。その二軒とも雨が降るたびに避難をしてみた。

(三十六年)

泥にまみれて

1 泥まるけのおじさん

飯田市御賀良小学校六年 宮沢要二

きょうは、早く学校からかえしてくおれた。どれは雨がたくさんふるからだ。学校からかえると、おとうさんが、

「まんごの川の水をとめるぞい。」

と、いったので、いったら、すごい水になつて、ぼくはびっくりしてしまつた。どしたらおとうさんが、

「井川みたになつて、いるのぞ、ぼくはびっくりしてしまつた。どしたらおとうさんが、」

「そのふくろをさおさえておれ。」と云ったので、おさえた。
 ぞして、ふくろへ三つばかり土をつめたら、古い水がすくなくなつたので、
 ほつとした。道春ちやが、
 「上の方へ見にいかなか。」と云ったので、見に行つたら、
 「バリバリ」と音がした。見ていると、水がきたのにびくとすると、はたのほ
 うへ水がきた。おとうさんは、
 「もうこりや、まにあわんぞ。」と云った。
 ぞこへ、ゆきちやほうのおいさんがきて、
 「上があぶないぞ。」と云つたので、
 ほうほうのおいさんたちもいろいろもつていって、おとうさんだけはい
 かなかつた。おとうさんは、煙へ水がはいらないようにしていた。でも水は
 だめだった。煙へはいっぱい水がはいり、えんどうなどの野菜を、メチヤメナ
 ヤにしてしまった。あにいさんは、水がいけずにはいらないようにしていたが、
 ぞれも水でみんなぬめにしてしまった。こんど見ると、ぼくの家の上のす
 みちやが全身どろだらけにしてしまった。どこへいくのかと思つたら、ゆ
 きちやほうへたわらをもちにいって、あとの人たちも、みんなたわらもちに
 いった。まもなく、すみちやたちが、たわらをもつてきた。すみちやが、ぼく
 の家のうめの木のちよつと上へ行つた時だ。ゴリバリバリバリという音が
 きこえてきたかと思つた。ぼくのせいの五倍も六倍もあるような、松川よりも
 広いなみがびつとおしよせてきた。ぼくはもうだめかと思つて、家の中にいる

と、だれかが、
 「早くにげる。」といつたので、あわててにげた。
 ぼくのにげた時には、水がぼくのひざのきんじよまでになつていた。
 ぼくはもうひつしぐにけた。ぼくの家のがどう畑へにげた時は、松川みた
 になつていた。すみちやほうのうしごやがながれまいた。どれからもうきも
 ののままでにけた。すみちやほうのかんどうぐうのとこままでにけた。すみち
 やほうのかんどうぐうのとこままでいくと、すみちやほうのみよぢやが、あか
 んほうをだいなさながらきた。すみちやほうの上の家のかやがえんぞ、い
 しがきからおちどうになつていた。ぞのうちには、すみちやほうのおじさんがは
 こばれまきた。だれかにきいたら、
 「牛をこやからつれたさ」と思つた。だれかいた時、こやの屋根がつぶれてした
 じきになつてしまつた。どしま、じろがぐうつかおの所へはいつてきて、い
 きなとめていた。おじさんはくるしくなつてきた。おじさんは足をゆすつてみ
 たらうごいたので、足をゆすればだれが見つけにくれると思つてゆすつてい
 た。どうしまっているうちにだれかがひっぱつてくれたのでたすかつた。
 といつていた。
 「三回いきをしてしまつたので、三回じろをのんでしまつた。四回のめばしぬ
 ところだつた。どしましにどうなところをたすけてもらつた。」
 といつていた。もうかおはじろまるけた。
 (三十六年)

と言つて布団を敷いてくれたので、妹たちは敷いてくれた布団へ、私はアツチヤンとやらんごねた。アツチヤンは去年の十月生れた赤ん坊だ。とくも可愛い子だ。アツチヤンの寝顔をみていたら、なにもなやみや悲しみはなく、幸福と云ふ顔で寝ている。いいなあアツチヤンは、と思つた。おばあちやもきた。アツチヤンももうだめだ。流水マシマシ。とため息をつく。息を吸えばため息ばかり出る。私もなだかさみしくなつた。家の中を本流が流れているのだ。そして豚が五匹ばかりたすかただけで、あとはみんな流水マシマシと言つた。私は家がどうなつたのか、おかあちや運は死にやせんかと心配がたまらなかつた。

朝になりだいが人の声があるようになった。大勢の人が、初瀬屋があぶない。と叫びまわっている。

「アツチヤンアツチヤンと音をたたく、竹をかついで走る人もいる。たわら、かますなびをかきいで歩いていく。私は障子の穴からぞれをみまいた。家の少し下の方は、屋根だけ出ている家が六軒もあった。白っぽく濁つた水が湖水みたいだ。おばさんの話だと、B組の暢子さんの家は屋根まで水がついて、助けろ下さい。今村同三」

と旗に書いて立てた。警察のボートにきまもらって逃げたぞうだ。文子さんの家は家がつぶれたとわさだが、どうしているだろうか。友達の事が急に心配になつてきた。皆んな無事だといふだけだ。

あの大水は悪魔だ。人を苦しめる悪魔だと思つて、こんな人の苦しみをなく

すには、高い屋根まである孫な堤防を作らなければ、どして、家のない人たち、あつても住めない人に家を建てたも思ひたいと思つた。キヤラメルの箱が落ちまいれば、中身があるかどうかとり合ひをするという。私はこんな所まで人間をつきおとした悪魔がにくしくまたまらぬ。

これから庭の泥出しだが、耕うん機もオートバイも自転車も泥に埋つていた。泥と水と汗と悪臭の中で、みんなが力の限り働いた。しかし、雨足は激しく降り続ける。タヤみの中に天竜川、久米川はゴーゴーとものすごい音をたてて流木や石が流水、大きくうねつていて、水は更に増しどうだ。母にきわぬ花御所へ行つたら、おぼさんが、

「早くぬいでお風呂に入りな。トと言つたので入つた。

でてから牛乳をしぼるのを見ついたら、

「助けまえ、助けまえ。」

と女の人の声。家の方でするのぞ、母じやあないかと心配ならなかつた。

「そんなら心配なら、おぼさんが手伝に行つてやるは。トと言つたので、

「おねがいします。トと言つた。文ちやが、

「僕がいくもの。トと言つたら、

「文ちやはみんなといつしよに家においな。トと言つて出ていった。

不安と恐怖の一夜はあけた。若無事であつた。家へ行つたら畳の上を水が通つていた。家の横はなれの方、お蔵の方から水がびんびん入つていた。畳を流つては二階へ二十七枚上げました。後は上げられなかつたので、外へつんで

おいた。

あれから約ニヶ月たちました。一日一日と復旧工事は進んでいる様ですが、家の方は少し雨がふると安心して眠れません。ご飯もおいしくありません。みんなが安らかに眠れる夜にしま下さい。
(三十六年)

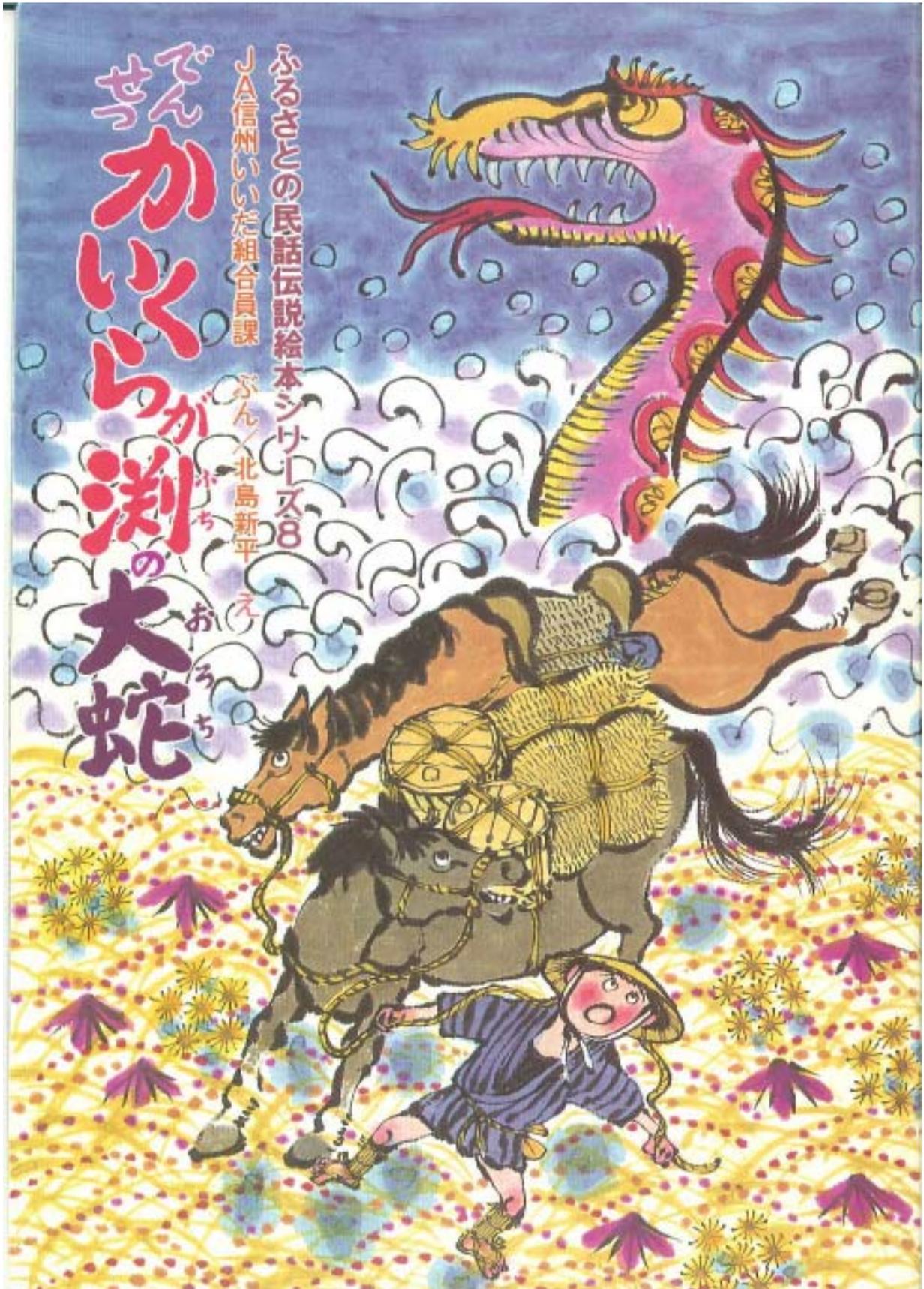
黒い爪あと

1 赤い肌

豊丘村豊丘中学校三年 酒井ナナ子

(48)

ゴ—ゴ—
地獄の底からの 悪魔の勝利の音が
私の胸に聞こえる
人間をあざ笑っているようなあの声
きのうまでの
静かだ、澄みきって、ゆるく流れわたった天竜川が、
悪魔の声と一変した。
巨大な何かに むくあざはれてるような この世界



出版趣旨

この絵本は当丁Aの「ふるさと」と農業を見直す絵本シリーズの第一弾に続く「ふるさと」の民話伝説絵本シリーズの第二弾その⑧として出版した。

昔れ「天竜」といわれた天竜川は川筋にいくつもの淵を作り大水のたびに多くの被害を与えていた。

竜丘時又の島地帯（旧川路地区）にある「かいくらが淵」は底知れぬ深さと神秘さを漂わせ、村人達の間では「大蛇」が住んでいると噂され、恐れおののかれていた。

その淵を埋め立てて新田の開墾を命じられた村人は、衆りを恐れ、いろいろの平立てを試み完成へとこぎつけた。

昭和三十六年の災害で大荒れとなり、三十年余経過した現在、天竜川治水対策事業が進められ、この地も嵩上げされ再び優良農地として生まれ

かわる事となる。
今でも土地百韻の小字名には「かいくらがぶち」と記載され、当時の名残りを留めている。
この物語りを通じ各ご家庭で話し合っただければ幸いである。

お世話になった方

宮下和男 今村定男

中田美穂 岩崎傳一

参考にした本

鳴

川路村水防史

一九九四年十一月一日

発行所 三三五五〇一

長野県飯田市青島町一丁目二丁一

信州いいだ農業協同組合

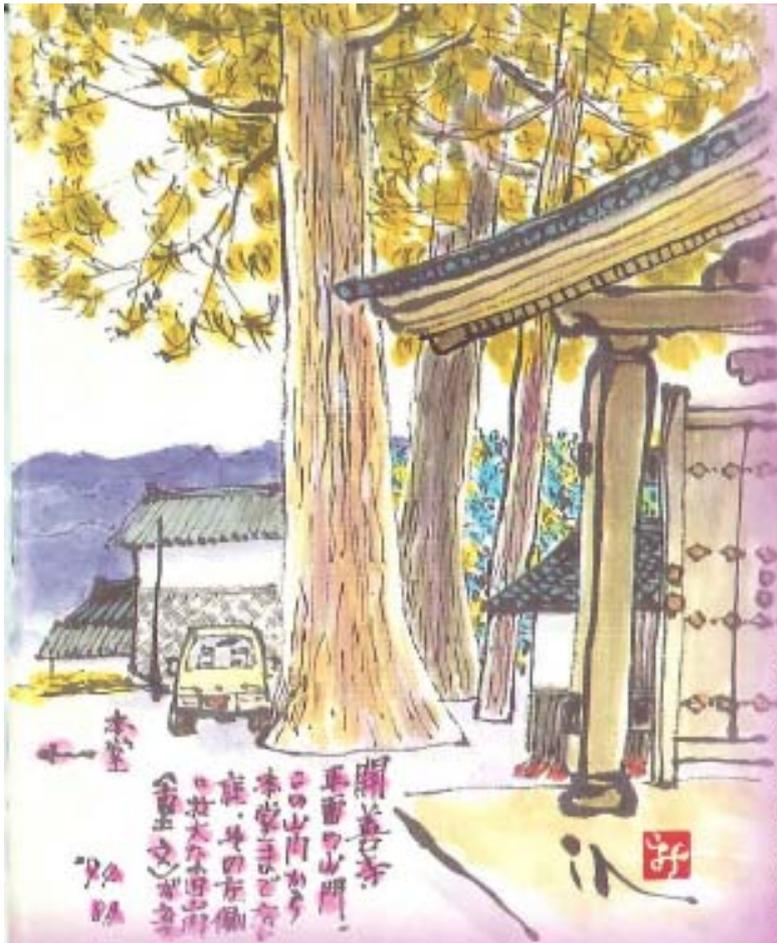
電話 〇二六五二八二一八〇〇

FAX 〇二六五二八二一八〇一

発行人 木下順一

印刷人 有限会社飯田写真印刷

龍共印刷株式会社



關善寺
手廻り山門
この山門が
本堂まで
庭・井の左側
に大きな木が
あり、その
下には
石燈籠



むかし、時又ときまたの南から上川路かみかわぢの金山かなやままでの間を天竜川てんりゅうがわが本流ほんりゅうと分流ぶんりゅうに分かれて大きな中州なかすをつくつていた。

本流には男の大蛇おとち、分流には女の大蛇メノオチがすんでいた。男の大蛇は貝男かいなみ己、女の大蛇は鞍女くらめといひ、二匹ふたひきはたがいに好き合う仲なかであった。

ところが、飯田いひだの殿とのさまは分流をせきとめて、新田しんでんをひらく工事こうじをはじめた。

「梅雨つゆに入る前に、せひとも工事を終えるように」とのきびしいお達たつしであったので、村の人々は、夜も松明たいまつをたいて、大石や土を運ぶという大がかりな工事をすすめていった。

男の大蛇貝男おとち己は、七年に一度の諏訪すわの大神様おおかみさまのお召めしで、一年間留守るすをするのがならわしで、今年ことしはちょうどその年にあたっていた。

「しばらくあわなかったから、鞍女も待っているだろうな」

諏訪の大神様から暇をもらって来た貝男己は、本流から分流の入口にさしかかったが、いつもと様子がちがう。

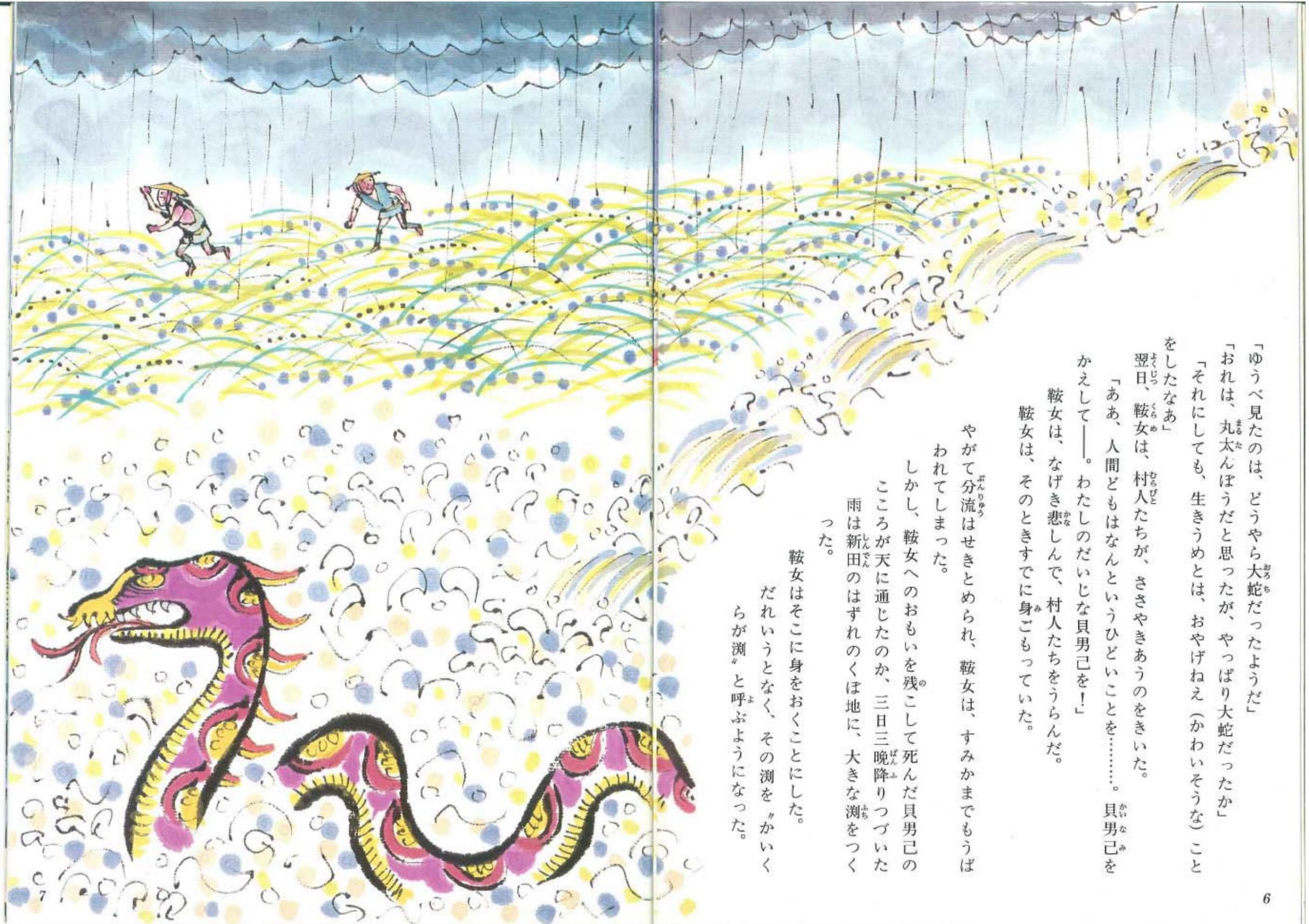
「おや？へんなところに迷いこんでしまったぞ」

貝男己は、太い材木をいく本もつきたてて、まわりを囲んだ、おりのようなところに入ってしまった。

と、いきなり頭上からいくつもの大石や、たくさんの土砂が、ようしゃなく降ってきた。貝男己は、逃げ場を失い、身動きできなくなった。

「鞍女——鞍女——」と名を呼びつづけ、
ついに息たえた。





「ゆうべ見たのは、どうやら大蛇おうちだったようだ」

「おれは、丸太まるたんぼうだと思ったが、やっぱり大蛇おうちだったか」

「それにしても、生きうめとは、おやげねえ（かわいそうな）ことをしたなあ」

翌日あした、鞍女くらめは、村人むらびとたちが、ささやきあうのをきいた。

「ああ、人間どもはなんといいひどいことを……。貝男かいなみ己おのをかえして……。わたしのだいじな貝男かいなみ己おのを！」

鞍女くらめは、なげき悲かなしんで、村人むらびとたちをうらんだ。

鞍女くらめは、そのときすでに身みごもっていた。

やがて分ぶん流りゅうはせきとめられ、鞍女くらめは、すみかまでもうばわれてしまった。

しかし、鞍女くらめへのおもいを残のこして死しんだ貝男かいなみ己おののころが天あまに通とじたのか、三日三晩さんびつさんばん降りつづいた雨あめは新田しんでんのはずれのくぼ地に、大きな淵おちをつくった。

鞍女くらめはそこに身みをおくことにした。

だれいうとなく、その淵おちを「かいらが淵おち」と呼よぶようになった。

ところが、時がたつにつれて、かいくらが湖に、あやしいわさがたつようになつた。

「夜になると、かいくらが湖のはたに、きれいな女が立つておつて、にっこり笑いながら手まねきをするんだと」「若い男しゆうが近づいていくと、知らんまに、湖の中に消えてしまふんだつてな」

最初にぎせいになつたのは、大工の次郎吉だつた。分流のせきとめ工事のとき、次郎吉はよく働いた男だつたが、その夜は酒によつていたらしい。

鼻うたまじりで帰つていくところを見たという者はいたが、かいくらが湖のあたりで消えてしまつたそうだ。つづいて百姓の源太、山師の杉平、かじ屋の権二と、つぎつぎにぎせいになつた。ふしぎなことに、その遺体は、湖に浮かぶことはなかつた。





た。
 ごう音とともに、
 その太刀に稲妻が
 走った。
 「ああっ！」
 のけぞった彦左
 衛門は、たちまち
 鞍女の長いからだ
 に巻かれ、ずるず
 ると淵の中にひき
 こまれてしまった。



麻積（今の座光寺）の里にすむ片桐彦左衛門という侍が、
 このうわさをきいて、
 「よし、拙者がその化けものを退治してくれようぞ」
 と、かいくらが淵にやってきた。
 あたりに雷鳴がとどろき、大雨になりそうな
 晩であった。
 女は、やはり現れた。

走りながら女に近づいた彦左衛
 門は、伝家の宝刀法光をぬ
 いて、エイッとはかり切り
 つけた。
 「あれーっ！」という悲
 鳴とともに、女の姿はたち
 まち大蛇と変わった。
 それは、まぎれもなく鞍
 女の姿だった。
 「うむ、化けものは大蛇
 だったのか！」
 彦左衛門が二の太刀をふ
 り下ろそうとしたときだっ

武芸で名高い彦左衛門までが、洲に消えたといううわさは殿さまの耳にもとどいた。

「そんな無気味な

洲は、うめたててしまいがよい。新田につづいて、

その分まで米もとれようぞ」

竹佐代官所のお達しで洲がうめたてられることになった。

しかし、村人たちは困った。

「あの洲には、鞍女という大蛇がすんでいて、おれたちにうらみをもっている」

「うめたてなどしたら、どんなあたりがあるかわからん」

村人たちは、しりごみをして、だれひとり工事に取りかかろうとはしなかった。



庄屋の文太夫は困ってしまった。

工事に取りかかろうとしないことを知った代官は、

「うめたてしないなら、その分に見合う年貢を今後取りたてるから、さよう心得よ」ときつく言い放った。

「こうなったら、若い娘を人柱にするしか方法はあるまい」

いったんそうきめたが、娘をもつ親たちの、おそれおのく姿を見ると文太夫はふんざりがつかない。思いあまって開善寺の和尚のところへ相談に出かけた。

和尚は、目をとじてしばらく考えていたが、やがて、数珠をもみながらこういった。

「ここはひとつ、仏さまに身がわりになってもらいましょう」

「ええっ？」

「お墓じや、墓石を人柱のかわりに洲に沈めるのじや。仏の魂によって、大蛇のうらみをしずめるのじや。わしが念仏を唱えてご先祖様を供養するから心配はいらぬ」

「それはありがたいことでございます。どうかお願い申しますだ」





ためにも生きのびて、
 このうらみは、かならず
 はらしてみせようぞ。
 だが、和尚よ、わがいとしい
 夫、貝男己の霊を吊ってくれる
 なら、わたしはおとなしく立ち
 去ってもよい」
 これを聞くと、和尚は大きくなずいた。
 淵がわきたつ中で、和尚の読経が一段と
 さえわたる。

つぎの日、大勢の村人たち
 によって、開善寺の墓地から
 墓石が運ばれ、和尚の読経の
 流れる中で、つぎつぎと淵の
 中に沈められた。ブクブクと
 あわをたてながら、あおい水
 の中へ消えていく。
 村人たちもみな手をあわせ
 て「南無阿弥陀仏」を唱えた。
 と、にわかにかきくも
 った。ゴーツともものすごい風
 が起り、淵の中から鞍女が、
 かまくびを持ちあげた。胸の
 あたりに子蛇がまきついてい
 る。
 鞍女は悲痛な声でこういつ
 た。
 「人間たちは、この淵まで
 もうめたてるつもりらしいが、
 わたしは、かわいいわが子の

やがて、ススキの穂も出はじめたころ、かいくらが洲のうめたて工事がはじまった。
その夜ふけ、洲の近くに住んでいる馬ひきの吾助が、時又の港からの荷物を二頭の馬にのせると、赤子を背負った女が近よってきた。提灯のあかりで、女の黒髪はぬれたように光り、肌はすきとおるように白かった。

「わたしは、深見の里まで行きたいのですが、どうかおたのもうします」
女は鈴を鳴らすような声でそういった。

「今日は港からの荷が少ないで、ちょうどよかった。荷をこっちのクリゲの方によせて積むから、おまえさんは、そっちのアオの方にのってくださいえ」

ところが、アオは女をみて、ヒヒーンとあやしういらないた。

「どうやら、アオはおまえさんが気に入らんらしい。深見に着くのは夜明け方だ、おとなしいクリゲにのった方がいい」
吾助は家の中にむかって

「それじゃあ、いつてくるで」と、声をかけた。

「気をつけてな」

かすれた声がかえってきた。去年の春から、腰をいたって寝ている父親だ。

くら、道を二頭の馬は





馬ひきは朝が早い。朝というより夜中だ。吾助もだいぶなれてきたと、自分でもおもっている。

去年の春のことだった。父親は腰が悪くなり、働けなくなってしまう。そこで父親は吾助を馬ひきの親方にしたので、二頭の馬ひきにしてもらった。

はじめは、重い荷物を鞍につけるのがえらかった。何度やめたいとおもったかしのれない。

それでも、このごろはだいぶなれてきた。親方も、よくしんぼうしたとほめてくれる。

道は馬の方が知っている。闇夜もあかりなしである。くがけつぶちなどは松明をつける。つかれたときは、ねむりながらあるいていることもある。なれた馬ひきでも、荷馬もろとも谷底におちることもある。

八里（約三十二キロ）の山道を夜通し歩き、深見も近くなった。そろそろ夜明けかとおもっていると、アオが「ヒヒーン」といえないた。吾助がふりむくと、クリゲの鞍には女の姿はなかった。いそいであたりを見まわすと、深見の池が白く波だっている。



ふたたび、クリゲの背に目をやった吾助は「あつ」とおどろいた。見ると、クリゲの鞍くらに小さな風呂敷ふろしきがつみかくくりつけてある。ほどいてみると、ピッカピッカの大判小判おおばんこばんがでてきた。吾助は、何がやらわからない。荷には、早稲田わせだの間屋まんなにたのみ、二頭の馬をつれて、村まで走るように帰ってきた。吾助はまず、庄屋しやうやの文太夫ぶんたゆうと村人に、事のこと一部始終いちぶしじゆうを話した。

「お前さん、そりや、きつと大蛇おほろちが淵ぶちから出ていったのよ」

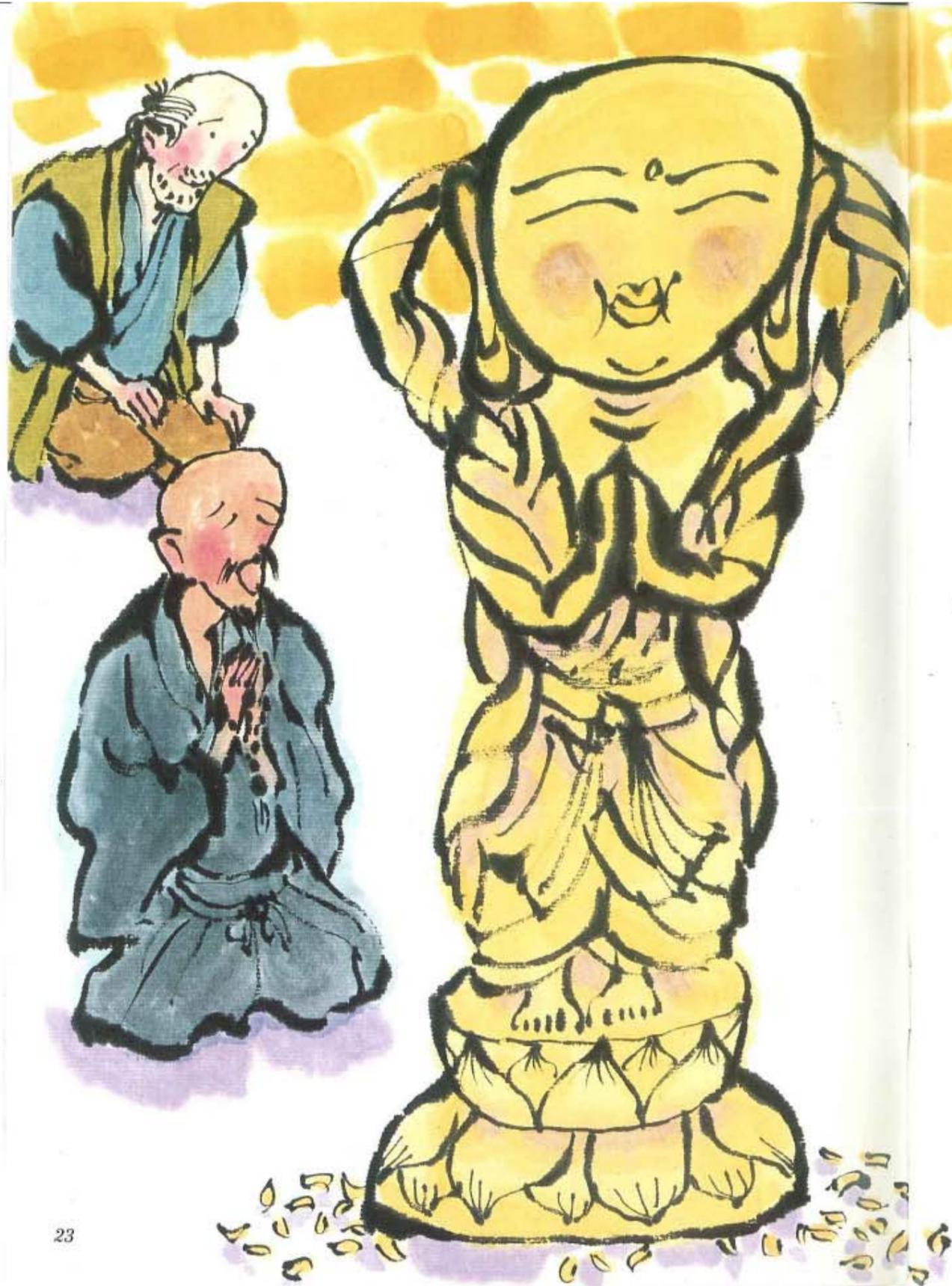
「そうだ、きつとそくに違ちがいな」

「この小判は、馬にのせてもらったお礼らいだよ」

「これでひと安心あんしんだ。大蛇おほろちが深見ふかみの池へ行つてくれたんだ」

村人たちは、そういって、胸むねをなせおろした。

それから、淵ぶちのほとりであやしげな女すめたの姿を見たという者はいなくな



吾助は庄屋の文太夫と相談して、小判を開善寺に納めることにした。

開善寺の和尚は文太夫の話聞いていたが、やがて、はたと手を打った。

「そうだ、この小判で、大蛇貝男己の供養をしてしんぜよう。それから、残りの小判で、吾助の父親をお医者様に見てもらい、薬代にも使ってもらったらどうか。もともと、これは吾助がお礼にもらったものだから」

和尚は、さっそく彫物師を呼んで、りっぱな蛇地藏を彫らせた。村人たちはそれをまつり、大蛇貝男己の霊を吊ったという。

今では淵の跡形は何も残っていないが、淵の主への思いをこめた「大蛇伝説」として、村人のあいだで永く語り継がれている。

ふるさとの民話伝説絵本シリーズ 6

あばれ用水 新井川ものがたり

JA信州いいだ組合員課 ぶん 北島新平 え



出版趣旨

この絵本は当丁Aの「ふるさとと農業を見直す絵本シリーズ」の第一弾に続く「ふるさと」の民話伝説絵本シリーズ」第二弾、その⑥として出版した。

隣り村の山村（現在の飯田市鼎地籍）を流れる松川の水を農業用水として北方村（現在の飯田市北方地籍）へ引くための物語りである。

最初に用水を作ったのは寛治元年（一〇八七）といわれ、その後何回となく崩れては掘り直していたが、弘治二年（一五五六）の大洪水で見る影もなく荒れ放題となってしまった。その荒れ果てた用水を、今回、山本長左衛門を中心として幾多の困難をも克服し、一人の力ではできない難工事を農民が一致協力して成し遂げた。

生命の源である水。水ある所に産業が拓け、文化が栄える。

全長約八キロに及ぶこの新井川用水は今でも豊かな水が流れており、主として北方、三日市場両区を中心に農業用水、生活用水として区民の生活を支え、今日の繁栄をもたらした、真に「共存同栄」そのものである。郷土愛、人間愛、又共同の力の尊さをも知る事ができる。



かつての長左衛門宅はすでに、くさむらとなり跡形もなく、付近のこけむした墓によって往時を偲ぶようですが、私たちの生き方に何かを訴えているような気がする。

史実に基づくこの物語を通し、各ご家庭で話し合っ頂ければ幸いです。

お世話になった方

宮下和男 高林正男

新井克己

参考にした本

伊賀良村誌

あばれ用水

笠松山

一九九二年十一月一日

発行所 千三九五一〇一

長野県飯田市育良町一丁目二一

信州いいた農業協同組合

電話 〇二六五二一八二八〇〇

FAX 〇二六五二一八一八〇一

発行人 木下順一

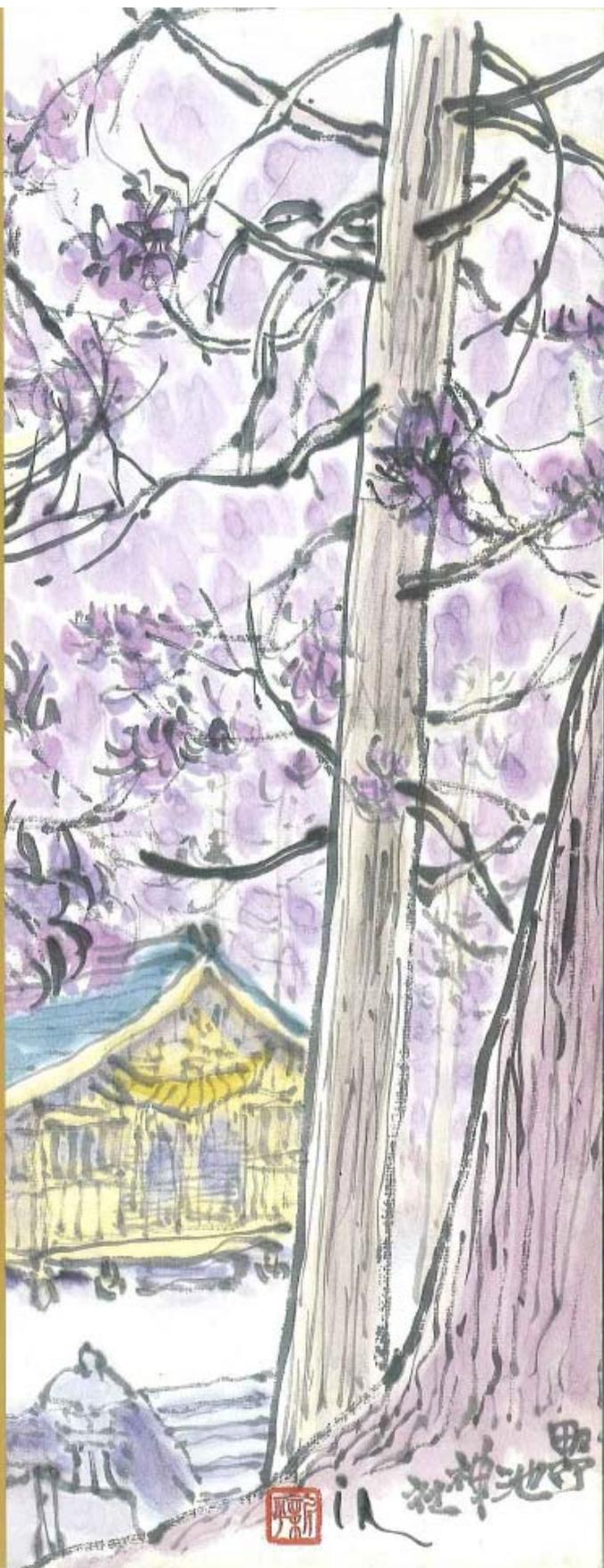
ふるさとの民話伝説シリーズ12

お香代、水神ものがたり

JAみなみ信州 ぶん／北島新平 え

かよすいじん





出版の趣旨

この絵本は当J.Aの「ふるさと」の民話伝説絵本シリーズ」その巻として出版した。

今回は、飯田市千代を流れる米川のほとりに祀られている「お香代水神」を題材に、創作を加え「自然の恵み・心の豊かさ」を主題とした。

千代地区は、山里でありながらも石高は高く先人の努力と自然の

豊かさが相俟って、村人に多くの恩恵をもたらした土地である。

洪水や土砂崩れ、日照り、水不足などに見舞われることなく、平穏無事を願う「祈り」が水神様を祀った。

現在、千代地区では、小学生による河川や道路の清掃作業、動植物の生態系を大切にされた治水、治山事業が行われ、ホタルが無数に飛び交う里としての復活が期待されている。

「人と自然との共生」について、

多くのみなさんに考えていただければ幸いです。

お世話になった方

宮下和男 清水清人
林 清隆 村松芳孝
澤柳清彦

参考にした本

千代村誌 米底案内図
澤柳清彦家（米峰）文書
一九九八年十二月一日

発行所 〒三九五〇一九二

長野県飯田市北方三八五二一三三
みなみ信州農業協同組合
電話 〇二六五二八二一八〇〇
FAX 〇二六五二八二一八〇一

発行人 木下順一

印刷 有限会社飯田写真印刷
龍共印刷株式会社

飯田市美術博物館に
1日限定カフェが登場!



★天★竜★川★
ほうさいカフェ

で学ぶ

飯田・下伊那の

天竜川のおはなし・災害のおはなし

11月29日に一日限定でオープンする天竜川ほうさいカフェでは、ゆっくりとお茶を楽しみながら、天竜川にまつわる飯田・下伊那の昔話を聞いたり、クイズやゲームを通して防災について話し合ったり学ぶことができます。天竜川の流域には災害にまつわる民話や石碑が数多く残され、今日まで伝承されています。災害という視点を通して、昔からの下伊那地方の人々の暮らしと天竜川のつながり、防災の知恵について学んでみませんか？

～プログラム～

- 午前 ◆飯田・下伊那に伝わる災害のおはなしの朗読
◆パネリストを招いての座談会
◆参加者の皆様とのフリートーク
- 午後 ◇飯田・下伊那に伝わる災害のおはなしの朗読
◇災害伝承カルタ遊び
カルタ作成体験
◇防災クイズ大会

《日時》 11月29日(土)

午前：10時～12時

午後：14時～16時

(各回開始30分前に受付開始)

《場所》 飯田市美術博物館1F

《参加費》 無料

午後の時間は ※別途飲み物代が必要です。
お子さまといっしょに
ご家族で楽しめる
内容です。

◆パネリスト◆

笹本 正治 信州大学人文学部教授

松島 信幸 飯田市美術博物館顧問

◇コーディネーター◇

市岡 明美 (飯田エフエム放送株式会社パーソナリティ)

《問合せ先》

天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会

TEL: 0265-81-6415 [国土交通省天竜川上流河川事務所 調査課]

会場: 飯田市美術博物館

TEL: 0265-22-8118

主催: 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会 後援: 飯田エフエム放送株式会社

